

重茂館遺跡群

(第6次発掘調査)

－ 東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書 5 －

2020. 8

岩手県宮古市教育委員会



1. 重茂館遺跡群第6次調査A地点出土黒曜石製石器



2. 重茂館遺跡群第6次調査A地点出土土偶



1. 重茂館遺跡群第6次調査B地点出土翡翠製品



2. 重茂館遺跡群第6次調査B地点出土縄文中期土器

序

本州最東端に位置する岩手県宮古市には現在のところ 682 か所の遺跡が確認されています。私たちは先人が残した遺跡を保護することが市民へ課せられた責務であると考えております。

一方で住宅や道路を始めとする土地開発は現代において快適な生活を送るためには不可欠な行為であります。その中で遺跡における開発行為については協議、調整を重ねることにより遺跡の保存と土地開発が調和できるよう努めておりますが、やむを得ず失われる遺跡については記録保存を目的とする発掘調査を行っているところであります。

本書は東日本大震災大津波の被害に遭われた方が住宅を再建する際に実施した重茂館遺跡群発掘調査の報告です。個人住宅の建設地において縄文時代の遺物が多量に出土しました。中でも新潟県糸魚川地方産の翡翠製品や黒曜石製の石鏃が出土したことは、迅速に発掘調査を実施した中であって特に大きな成果であったと思います。

本書が広く活用され、考古学や地域の歴史研究に寄与し、埋蔵文化財に対する関心が高まる事を切に希望いたします。

最後となりましたが、今回の発掘調査と報告書作成に御協力賜りました方々、関係機関の皆様に衷心より感謝申し上げます。

令和2年8月

宮古市教育委員会
教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は宮古市重茂地区に所在する重茂館遺跡群についての発掘調査報告書である。
2. この調査は東日本大震災罹災者個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした緊急事前調査として実施されたものである。
3. 調査に係る費用は試掘調査・発掘調査が国庫補助事業で支出された。資料整理作業については復興庁復興交付金の埋蔵文化財調査事業（A-4-1事業）で支出された。
4. 調査主体は宮古市教育委員会である。発掘調査はA地点が江口、B地点の試掘調査が布谷及び江口、資料整理・本書の執筆・編集は江口が担当し、文化課担当職員がこれを補佐した。
5. 調査座標は任意に設定したものである。レベル数値は標高値である。
6. 土層観察及び文中の色調表記にあたっては『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著1990年度版）を使用した。
7. 図版中の記号・略号の表記およびスクリーントーンの表示は以下のとおりである。
P…土器 S…石  …焼土  …胎土に繊維を含む土器
 …石器の使用面  …アスファルト様有機質付着
8. 遺物の観察は全て肉眼観察によるものである。
9. 出土遺物の分析は下記のとおりである。
黒曜石の産地同定 株式会社パレオ・ラボ
翡翠製品の鑑定 新潟県糸魚川市フォッサマグナミュージアム
10. 剥片石器の実測については一部、特徴線抽出画像を株式会社ラングに委託し作図した。
11. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目 次

序

例言

目次 図版目次 表目次 写真図版目次

1	調査経過	1
(1)	調査に至る経過	1
(2)	調査概要	1
(3)	調査体制	2
2	立地と環境	2
(1)	宮古市の位置と環境	2
(2)	重茂館遺跡群と周辺の遺跡	4
3	調査内容	9
(1)	基本土層	9
(2)	出土遺物	9

(3) 調査のまとめ	62
(4) 自然科学分析	64
写真図版	71
報告書抄録	92

図版目次

第1図 重茂館遺跡群位置図	3	第21図 A地点出土遺物13	31
第2図 地形分類図	5	第22図 A地点出土遺物14	32
第3図 遺跡分布図	6	第23図 A地点出土遺物15	33
第4図 第1次～第6次調査位置図	7	第24図 A地点出土遺物16	34
第5図 第6次調査範囲図	8	第25図 A地点出土遺物17	35
第6図 A地点全体図	10	第26図 A地点出土遺物18	36
第7図 A地点土層断面図	11	第27図 A地点出土遺物19	37
第8図 B地点全体図・土層断面図	13	第28図 A地点出土遺物20	38
第9図 A地点出土遺物1	17	第29図 A地点出土遺物21	39
第10図 A地点出土遺物2	19	第30図 A地点出土遺物22	40
第11図 A地点出土遺物3	21	第31図 B地点出土遺物1	42
第12図 A地点出土遺物4	22	第32図 B地点出土遺物2	43
第13図 A地点出土遺物5	23	第33図 B地点出土遺物3	44
第14図 A地点出土遺物6	24	第34図 B地点出土遺物4	45
第15図 A地点出土遺物7	25	第35図 B地点出土遺物5	46
第16図 A地点出土遺物8	26	第36図 B地点出土遺物6	47
第17図 A地点出土遺物9	27	第37図 B地点出土遺物7	48
第18図 A地点出土遺物10	28	第38図 B地点出土遺物8	49
第19図 A地点出土遺物11	29	第39図 B地点出土遺物9	50
第20図 A地点出土遺物12	30	第40図 B地点出土遺物10	51

表目次

第1表 A地点出土遺物観察表	52	第2表 B地点出土遺物観察表	59
----------------------	----	----------------------	----

写真図版目次

巻頭カラー写真図版1 A地点出土黒曜石製石器 A地点出土土偶	
巻頭カラー写真図版2 B地点出土翡翠製品 B地点出土縄文時代中期土器	
写真1 A地点近景1	73
写真2 A地点近景2	73

写真3	A地点土層断面1	74	写真26	A地点出土遺物14	82
写真4	A地点土層断面2	74	写真27	A地点出土遺物15	83
写真5	A地点遺物出土状況1	75	写真28	A地点出土遺物16	83
写真6	A地点遺物出土状況2	75	写真29	A地点出土遺物17	84
写真7	A地点遺物出土状況3	75	写真30	A地点出土遺物18	84
写真8	A地点遺物出土状況4	75	写真31	B地点T1・2完掘状況	85
写真9	A地点遺物出土状況5	75	写真32	B地点T16完掘状況	85
写真10	A地点土層断面3	75	写真33	B地点T8・16完掘状況	86
写真11	A地点土層断面4	75	写真34	B地点T1・2遺物出土状況1	86
写真12	A地点作業風景	75	写真35	B地点T1・2遺物出土状況2	86
写真13	A地点出土遺物1	76	写真36	B地点T1・2遺物出土状況3	86
写真14	A地点出土遺物2	76	写真37	B地点T16遺物出土状況	86
写真15	A地点出土遺物3	77	写真38	B地点出土遺物1	87
写真16	A地点出土遺物4	77	写真39	B地点出土遺物2	87
写真17	A地点出土遺物5	78	写真40	B地点出土遺物3	88
写真18	A地点出土遺物6	78	写真41	B地点出土遺物4	88
写真19	A地点出土遺物7	79	写真42	B地点出土遺物5	89
写真20	A地点出土遺物8	79	写真43	B地点出土遺物6	89
写真21	A地点出土遺物9	80	写真44	B地点出土遺物7	90
写真22	A地点出土遺物10	80	写真45	B地点出土遺物8	90
写真23	A地点出土遺物11	81	写真46	B地点出土遺物9	91
写真24	A地点出土遺物12	81	写真47	B地点出土遺物10	91
写真25	A地点出土遺物13	82			

1 調査経過

(1) 調査に至る経過

重茂館遺跡群第6次発掘調査は宮古市重茂地区において実施された東日本大震災大津波の罹災者による住宅再建に伴う緊急の発掘調査である。平成23年3月11日に発災した東日本大震災大津波以後、宮古市教育委員会（以下、市教委）は罹災者による高台への住宅再建の動きが高まる中、周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘調査に迅速に対応し、2ヶ月後の5月には田老地区檜内で緊急の発掘調査が実施されていた。当該調査地点においては発災翌月の4月に住宅再建の計画を知ることとなり、市教委は現地踏査を行った後、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「重茂館遺跡群」であることを地権者に伝えとともに、工事前に試掘調査が必要である旨を伝えた。協議の結果、市教委は試掘調査を立木伐採後の6月24日より着手したが、7月7日まで実施した結果、縄文時代の濃密な遺物包含層を確認した。このため市教委は発掘調査の措置が必要である旨を地権者に伝えたが、計画に変更が無いことから7月11日よりA地点発掘調査として調査の着手に至ったものである。

市教委には平成23年6月17日付けで住宅の建て主である届出者から文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘届出書が提出され、市教委は同年6月22日付けで岩手県教育委員会に進達している。これに対し、岩手県教育委員会からは同月24日付けで工事着手前に試掘調査が必要とする旨の通知があり、市教委はこれを7月1日付けで届出者に伝達している。

発掘調査の報告にあたっては、市教委は平成23年7月26日付けで文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の実施を岩手県教育委員会に報告している。

なお、本報告書には同時期に実施したB地点の試掘調査結果を掲載した。B地点はA地点と同じく東日本大震災大津波の罹災者による住宅再建を調査原因とするもので、A地区から東約100mの地点に位置する。平成23年8月3日～9月22日に試掘調査を実施した結果、発掘調査には至らなかったが、遺物が多量に出土したことから本報告書に掲載するものである。

(2) 調査概要（第6図）

A地点、B地点の概要は以下のとおりである。

地点名	調査場所	調査原因	調査面積	調査期間
A地点	宮古市重茂第2地割105	東日本大震災罹災者による住宅建築	89㎡ (対象面積300㎡)	試掘：平成23年6月24日～平成23年7月7日 発掘：平成23年7月11日～平成23年8月31日 整理：平成24年1月5日～平成24年2月29日 平成30年4月9日～平成31年3月27日 平成31年4月9日～令和2年3月31日 報告書刊行：令和2年8月
B地点	宮古市重茂第3地割20、21、22、23	東日本大震災罹災者による住宅建築	243㎡ (対象面積1,000㎡)	試掘：平成23年8月3日～平成23年9月22日 整理：平成24年1月5日～平成24年2月29日 平成30年4月9日～平成31年3月27日 平成31年4月9日～令和2年3月31日 報告書刊行：令和2年8月

(3) 調査体制

平成23年度

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	佐々木 敏夫
調査統括	竹下将男	宮古市教育委員会	文化課長
事務担当	高橋憲太郎	〃	文化課副主幹
調査員	鎌田祐二	〃	文化課主査
	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員（B地点調査担当）
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員
	江口邦泰	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員（A地点、B地点調査担当）
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員

平成31年度（令和元年度）

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二
調査統括	藤田浩司	宮古市教育委員会	文化課長
事務担当	安原 誠	〃	文化課埋蔵文化財センター所長
調査員	江口邦泰	〃	文化課埋蔵文化財センター主任文化財調査員（整理担当）
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査員
	鹿島直樹	〃	文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財発掘調査員
	赤沼みちる	〃	文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財調査員

発掘調査作業員 在原正利、伊藤勝夫、金澤勝幸、木村常男、木村洋一、小成鷹介、小林功行、小松義一、坂本 晃、佐々木健太、佐々木亨、田中俊光、鳥居義文、野崎秀人、樋ノ浦咲子、宝代地宏二、前川和幸、三田地健、三浦 功、村木幹子、山崎英男、山崎日雄、山根保行、

資料整理作業員 一関順子、伊藤勝夫、上野律子、扇田正義、菅野真実、坂下勝吉、佐々木ゆかり、平井巨介、三浦純子

2 立地と環境

(1) 宮古市の位置と環境（第1図、第2図）

岩手県宮古市は三陸沿岸中部に位置し、北は岩泉町、西は盛岡市に隣接している。市の東端部に位置する鮎ヶ崎は本州最東端として知られている。平成17年には旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併し、平成22年には旧川井村が編入している。平成23年3月には東日本大震災大津波で甚大な被害を受け、現在は復興事業がすすめられている。

宮古市の沿岸部は隆起海岸が続き、海食により形成された自然景観は観光地として優れ、浄土ヶ浜は国の名勝に、三王岩は県の天然記念物に指定されている。市内を流れる河川は市の中央部を流れる



第1図 重茂館遺跡群位置図

閉伊川、宮古湾最奥部へ流れる津軽石川などがあり、河川流域の樹枝状に開析された丘陵地には数多くの遺跡が立地している。市内の地形は山地と丘陵地で占められている。山地は川井地区では標高1,000m級の大起伏山地が広がっているものの、山地帯の多くは重茂半島にある月山(455m)や十二神山(731m)を代表する小起伏山地からなる。丘陵地は閉伊川流域の千徳丘陵や八木沢丘陵、津軽石川流域の豊間根丘陵、隆起海岸により形成され、小河川が流れて開析された小本丘陵などがある。小本丘陵は市の北部に位置し、国の史跡である崎山貝塚を代表とする大中規模の遺跡が多数所在している。

(2) 重茂館遺跡群と周辺の遺跡(第3図～第5図)

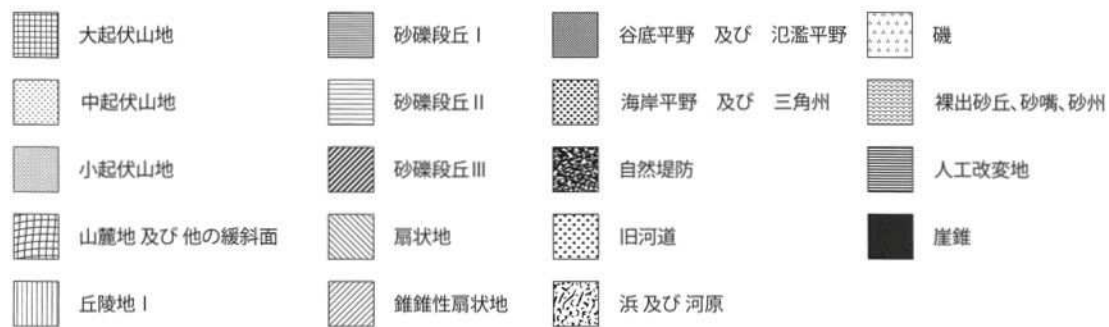
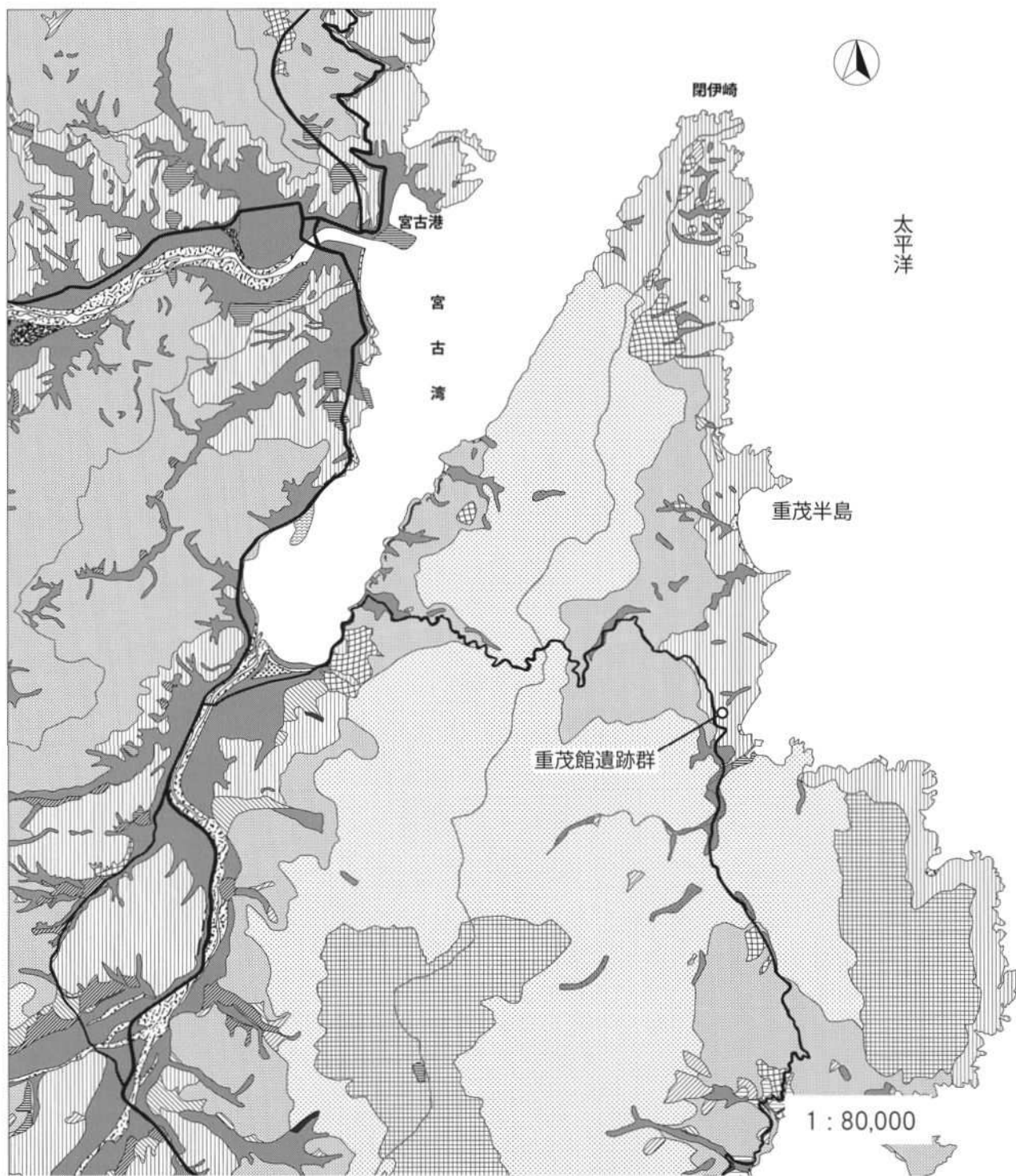
重茂館遺跡群は鮎ヶ崎を本州最東端とする重茂半島の東岸のほぼ中央に所在する遺跡である。沿岸部に形成された鮎ヶ崎丘陵上に位置し、主に縄文時代、古代の集落跡と中世の城館である重茂館からなる重茂地区を代表する複合遺跡である。遺跡の範囲は東西0.8km、南北約1kmと広大であるが、『宮古市遺跡分布調査報告書1』には、4ヶ所の遺跡が密集し各遺跡の範囲が確定し得ないことから、一括りで「重茂館遺跡群」と呼称していると記されている。

今回の第6次調査区は重茂漁業協同組合から南西に約150m離れた地点に位置するが、これまでの5次にわたる発掘調査は当調査地点から300～400mの範囲で実施されている。平成2年に実施された第1次調査は当調査区から西100mの地点で実施され、縄文時代中期大木7a～8b式の土器や板状土偶が出土している。平成21年に実施された第2次調査は当調査区から北西300mに所在する市立重茂小学校の新校舎建築に伴い実施され、縄文時代早期の遺物包含層が確認されている。平成24年に実施された復興事業に伴う第3次調査は第2次調査地点の南東に隣接し、縄文時代の土坑7基を検出した他、第2次調査区から続く縄文時代早期の遺物包含層を確認している。平成25年に実施された復興事業に伴う第4次調査は当調査区から南西400mの地点で実施され、丘陵下部で縄文時代中期の竪穴住居跡3棟、平安時代の竪穴住居跡3棟、陥し穴4基を検出し、丘陵上部で平安時代の竪穴住居跡6棟、竪穴状遺構1基を検出し、縄文土器・土師器・鉄製品が出土している。平成27年に実施された第5次調査は当調査区から西140m、重茂漁業協同組合の北に隣接する開けた台地上で実施され、縄文時代中期の竪穴住居跡の炉跡4基、土坑1基、遺物包含層を検出し、縄文時代前期～晩期の土器、石器、土偶などが出土している。

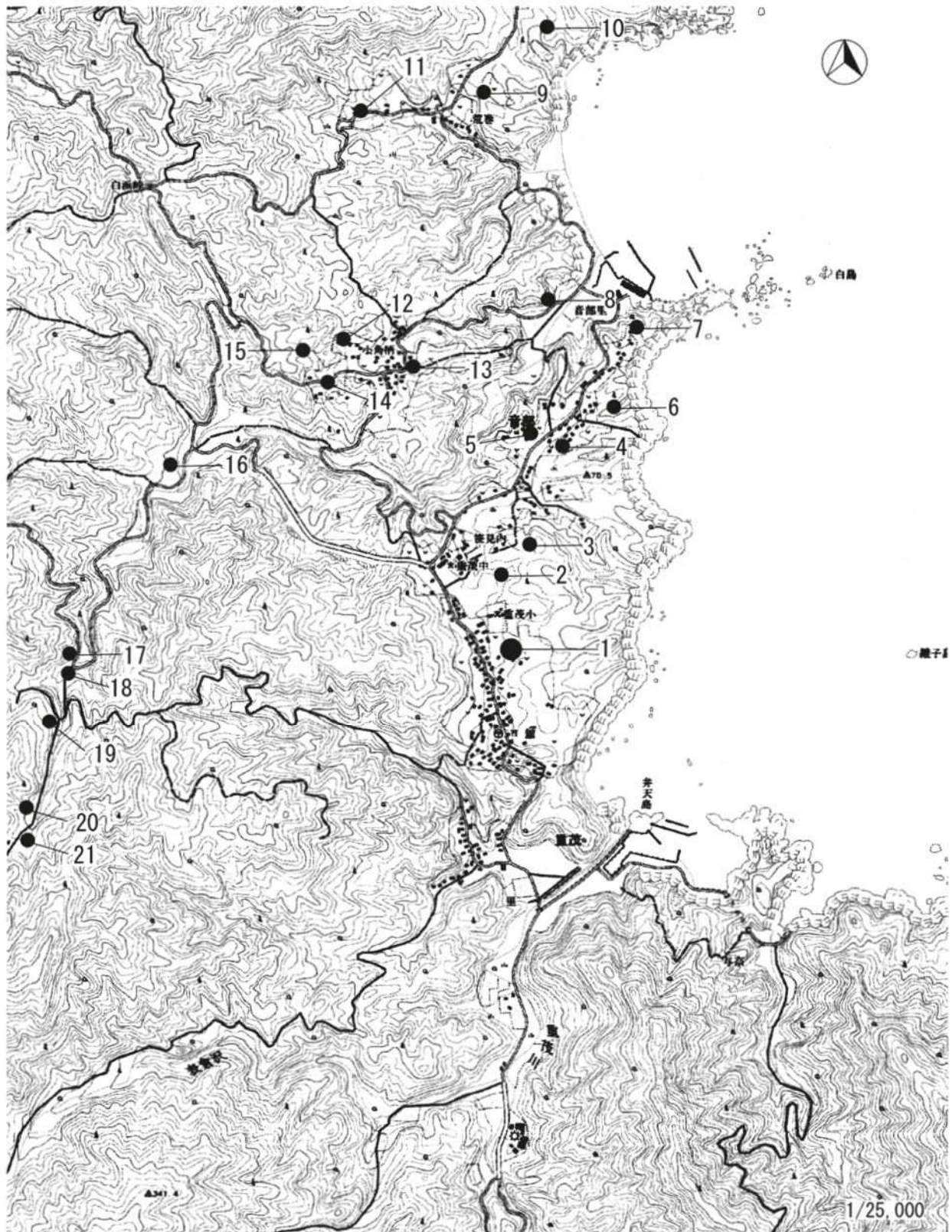
遺跡名の由来となる「重茂館」はこれまでのところ調査歴は無いが、遺跡南東部にある平坦地において空堀と郭、砦からなる山城が確認されている。また、当地区名が「館」と表記されることから城館跡の存在を窺い知ることができる。館主は重茂氏とされるが、創建時期を含め不明な点が多い。

参考文献

- 宮古市教育委員会 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』
- 宮古市教育委員会 1992 『重茂館遺跡群―第1次調査報告書―』
- 宮古市教育委員会 2012 『重茂館遺跡群―第2次発掘調査報告書―』
- 宮古市教育委員会 2016 『重茂館遺跡群―重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―(第3次調査)』
- 宮古市教育委員会 2016 『重茂館遺跡群―重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―(第4次調査)』
- 宮古市教育委員会 2016 『重茂館遺跡群―重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―(第5次調査)』

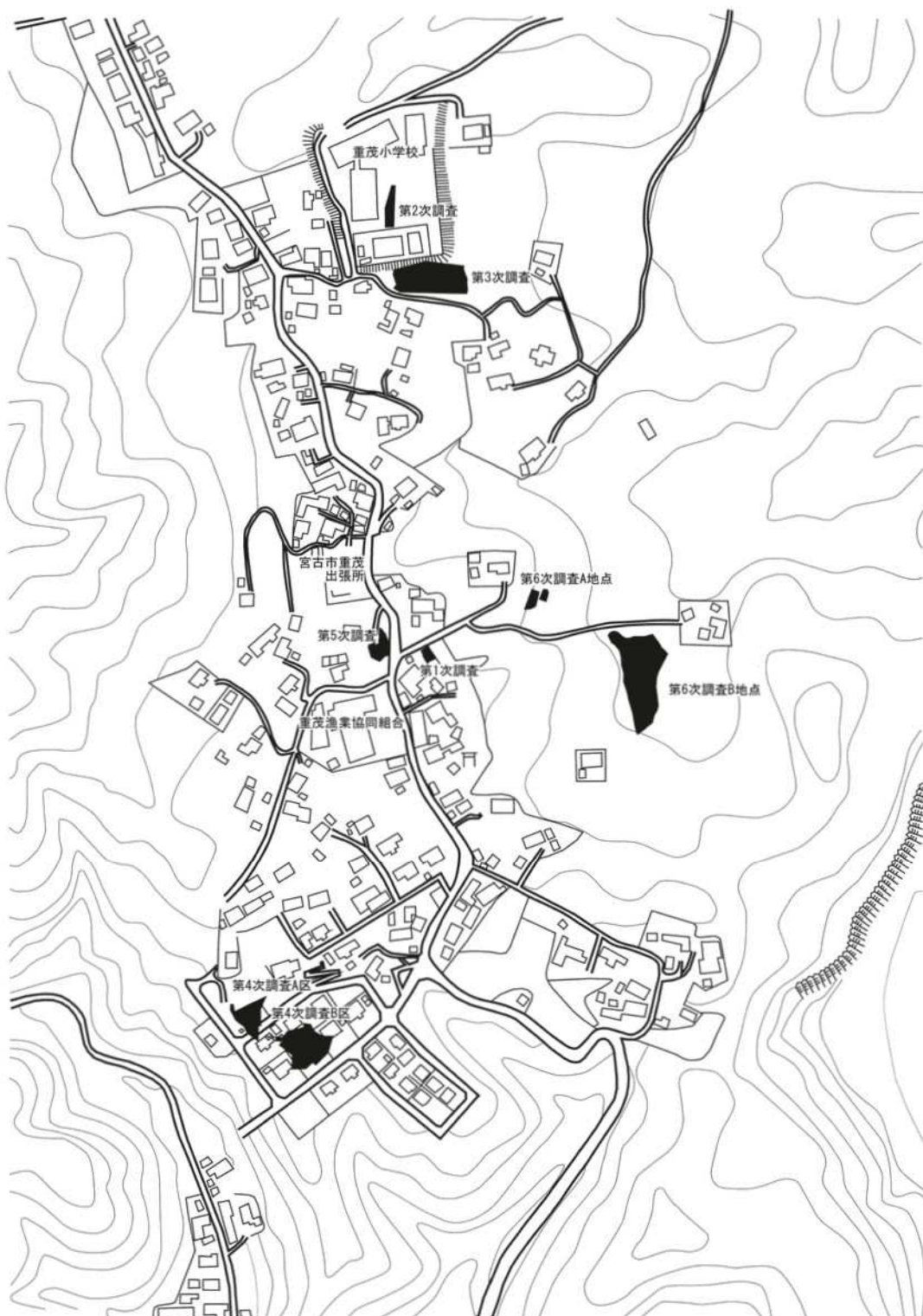


第2図 地形分類図



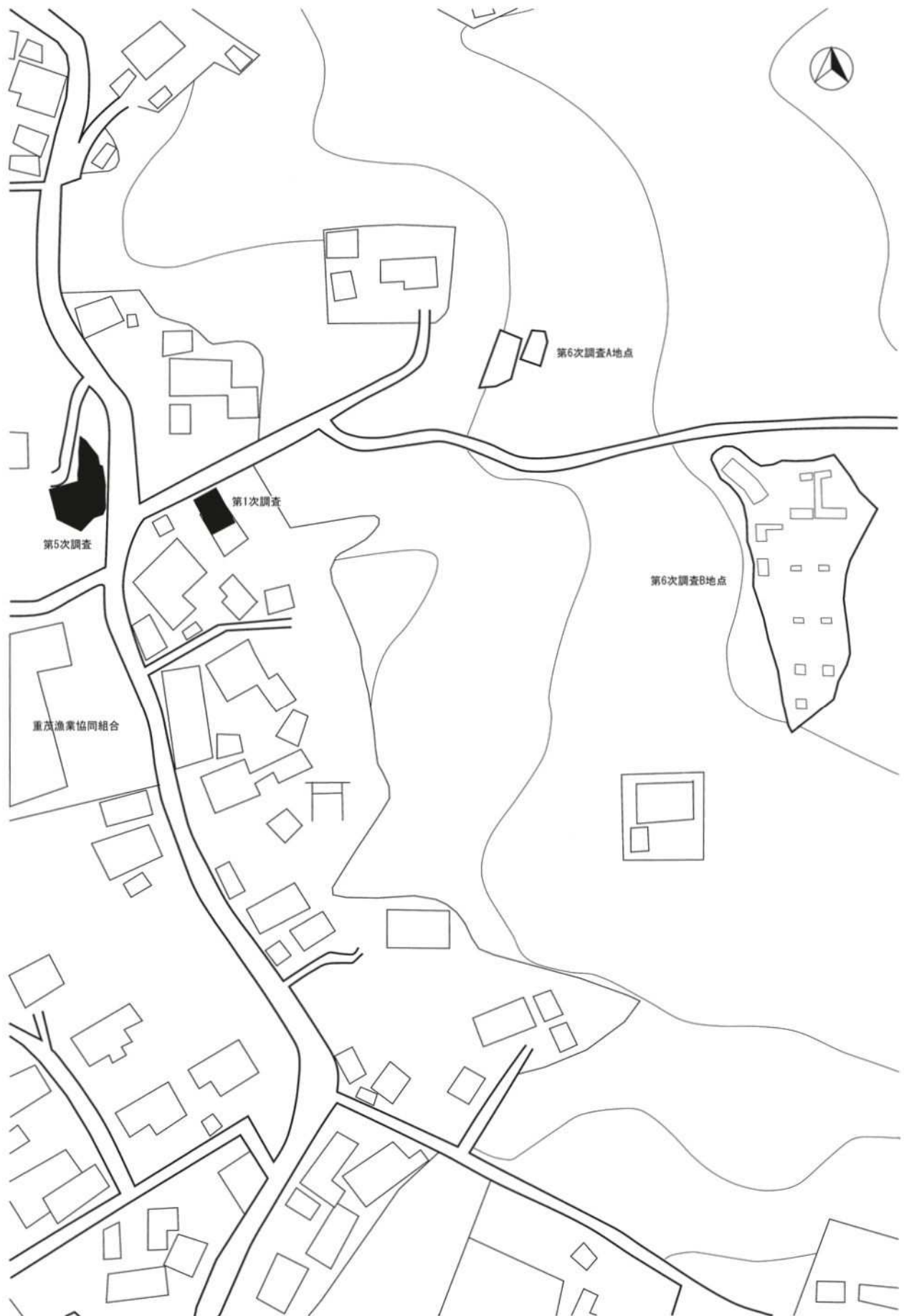
- 1、重茂館遺跡群 2、笹見内Ⅰ 3、笹見内Ⅱ 4、音部谷地頭Ⅲ 5、音部追磯 6、音部谷地頭Ⅱ
 7、音部谷地頭Ⅰ 8、音部大下 9、荒巻Ⅰ 10、重茂小平Ⅰ 11、荒巻Ⅱ 12、小角柄Ⅱ 13、小角柄Ⅰ
 14、小角柄Ⅲ 15、小角柄Ⅳ 16、熊の平 17、麦生野Ⅰ 18、麦生野Ⅱ 19、麦生野Ⅲ 20、麦生野Ⅳ
 21、麦生野Ⅴ

第3図 遺跡分布図



調査次数	検出遺構	調査面積	調査年度	調査地点	報告書
第1次調査	縄文時代包含層後期	294㎡	1990年	重茂第2地割館116	宮古市埋蔵文化財調査報告書31 1992年刊行
第2次調査	縄文時代小土坑群・遺物	202㎡	2009年	市立重茂小学校地内	宮古市埋蔵文化財調査報告書79 2012年刊行
第3次調査	縄文時代小土坑・遺物包含層	171㎡	2012年	重茂第2地割12番	宮古市埋蔵文化財調査報告書87 2017年刊行
第4次調査	縄文時代 竪穴住居跡3棟・陥し穴4基・土坑 平安時代 竪穴住居跡9棟・竪穴状遺構1基・土坑	3,800㎡	2013年	重茂第1地割	宮古市埋蔵文化財調査報告書88 2017年刊行
第5次調査	縄文時代前期～晩期	235㎡	2015年	宮古市重茂1地割59-4、59-6	宮古市埋蔵文化財調査報告書89 2017年刊行
第6次調査	縄文時代 遺物包含層	A地点 89㎡ B地点 243㎡	2011年	A地点 重茂第2地割105 B地点 重茂第3地割 20, 21, 22, 23	宮古市埋蔵文化財調査報告書112 2020年刊行

第4図 第1～第6次調査位置図 (1:5,000)



第5図 第6次調査範囲図 (1 : 1,500)

3 調査内容

(1) 基本土層 (第7図・第8図)

調査地点はA地点が元は斜面で盛土により段状に造成された山林、B地点がA地点よりも6m低い丘陵下の裾にあたる緩やかな斜面及び平坦面である。基本土層は以下のとおりである。

・A地点 (第7図)

- I層 調査区全体を覆う表土層であり、平坦にするための盛土層である。道路に接した調査区の南西から斜面上位の西側では概ね0.2m程の厚さがあるが、東側はしだいに厚さを増し、最大で1.4mを測る。縄文土器片が出土する。旧表土との明確な違いは見られなかった。
- II層 黒褐色土層で、遺物包含層の1層目にあたる。調査区の南西では希薄であるが、他は概ね0.3mの厚さを測る。縄文時代後期・晩期の土器や石器が多く出土している。
- III層 暗褐色土で、遺物包含層の2層目にあたる。II層に比べ明るく、明瞭である。調査区南西端以外に広がり、厚さは概ね0.3mを測る。縄文時代後期の遺物が主体である。
- IV層 明褐色土で、遺物包含層の3層目にあたる。II層に比べさらに明るく硬質である。調査区の北部に広がり、厚さは概ね0.2mを測る。縄文時代前期・中期・後期の遺物が出土している。
- V層 黒色土で水分を含むと粘り気を増す。IV層との色調の違いは明瞭である。遺物包含層の4層目にあたる。調査区の南西以外に広がっているが、北部から西部にかけて厚く、最大で0.4mの厚さを測る。縄文時代前期の遺物が多く出土した。下部で十和田火山を給源とする中振火山灰の塊が部分的に分布している。
- VI層 黒色土で、遺物包含層の5層目にあたる。V層よりも広がりがあり、北部では概ね0.3mの厚さを測る。縄文時代前期の遺物が出土するが、V層に比べ少ない。
- VII層 暗褐色土で、砂質に富む。遺物はわずかである。
- VIII層 暗褐色土で、角礫を多く含む礫層である。遺物は出土していない。

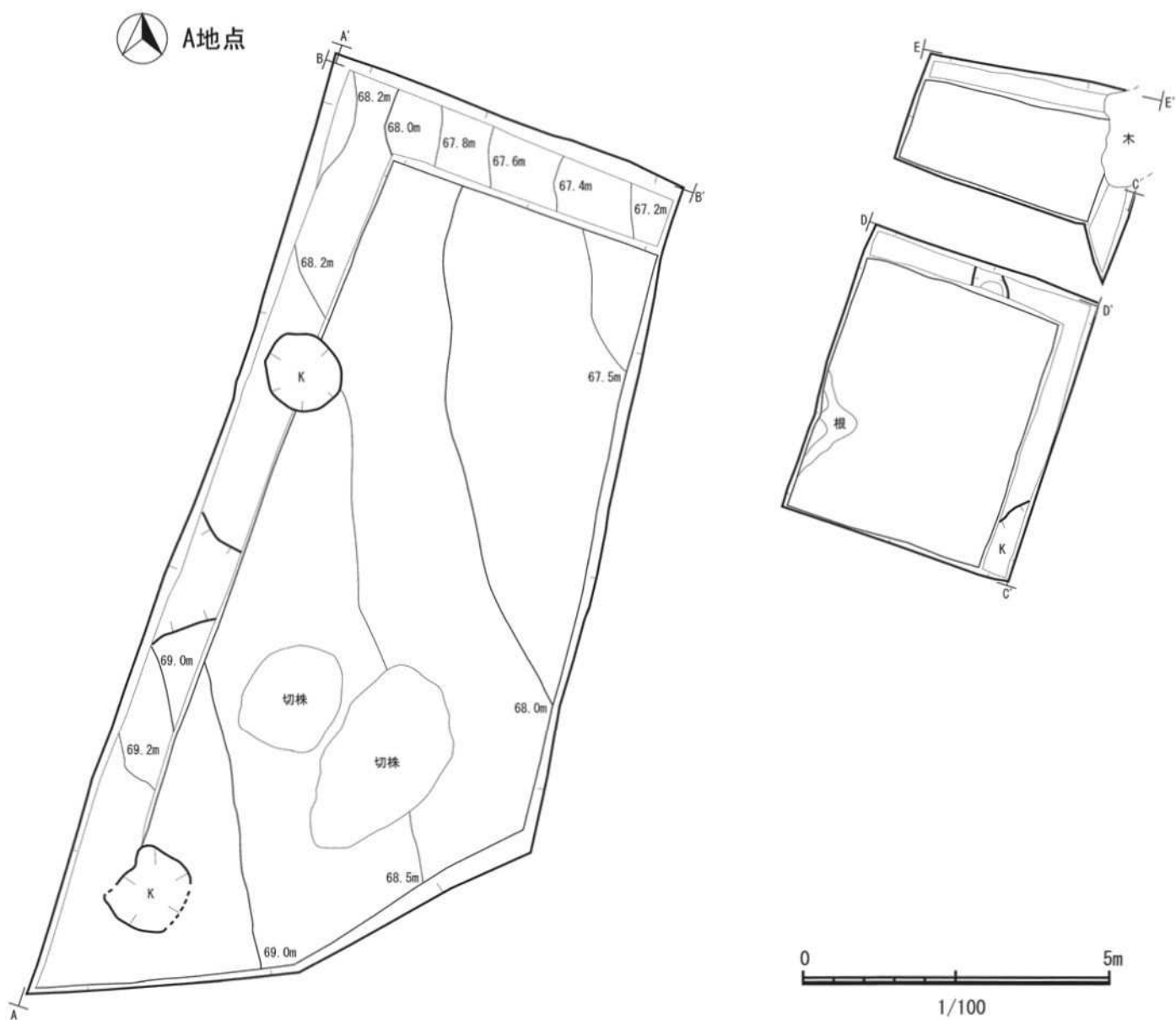
・B地点 (第8図)

- I層 調査区全体を覆う現表土層及び旧表土層。盛土により1段高くしている。
- II層 黒色土で、遺物包含層。調査区全域に広がり、厚さは概ね0.3mを測る。縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器や石器が出土している。
- III層 褐色土で、遺物包含層。調査区全域に広がり、厚さは概ね0.3mを測る。II層と同じく縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器や石器が出土している。
- IV層 黒色土で無遺物層である。
- V層 褐色砂質土層で無遺物層である。
- VI層 黒色土層で無遺物層である。礫を多く含む。
- VII層 暗褐色土層で無遺物層である。水分を多く含んでいる。

(2) 出土遺物 (第9図～第40図、第1表、第2表、写真13～22、28～32)

・A地点

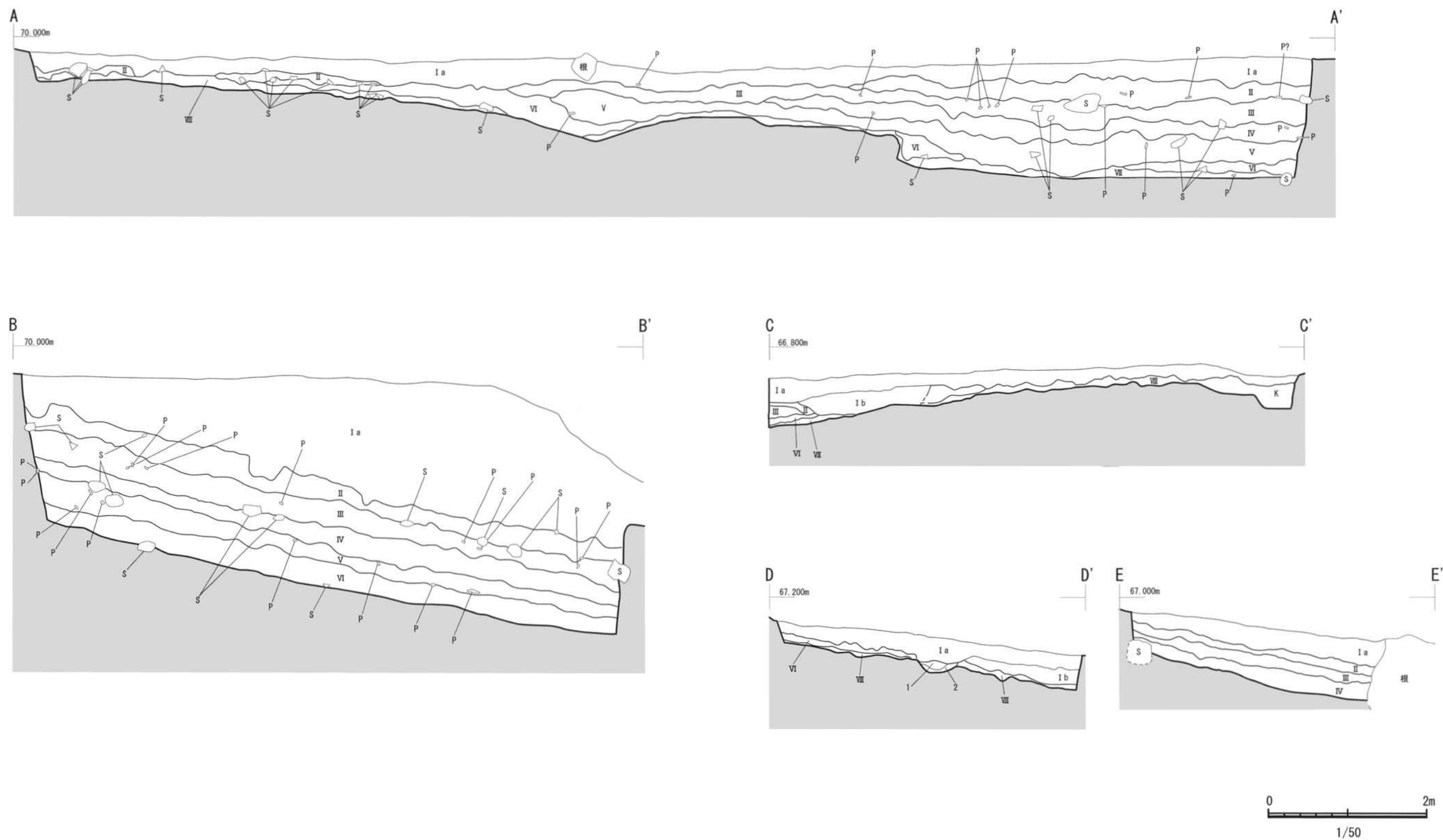
縄文土器、石器、土製品が出土している。数量はパンコンテナー約60箱分である。出土地点、層位、特徴は第1表「出土遺物観察表」に記載している。



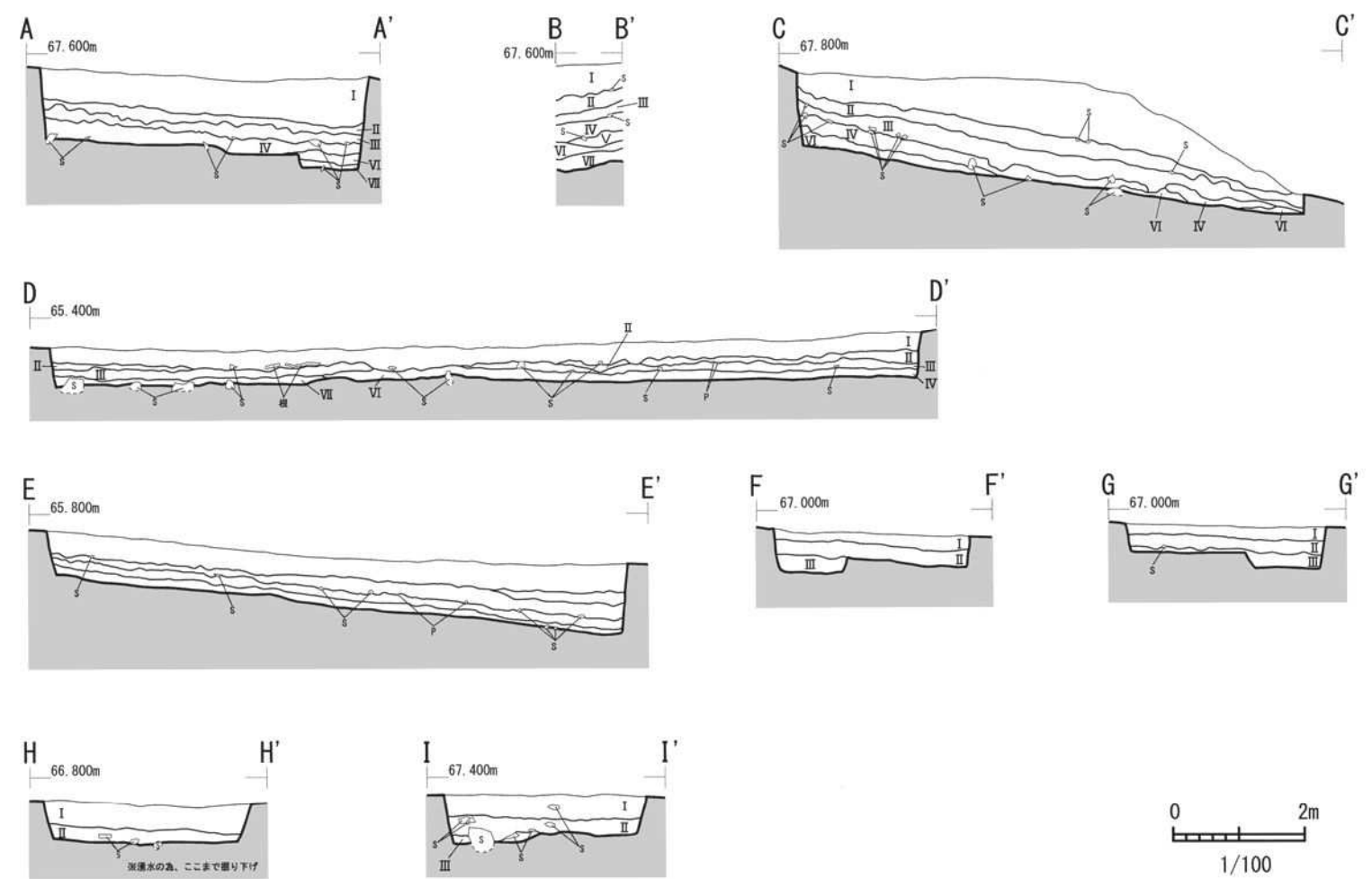
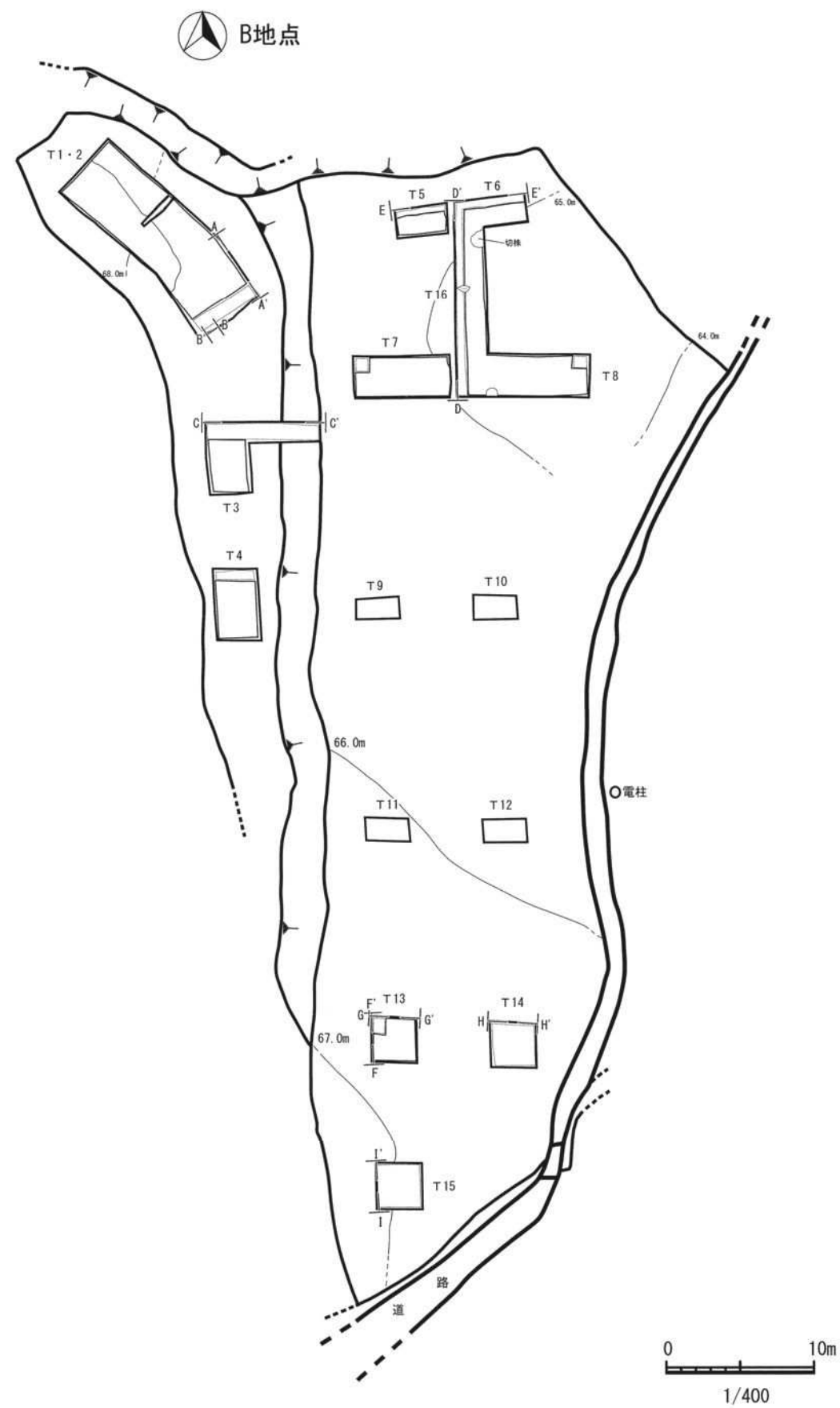
第6図 A地点全体図

縄文土器（第9図～第20図）

1～4は前期初頭に特徴的な胎土に繊維を含む一群で、羽状縄文・不整撚糸文・原体圧痕文を施している。前期初頭の大木1式～2b式土器と考えられる。



第7图 A地点土层断面图



第8図 B地点全体図・土層断面図

5は羽状縄文を地文とし、円形竹管文と沈線を施し、短い粘土紐を貼り付けたものである。前期前葉～中葉の大木3式土器あるいは大木4式土器と考えられる。

6～19は地文を縄文とし口唇部及び胴部上半に粘土紐を波状、梯子状等に貼り付ける一群である。前期中葉～後葉の大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。6、7は外反した口縁部破片で、6は口唇部に、7は内面側の口唇部に波状の粘土紐を貼り付けている。8～15は体部に波状の粘土紐を横位に1列ないし2列貼り付けている。8は口唇部が大きく外反し、波状と弧状の粘土紐を組み合わせ貼り付けている。11は弧状の他、直線の粘土紐を斜位に平行して貼り付けている。16～18は梯子状の粘土紐を貼り付けている。17は外に開いた口縁部破片で、縄文を地文とし梯子状の粘土紐を口唇部に沿って貼り付けている。18は外に開いた口縁部破片で、細い粘土紐を口唇部に沿って2列、体部へ鋸歯状に貼り付けている。19は幅の広い円形の粘土紐を貼り付けている。

20、21は口唇部に円形の圧痕を施しているものである。20は突起を有する口縁部破片で、突起部に円形の圧痕を施している。大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。

22は口縁部に粘土紐を横位に貼り付け、刻み目を加えている。大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。

23は半截竹管による連続押し引き文を施している。前期末の大木6式土器と考えられる。

24は波状口縁の波頂部破片で、口唇部及び内面の波頂部に原体圧痕文を施している。口縁部には粘土紐を口縁部に沿って貼り付け、波頂部直下には縄文を地文とし渦巻状、波状の粘土紐を貼り付けている。中期前葉の大木7b式土器と考えられる。

25は平口縁の口唇部に突起と刻み目を有し、胴部に平行沈線と波状の沈線を横位に施している。中期中葉の大木8a式土器と考えられる。

26～30は口縁部・胴部に渦巻文を施す一群で、中期中葉の大木8b式土器と考えられる。26、27はキャリパー形の口縁部破片で、27は地文に縄文を施し、隆帯により区画して口縁部文様帯を作出し、区画内に波状の粘土紐を貼り付けている。28、29は胴部破片で、縄文を地文とし隆帯による曲線文及び渦巻文を施している。30は沈線による渦巻文を施している。

31～34は沈線による縦位の区画内に縄文を充填する一群で、中期後葉の大木9式土器と考えられる。32は外に開いた口縁部破片で、区画頂部に押圧された突起を有している。33、34は橋状把手を有する。

35～40は細隆帯・沈線からなる一群で、中期末の大木10式土器と考えられる。35は外反した口縁部破片で、口縁部に細隆帯を施し、胴部には区画内に縄文を充填している。37は口縁部破片で、沈線により口縁部を無文帯とし、胴部に燃糸文を施している。39は胴部破片で、鱗状隆帯を有している。40は三日月状の突起を有し、突起の中央部には貫通孔が確認される。

41は環状突起を有する口縁部破片で、中期末から後期初頭のものと考えられる。

42～48は口縁部・胴部に円形の連続刺突・鎖状隆帯を施す一群で、後期初頭のものと考えられる。42、46～48は円形の連続刺突を隆帯に沿って施すものである。46は外反する頸部破片で、渦巻状隆帯に沿って連続円形刺突文を施し、48は環状突起を有している。43～45は鎖状隆帯を施すもので、45は波状口縁の波頂部破片で、地文に縄文を施し、鎖状隆帯を波頂部からクランク状に貼り付けている。

49～53は口縁部・頸部に円形・ボタン状の突起を有する一群で、42～48に後続する後期初頭のものと考えられる。49～52は器形が外に開く波状口縁の同一個体で、口縁部に横位の、胴部には「U」字状の縄文帯を施し、波頂部直下と胴部下半にはボタン状突起を単位状に貼り付け、波頂部直下のボタン状突起の上下には円形の刺突を施している。53は頸部破片で、刻みを入れた突起を貼り付けている。

54、55は地文を縄文とし、沈線による幾何学上の無文帯を施したもので、後期初頭のものと考えられる。54は頸部に蛇行状の沈線を施している。

56～65は無文地に沈線あるいは隆帯を多用する一群で、後期前葉十腰内土器のⅠ群（磯崎正彦「十腰内遺跡」『岩木山』1968）古段階と考えられる。56は小型の壺形土器で、胴部に曲線文を横位に展開し、渦巻文を単位状に施している。60～65は内傾する壺形の胴部破片で、沈線による杵状文・円形文・曲線文を施している。64は隆帯を横位に2列配している。65は他より細い沈線による曲線文を施している。

66～78は縄文を地文とし、多条の沈線を施すもの、横位の縄文帯を施すもの及び当該期に含まれる粗製土器を一群とするもので、後期前葉の十腰内Ⅰ群の新段階、大湯式と呼ばれるものと考えられる。72は小型の鉢形土器で、縄文帯と杵状の無文帯からなる。73は大きく外反する波状口縁の波頂部破片で、地文に縄文を施し口縁部には横位の沈線を、胴部には曲線状の沈線を施し、口縁部には括弧状の刺突を有する。77、78は粗製土器で、頸部を無文とし、胴部には横位の原体圧痕文を施している。

79～84は口縁部が縄文帯、無文帯からなる一群で、後期中葉～後葉、十腰内Ⅱ群土器あるいは十腰内Ⅲ群土器と考えられる。80～82、84は1列、79、83は2列の縄文帯を施している。

85～91は口縁部を広く無文とするもの及び胴部に横位の縄文帯を施す一群で、十腰内Ⅱ群土器と考えられる。85、86は同一個体と考えられ、外に大きく開いた緩やかな大波状口縁の口縁部から頸部までの破片である。85は補修孔が2ヶ所空けられ、頸部には縄文帯を有する。87は突起を有し、突起部の器厚が肥厚している。89～91は平口縁で、91は補修孔を有している。

92～104は胴部に磨消縄文や無文帯によるモチーフを施している一群で、十腰内Ⅱ群土器あるいは十腰内Ⅲ群土器と考えられる。モチーフは弧状（92）、入組状（94、96、97、100）、曲線状（98、99、101）、帯状（95、102）、無文帯（93）がある。95は胴部上半に文様帯を有し、斜位・縦位の縄文帯を横位に展開している。

105～111は口縁部・胴部が縄文を地文とし、多条の沈線を横位に施すもの及び多条の沈線を区切るように縦位・S字状・蛇行状の沈線を施す一群で、十腰内Ⅱ群土器と考えられる。106、109は波頂部に区切りの沈線を縦位に施している。108は左側面が窪んだ三角状の突起を有する口縁部破片である。

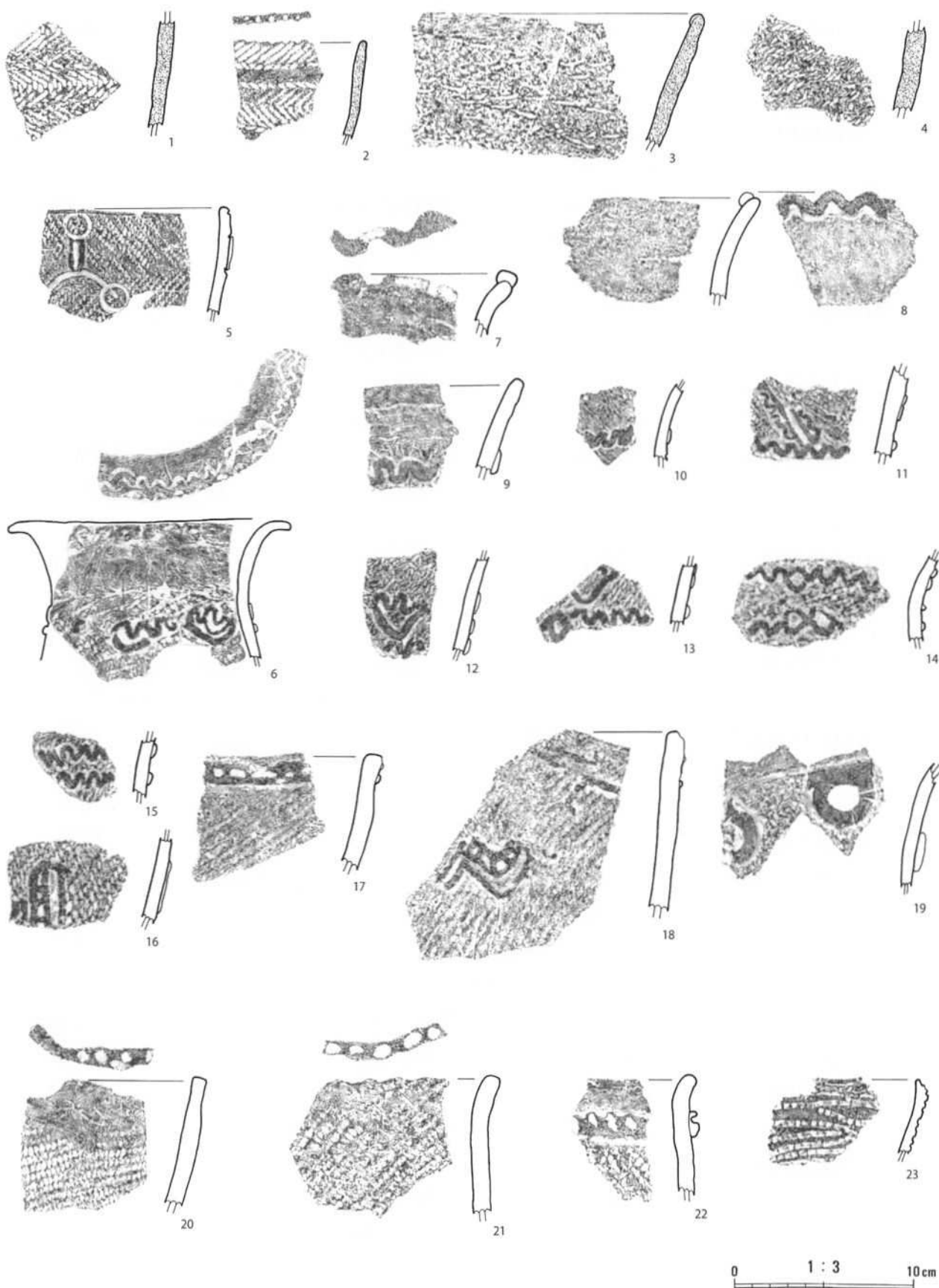
113～116は胴部に磨消縄文によるモチーフを施し、内部に沈線に沿って刺突列を施している一群で、十腰内Ⅱ群土器と考えられる。115は口唇部にも刺突列を施している。

117、118は口縁部・頸部の全面に縄文を施した波状口縁で、十腰内Ⅱ群土器と考えられる。117は口唇部上に縄文を施し、頸部に入組状の沈線を施している。

119～134は口唇部・頸部・胴部の括れに縄文帯、刻目帯とする一群で、十腰内Ⅱ群土器あるいは十腰内Ⅲ群土器と考えられる。縄文帯、刻目帯は1列のもの（119～123、126～130）と2列のもの（124、125、131～134）がある。

135～146磨消縄文内に羽状縄文を施す一群で、十腰内Ⅲ群土器と考えられる。135は小型の鉢形土器で、口唇部上に縄文を施し、体部に羽状縄文を横位に施している。134、136、137、143、144は119～133のように口唇部・頸部・胴部の括れに縄文帯、刻目帯を施している。

147～166は器面に瘤状突起を貼付した一群で、「瘤付土器」、「貼瘤土器」と呼ばれる後期後葉の十腰内Ⅳ群土器である。口唇部に突起を貼付しているものもこの一群に含まれる。口縁部、胴部の文様は149～153、155の口縁部の縄文帯・刻目帯や羽状縄文のように前型式の要素を引き継ぐ他、153、155、156のように新たに多条の沈線を横位に施すものも見られる。147は平口縁の口縁部・頸部破片で、口唇部に瘤と突起を貼付し、頸部には曲線状の沈線内に羽状縄文を施している。148は波状口縁の口縁部



第9図 A地点出土遺物1

破片で、口唇部に2条の沈線を施し波頂部に瘤と突起を貼付している。153は平口縁の口縁部破片で、羽状縄文からなる縄文帯を施し口唇部上には瘤を貼付している。156と157は同一個体で、数条の沈線と瘤からなり、156の口唇部上に瘤が貼付している。158は平口縁の口縁部破片で、口唇部上に突起を有し口縁部には2個1対の瘤を貼付している。159～164は胴部破片で、160、161は磨消縄文上に、163、164は隆帯上に瘤を貼付している。165、166は台付土器の高台部位で、底部と器台の境界に沈線を巡らし瘤を貼付している。

167～169は平口縁の口縁部破片で、後期末葉の十腰内IV群土器と考えられる。口唇部上に刻みを入れた突起を有し、口縁部には2列の刻目帯を施している。

170～172は後期中葉あるいは後葉の突起を有する一群である。170は頂部が三角柱状の突起で、中央に貫通孔を有する。171は左右の側面に曲線状の沈線を施している。

174～178は鉢形土器の口縁部破片で、沈線による入組文や入組三叉文を施している一群である。晩期初頭の大洞B式と考えられる。

179～198はいわゆる羊歯状文を施す一群で、晩期前葉の大洞BC式と考えられる。180～188、190は鉢形土器の口縁部破片及び口縁部から胴部にかけての破片で、口唇部上に突起を有し口縁部もしくは膨らみのある胴部に羊歯状文を施している。189、192は皿形土器の口縁部破片で、器面は丁寧なミガキ調整し、口唇部に羊歯状文を施し直下に曲線状の沈線を施している。193～195は浅鉢形土器の口唇部が屈曲した体部破片で同一個体である。口唇部に突起を貼付し逆「S」字状の沈線を施し、体部に羊歯状文を施している。196は鉢形土器の口縁部破片、197、198は台付鉢形土器の高台部分で、底部と高台の下端に羊歯状文を施している。

199～201は体部に曲線状の沈線や雲形文を展開する一群で、晩期中葉の大洞C1式あるいは大洞C2式と考えられる。199は浅鉢形土器の体部破片で、口唇部に突起を有し体部に縄文と曲線状の沈線を施している。201は鉢形土器の口縁部から胴部にかけての破片で、胴部に曲線状、三叉状の文様を施している。

202、203は口縁部に数条の沈線を巡らしたもので、大洞C1式あるいは大洞C2式と考えられる。

204は鉢形土器の口縁部破片で、工字文を施している。晩期の大洞A式と考えられる。

205～210は頸部が内傾した一群で、晩期の注口土器と考えられる。209は器面が黒色をおび、頸部は丁寧なミガキがされ、細かい縄文を施している。

211は縄文を地文とし、下向きの矢羽根状沈線を連続して施したものである。時期不明とした。

212～248は縄文を施した土器である。時期は不明なものが多い。241は外に開いた口縁部破片で、器面に軸の縄の撚りに反対の撚りの縄を絡げた付加条縄文を横位に施文している。時期は前期中葉と考えられる。223～240、242、244は横位、縦位の結節を有するもので、縄文前期・中期と考えられる。223は後晩期の深鉢形土器と考えられる。

249～252は撚糸文を施したもので、250は網目状撚糸文、251は木目状撚糸文を施している。

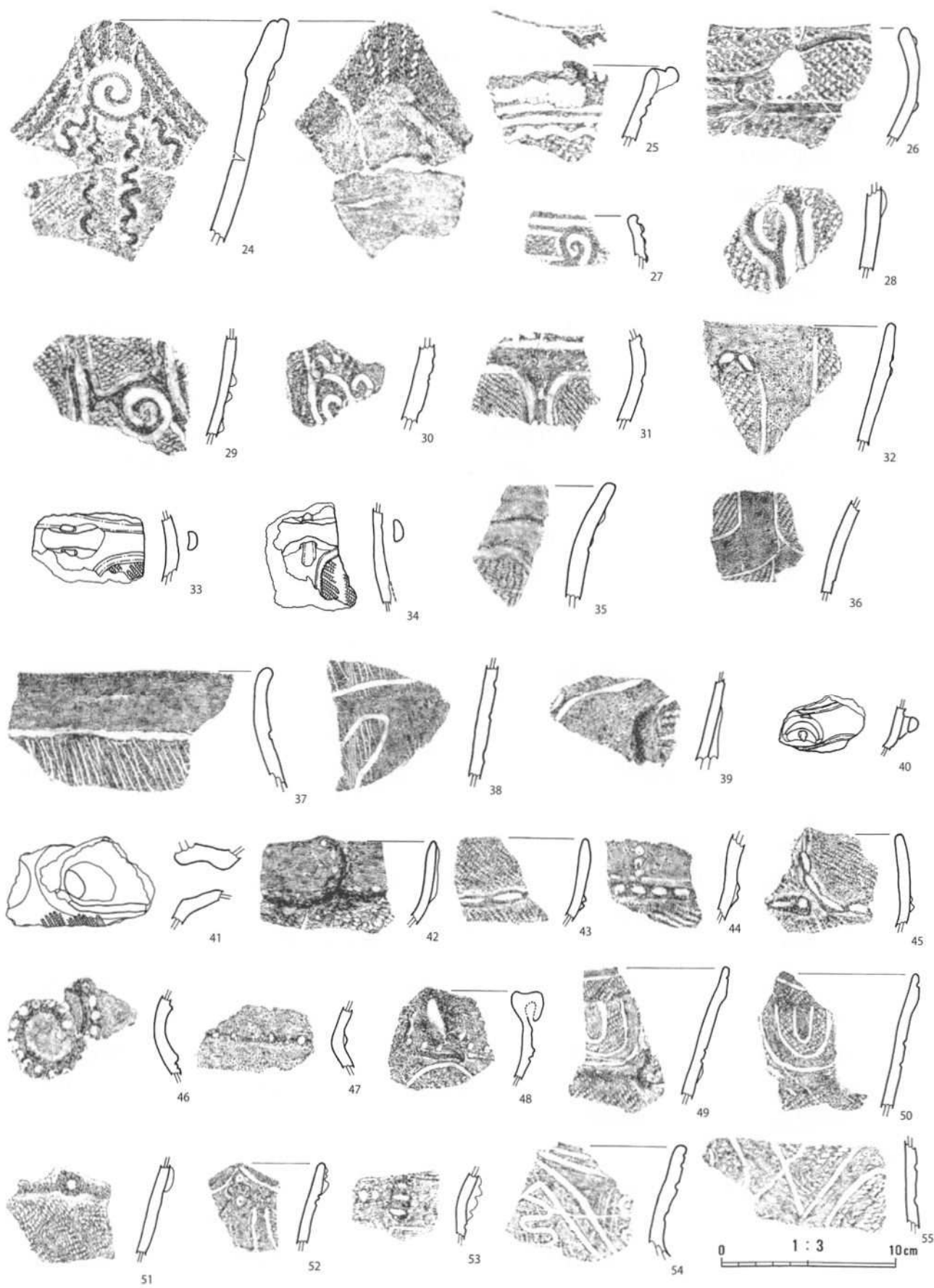
254は条線文を施している。時期は不明である。

255～260は沈線を施した一群である。縄文時代後晩期と考えられる。

261は弧状の帯状沈線内に連続刺突文を施したものである。時期不明とした。

262は無文の土器である。

263～290は底部である。底面に網代痕を残すもの(263～272)、木葉痕を残すもの(274～276)、網代痕と木葉痕を残すもの(273)、沈線状のもの(277、278)、無地のもの(279～290)がある。時期



第 10 图 A 地点出土遺物 2

は不明であるが、283、284、288、289は薄手で後晩期と考えられる。

291～295は台付鉢形、台付浅鉢形土器の底部及び高台部分である。

296～306は注口土器の注口部である。301、302は注口下部に瘤を有することから、後期後葉の所産と考えられる。303は注口下部に縄文・沈線・貼付けにより顔面状の装飾を施している。時期は縄文後期と考えられる。304は無文の注口土器で、注口部との接合部に黒い有機質が付着しており、アスファルトによる接着痕の可能性がある。

307～310は土器の突起部分である。

石器（第21図～第28図）

出土した石器は剥片石器が石鏃、石匙、スクレーパー、異形石器で、礫石器が磨製石斧、打製石斧、磨石、叩き石、凹石、礫器、石皿である。

311～326は石鏃である。基部が凸基のもの（311～314）、凹基・平基のもの（315～323）、尖基（324～326）のものがある。凸基のものはすべて全面に細部調整を施している。311は最大長1.7cmを測る小型の石鏃である。黒曜石製で、産地同定の分析結果により北上山地折居産と同定された（64ページの表1 No.1）。凹基・平基のものは全面に細部調整を施しているものと319、321、322のように背面は基部と側縁部に細部調整されたものがある。尖基は凸基のようにほぼ全面に細部調整を施している。

327、328は石匙である。327は横形の石匙で、両面とも細部調整を施している。摘み部には黒い有機質が付着している。328は縦形で、腹面の右側縁部に細部調整を施しているが、背面は摘み部にのみ細部調整を施している。

329はヘラ状石器である。両面加工を施し、両面の刃部に細部調整を施している。330はスクレーパーである。楕円形を呈し、腹面の刃部に細部調整を施している。

331、332は異形石器である。331は上部に摘みを有するもので、曲線状に刃部が形成されている。両面加工で周縁に細部調整を施している。石材は珪質頁岩と考えられる。332は天地が不明で、左先端部が欠損している。両面加工で周縁に細部調整を施し、中央部に抉りを有している。石材は黒曜石で産地同定の分析結果により北海道赤井川産と同定された（64ページの表1 No.2）。

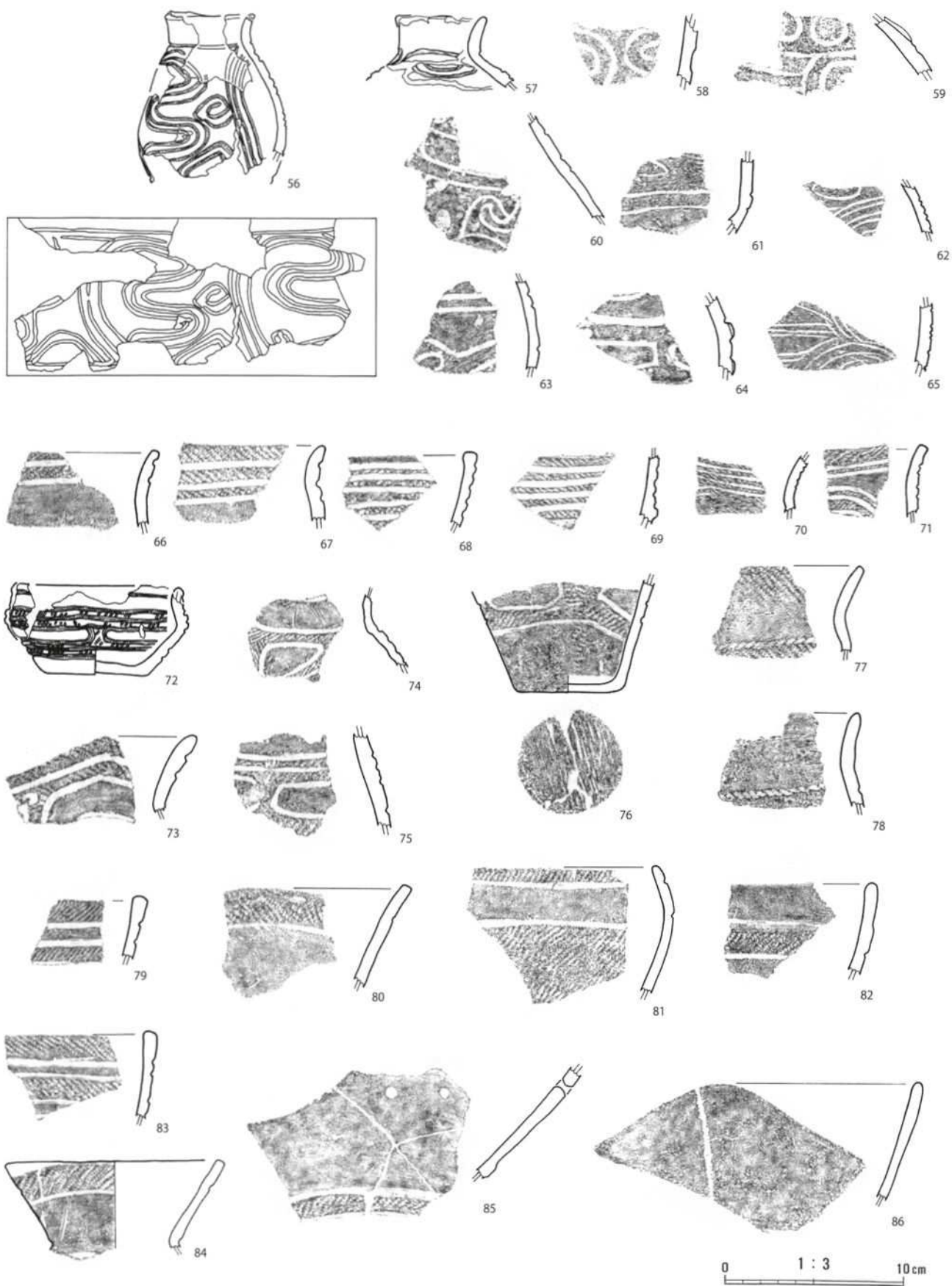
333は器種不明の黒曜石製石器である。334は黒曜石製の剥片である。

335～338は片面に自然面を残す石斧である。前期前半に見られる石斧と考えられる。

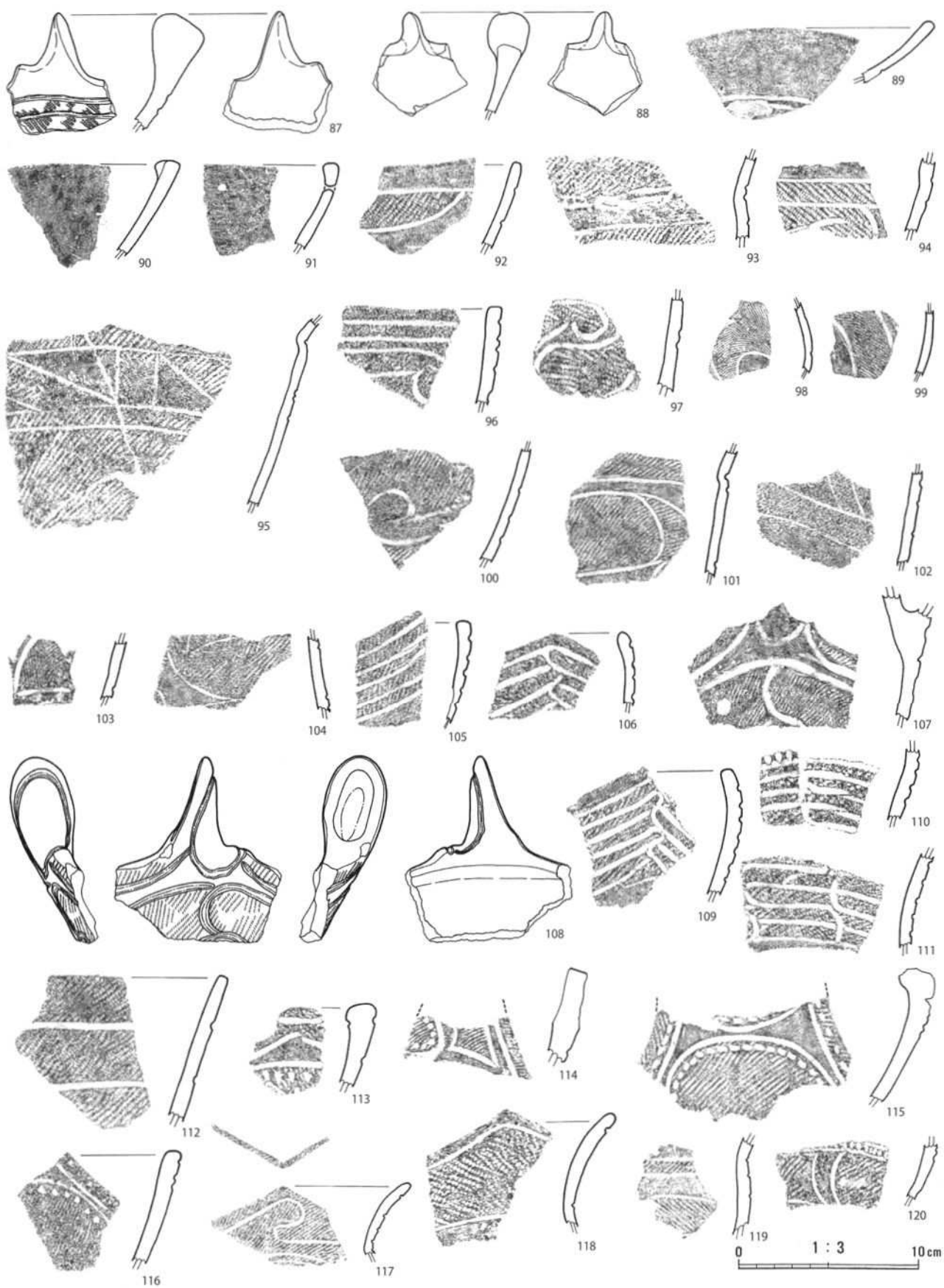
339、340は磨製石斧である。丁寧な研磨を施すものは見られなかった。

341～363は磨石である。341～345は長軸が横長の角礫や不整形の角礫からなる磨石で、使用面が1面のもの（341、343）、2面のもの（342、344）、3面のもの（345）がある。346～349、351、353～355、358は長軸が横長の楕円状を呈する礫からなる磨石で、使用面が1面のもの（347、348、354）、2面のもの（346、349、353、355、358）、3面のもの（351）がある。350、352、356、359～361は長軸が縦長の楕円状を呈する礫からなる磨石で、使用面が1面のもの（356、360、361）、2面のもの（350、352）、4面のもの（359）がある。357、362、363は円形の礫からなる磨石で、362は円周の全面に使用痕が見られ、使用痕に明瞭な稜線が観察される。

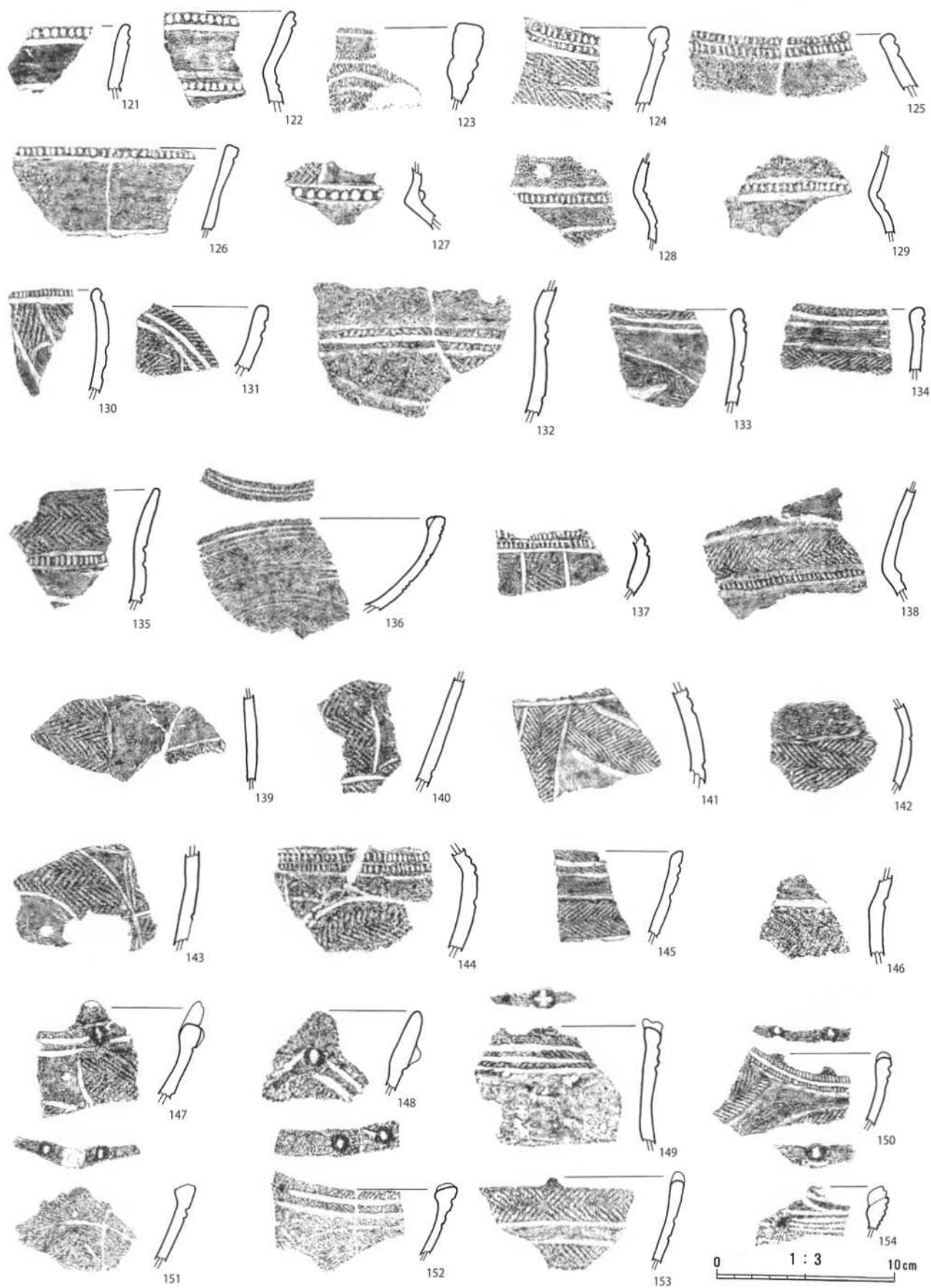
364、365は叩き石で側面の一部に敲打痕が見られる。366、367は側縁部の一部に打撃痕が見られ、366は磨石として使用されている長方形の扁平な礫で、3か所の側縁部中央から打撃を加えている。367は滑らかな楕円形の礫で、側縁部1か所集中的に打撃を加えている。368は凹石で両面に窪みが見られる。369～371は石皿である。370、371は凹みや敲打痕が見られる。372は砥石である。砂岩製と考えられ、線条痕が観察される。



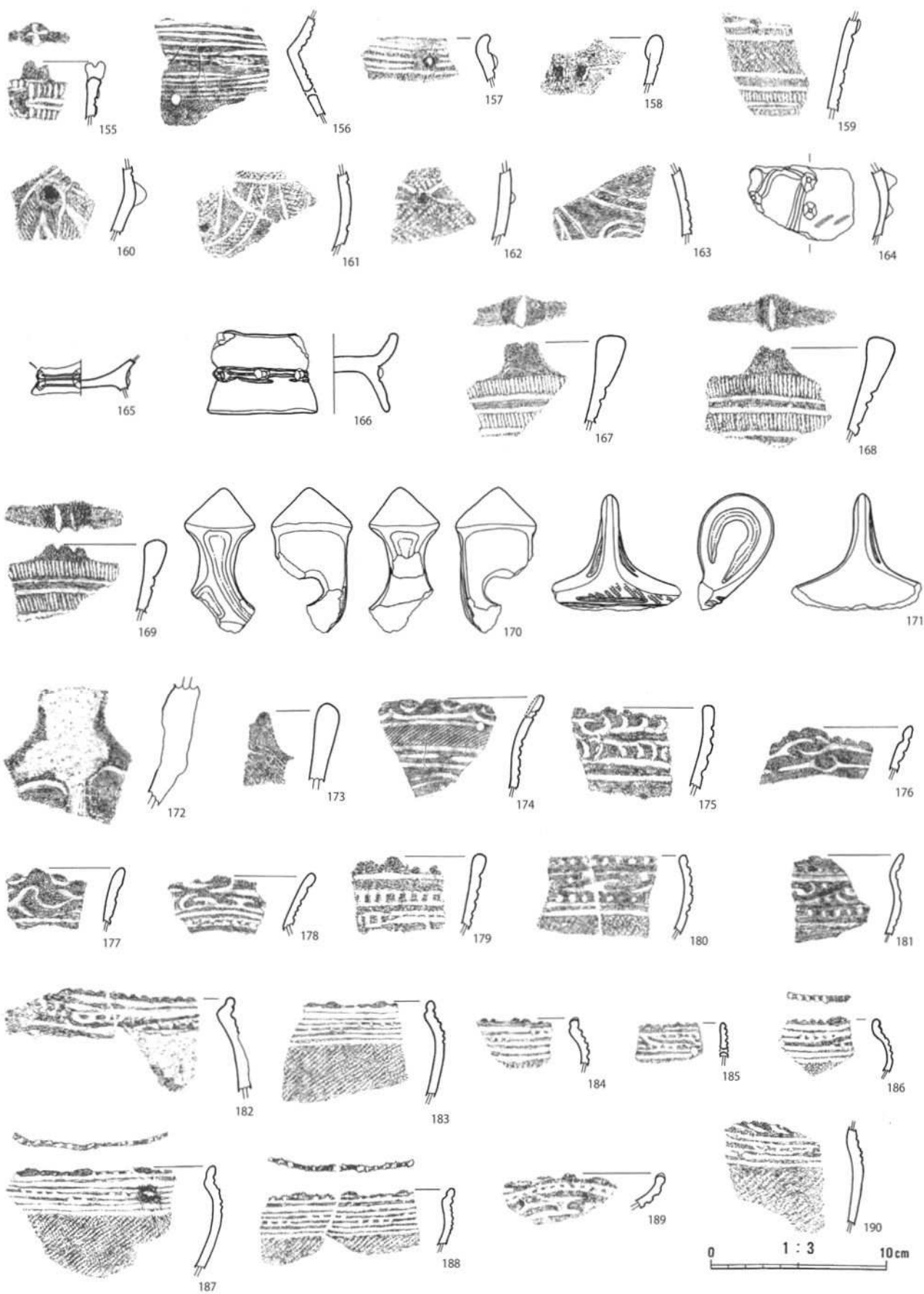
第 11 图 A 地点出土遺物 3



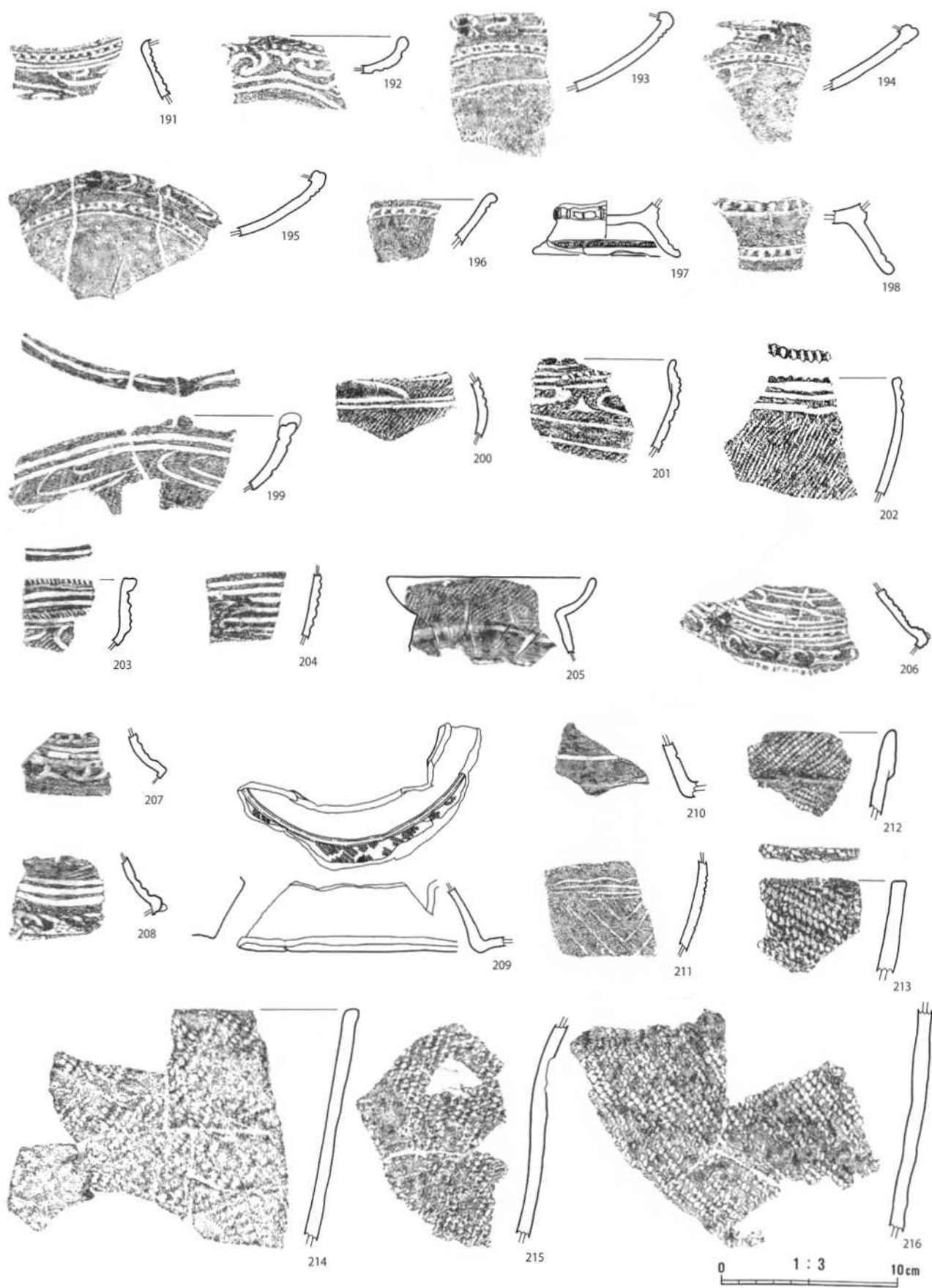
第 12 图 A 地点出土遺物 4



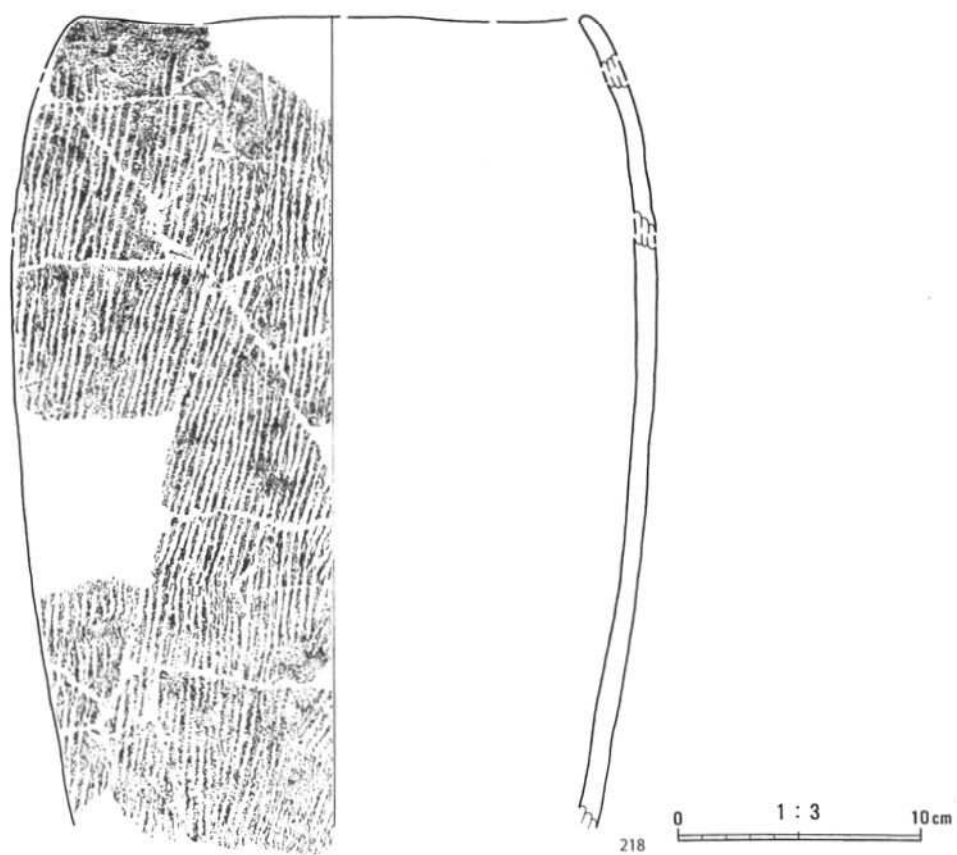
第 13 图 A 地点出土遺物 5



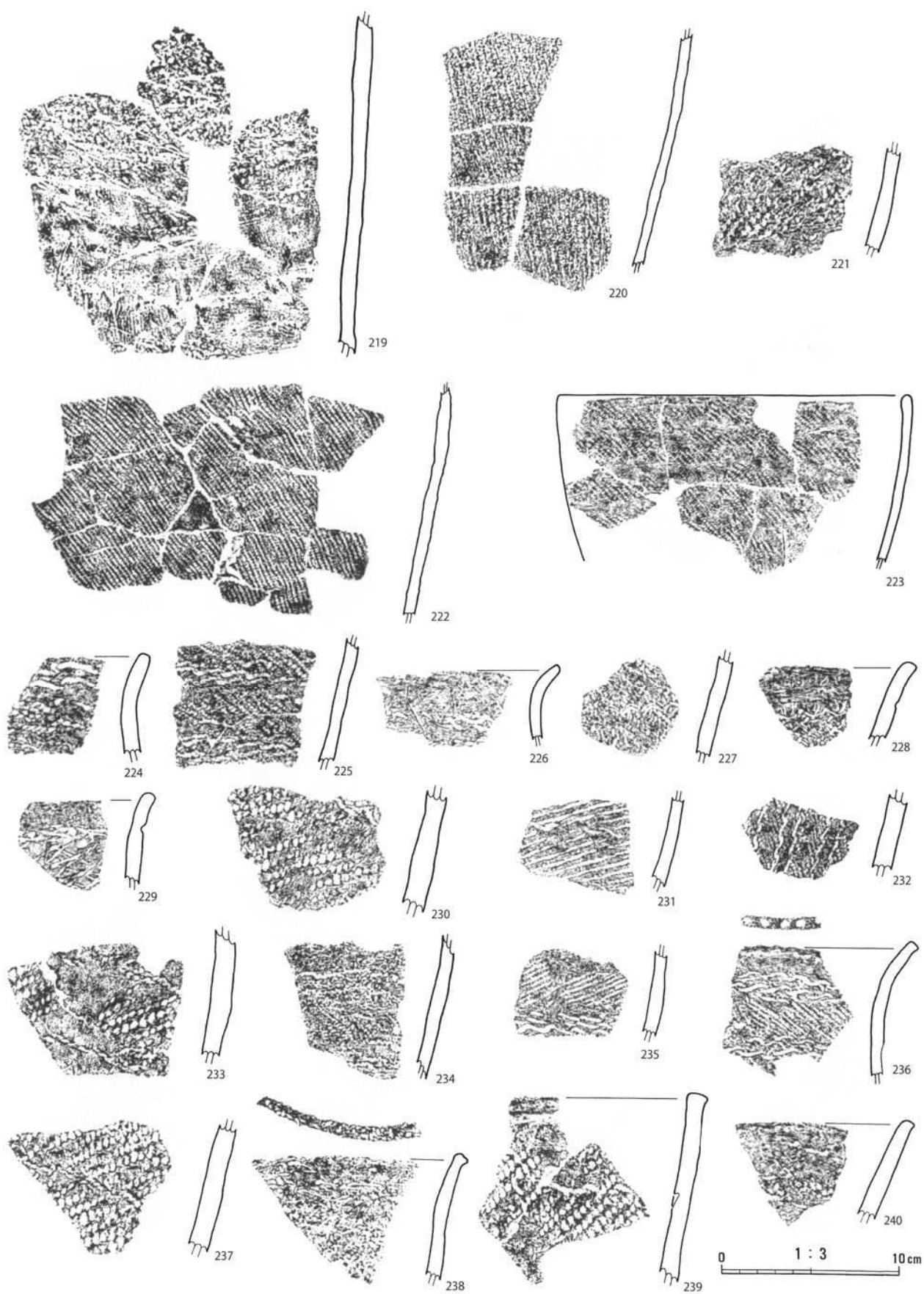
第 14 图 A 地点出土遺物 6



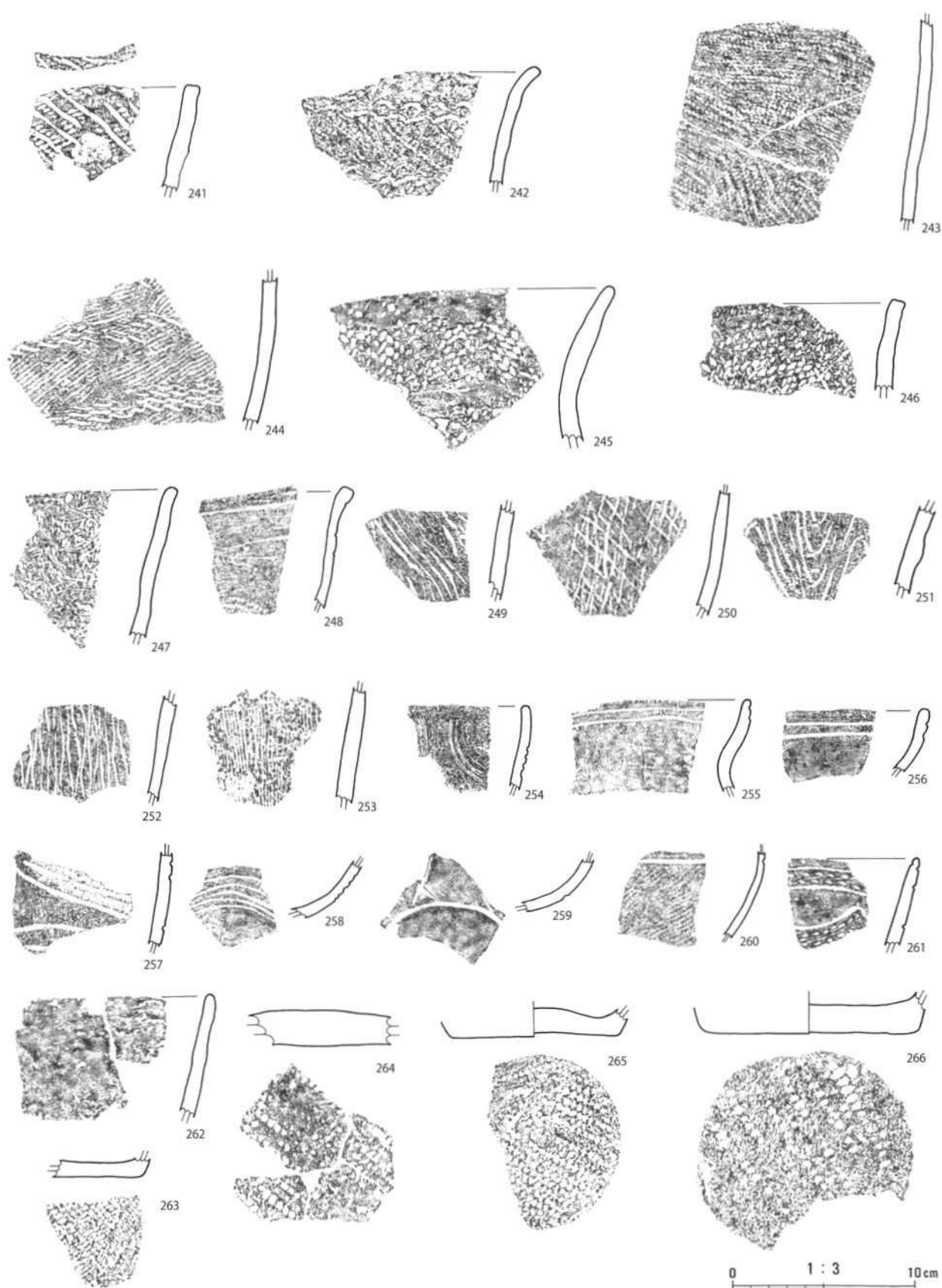
第 15 图 A 地点出土遗物 7



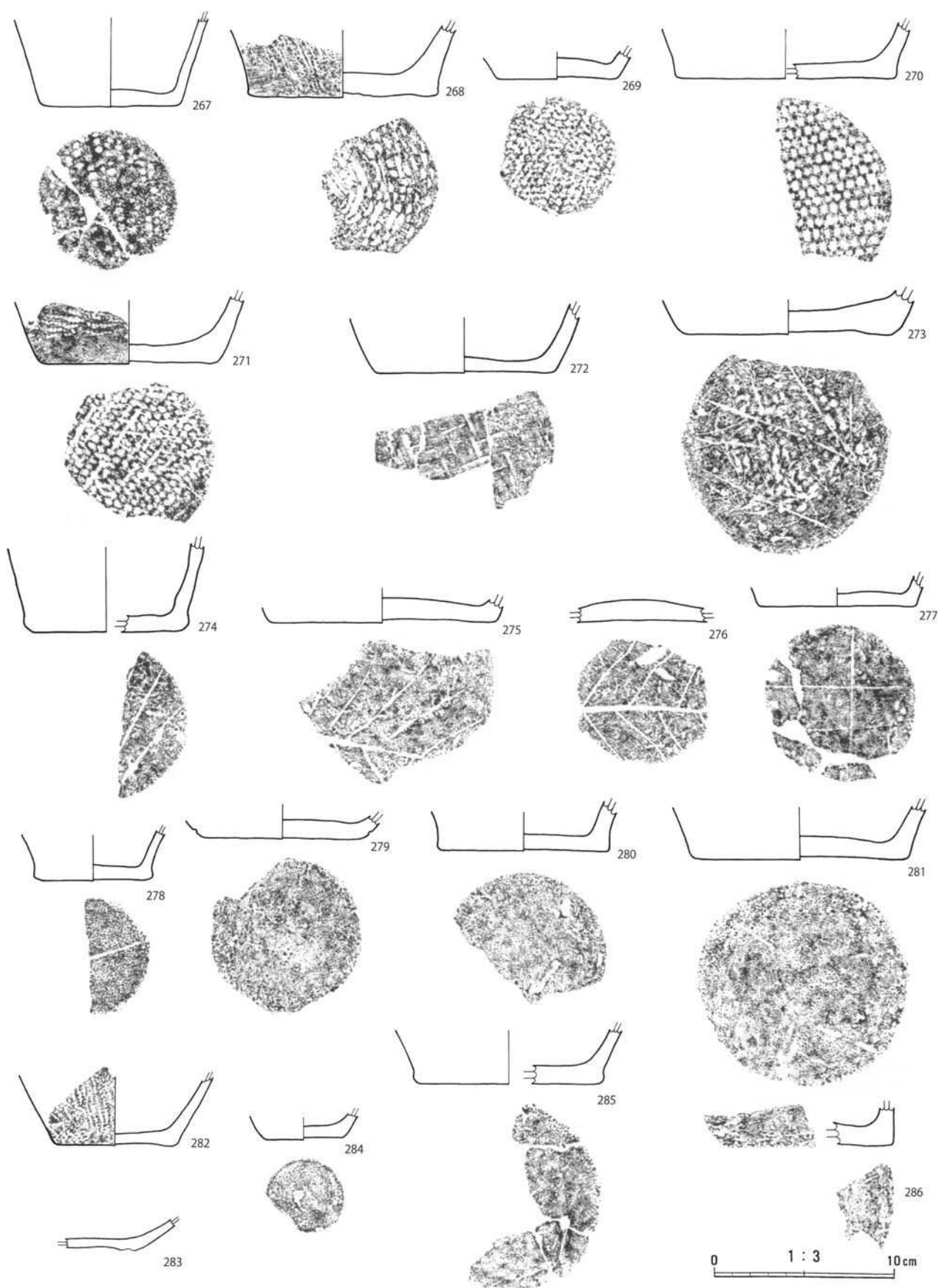
第 16 图 A 地点出土遺物 8



第 17 图 A 地点出土遺物 9



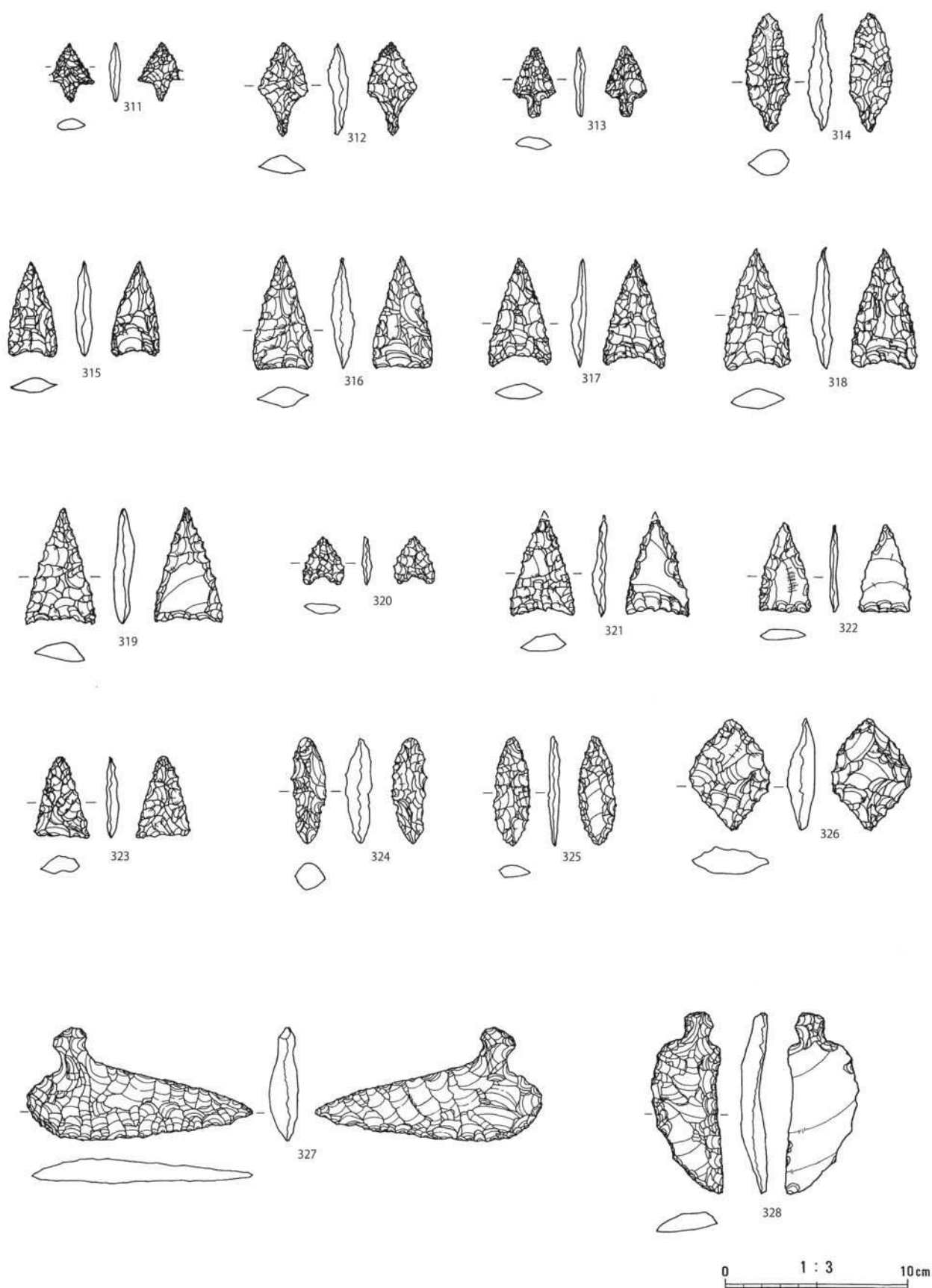
第 18 图 A 地点出土遺物 10



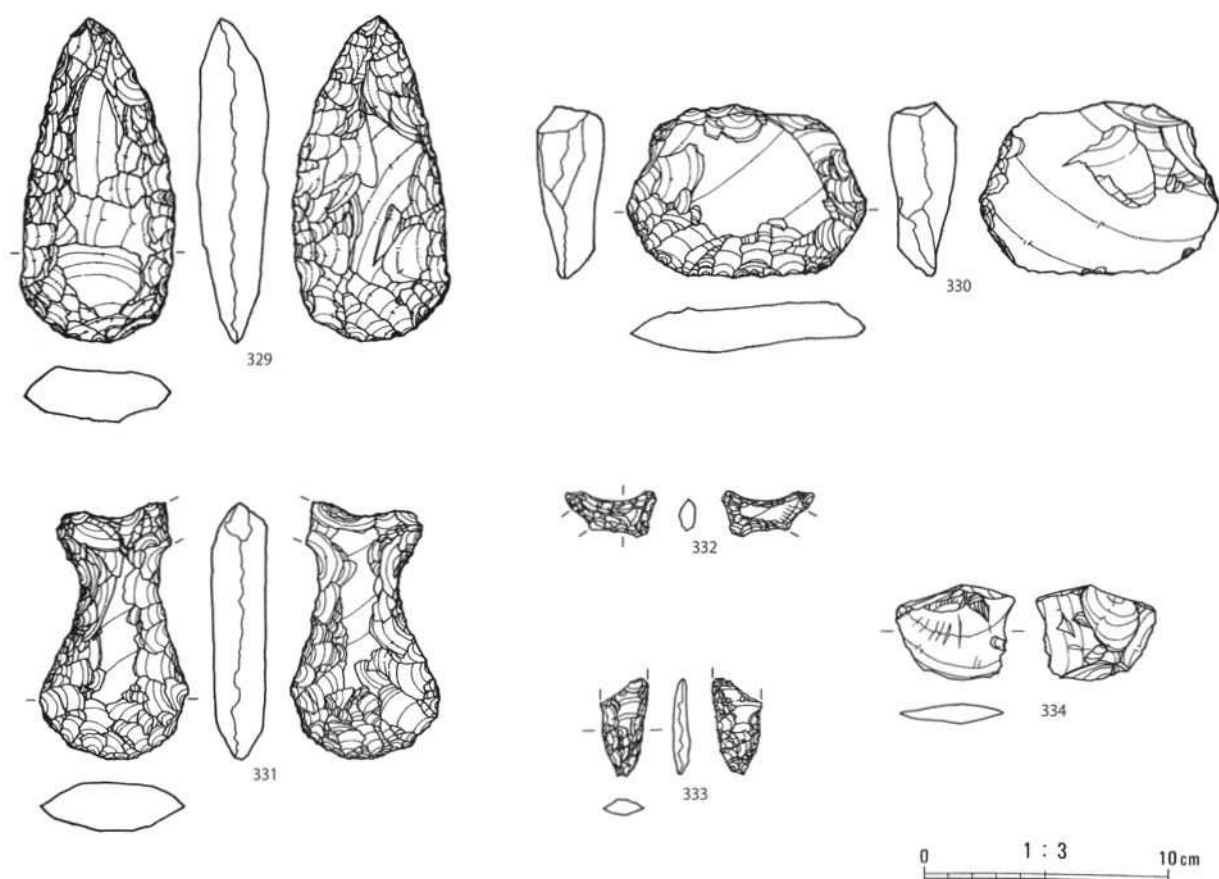
第 19 図 A 地点出土遺物 11



第 20 图 A 地点出土遺物 12



第 21 图 A 地点出土遺物 13



第 22 図 A 地点出土遺物 14

土製品（第29図、第30図）

373～379はミニチュア土器の底部である。376、377は底面に網代痕が見られる。

380～389は側縁部全周に調整を施した土製円盤、円盤状土製品と呼ばれるものである。

390～396は土偶である。390は腰の部分で、臀部以外に円形の刺突が規則的に施している。391は腰の部分で、股に沈線を施している。392は胴の部分で、乳房が強調され、腹面中央に円形の刺突を施している。393は右足の部位で、上部に沈線が観察される。394、395は同一個体と考えられる。394は右側胴部で、2条の沈線を横位に施している。395は右大腿部の部位で、縄文を施してから2条の平行沈線と鋸歯状の沈線を施している。396は足の部分と考えられ、391と胎土が似ており同一個体の可能性がある。

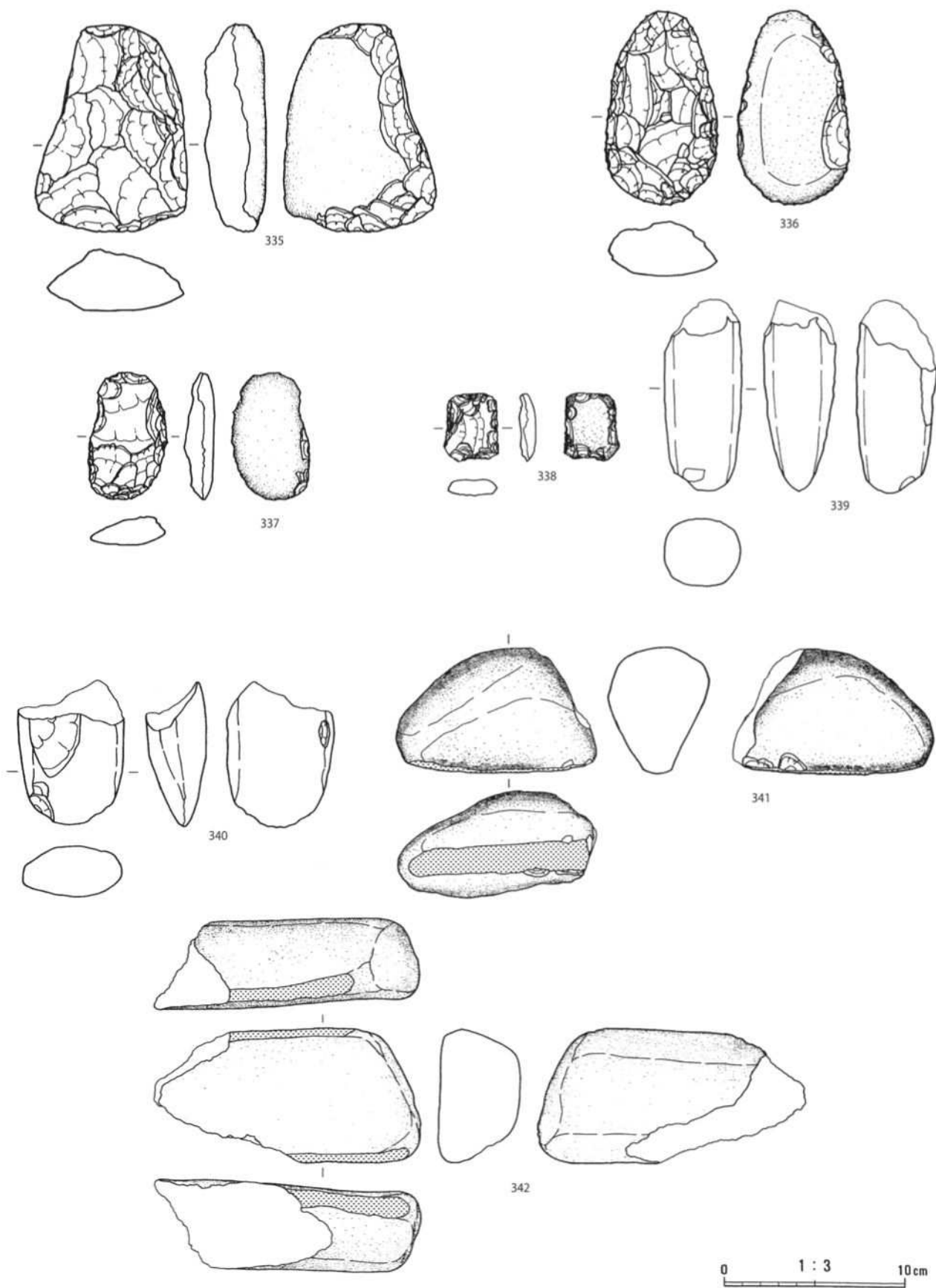
397は種別不明の土製品である。小型の台付土器の形状で、下部に貫通孔を有する。

石製品（第30図）

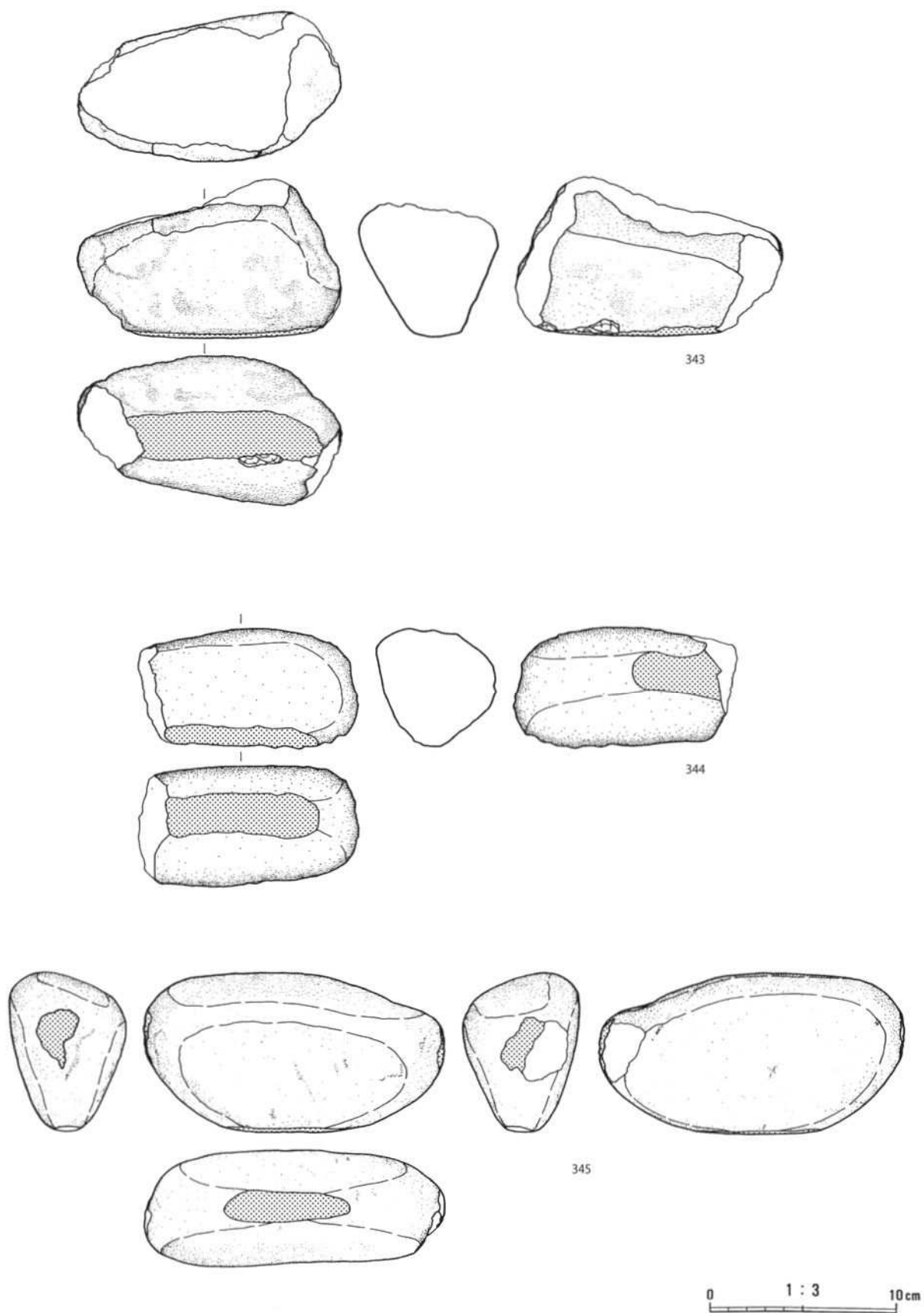
398は石製円盤である。側縁に剥離による調整痕が観察される。399は欠損した軽石である。楕円形を呈し底は平坦である。使用痕は見られない。400は石棒の端部である。側縁に調整痕が観察される。

・B地点

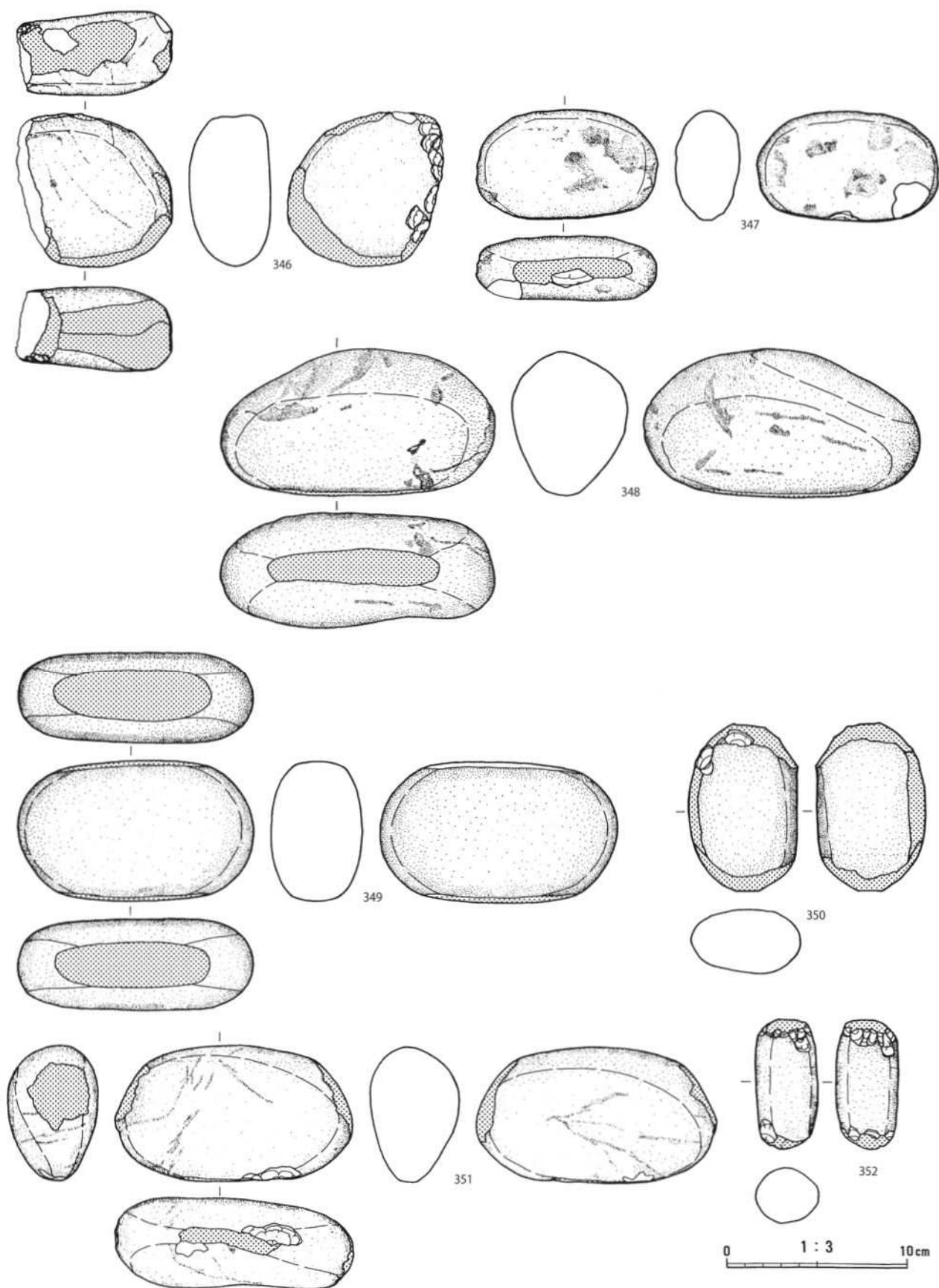
縄文土器、石器、石製品が出土している。数量はパンコンテナー約20箱分である。出土地点、層位、特徴は第2表「出土遺物観察表」に記載している。



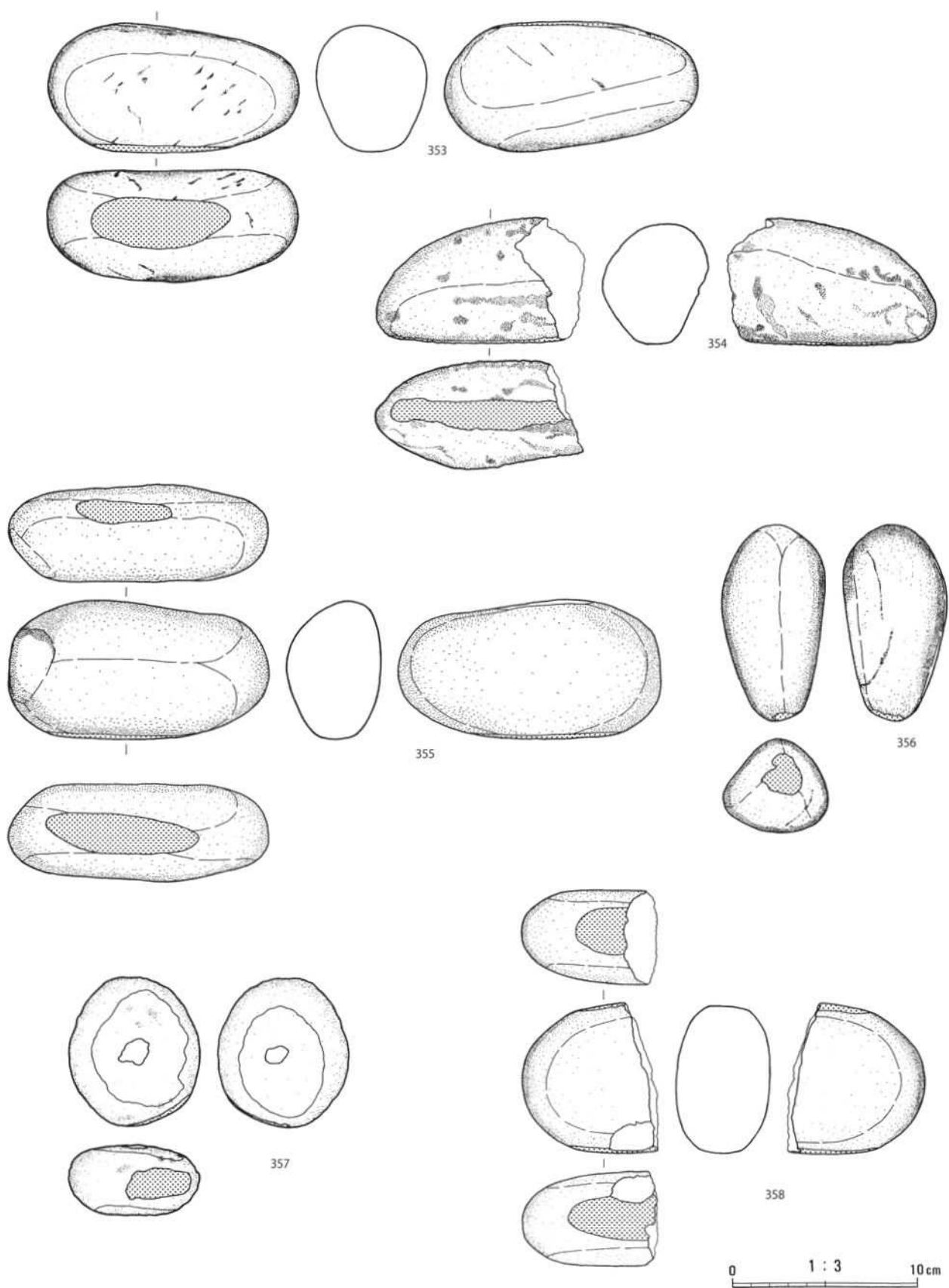
第 23 図 A 地点出土遺物 15



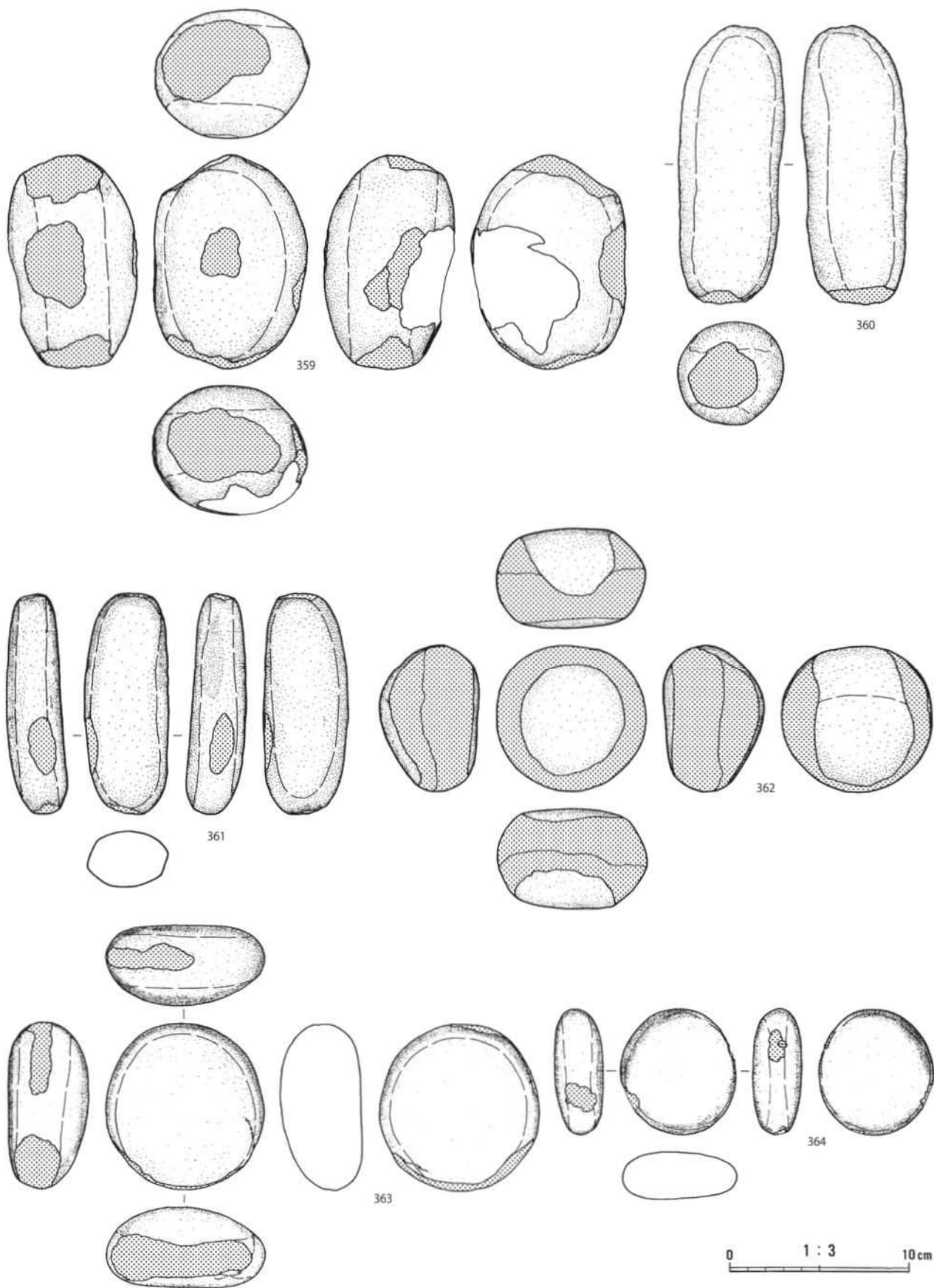
第 24 図 A 地点出土遺物 16



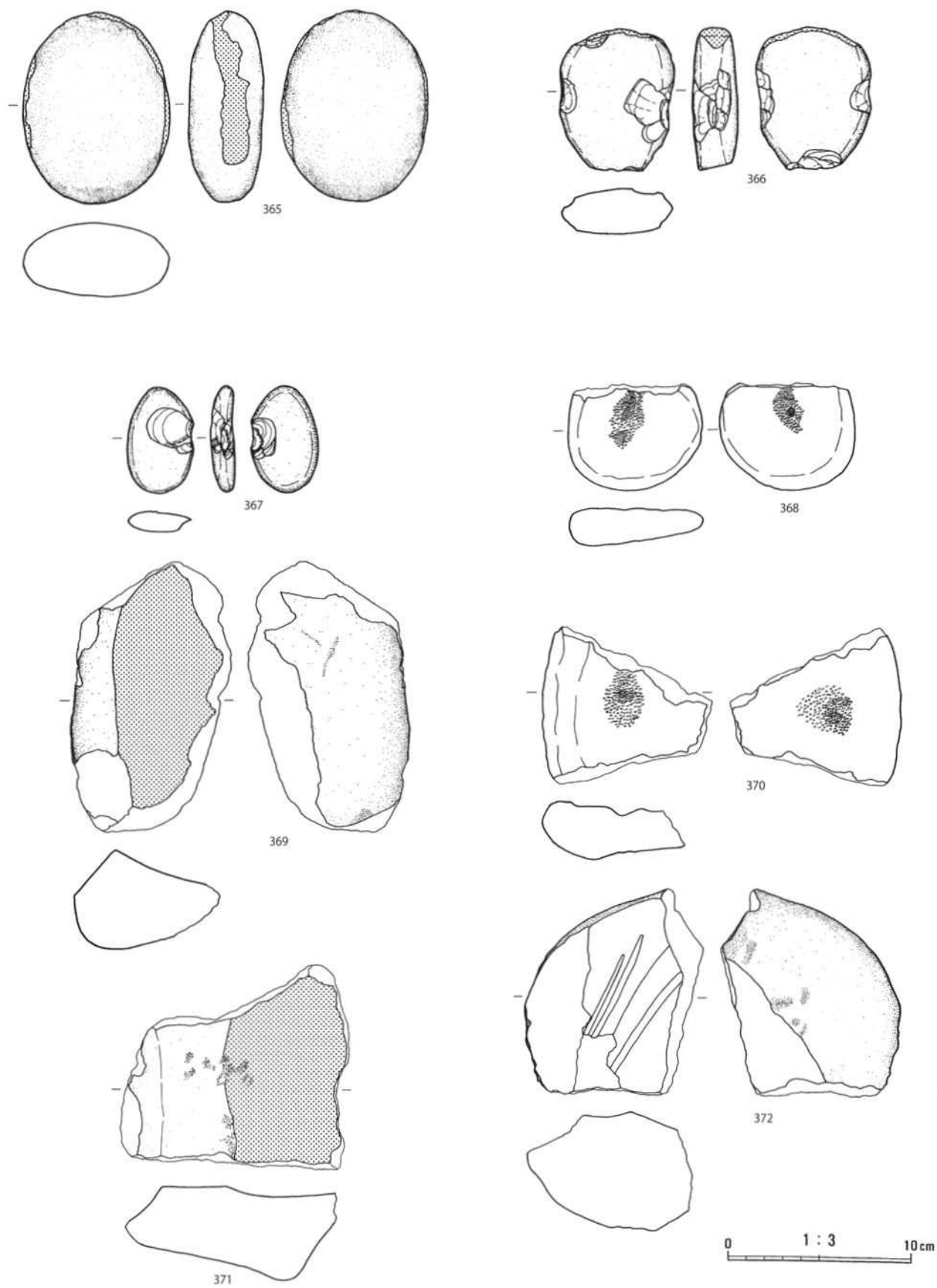
第 25 図 A 地点出土遺物 17



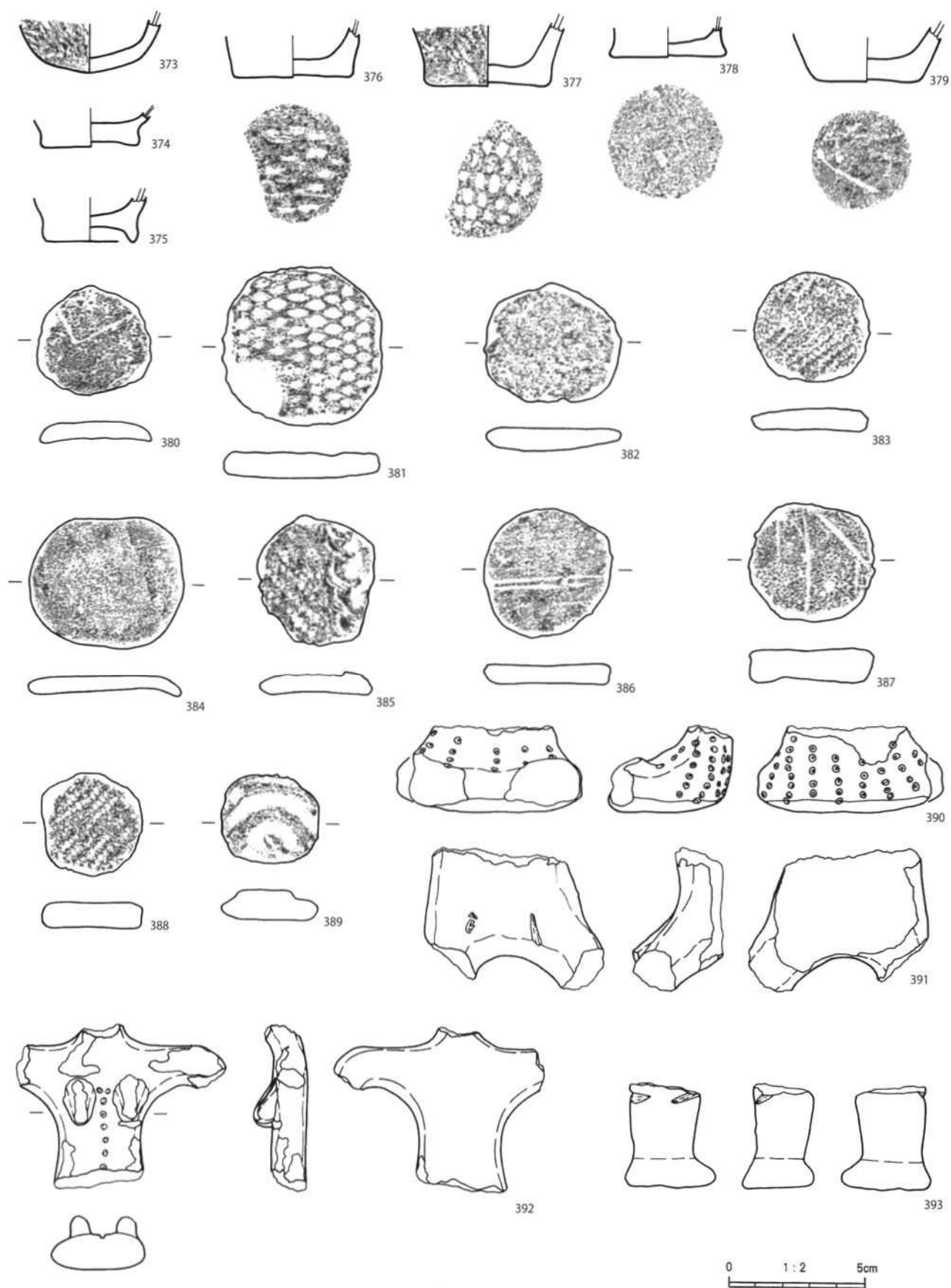
第 26 図 A 地点出土遺物 18



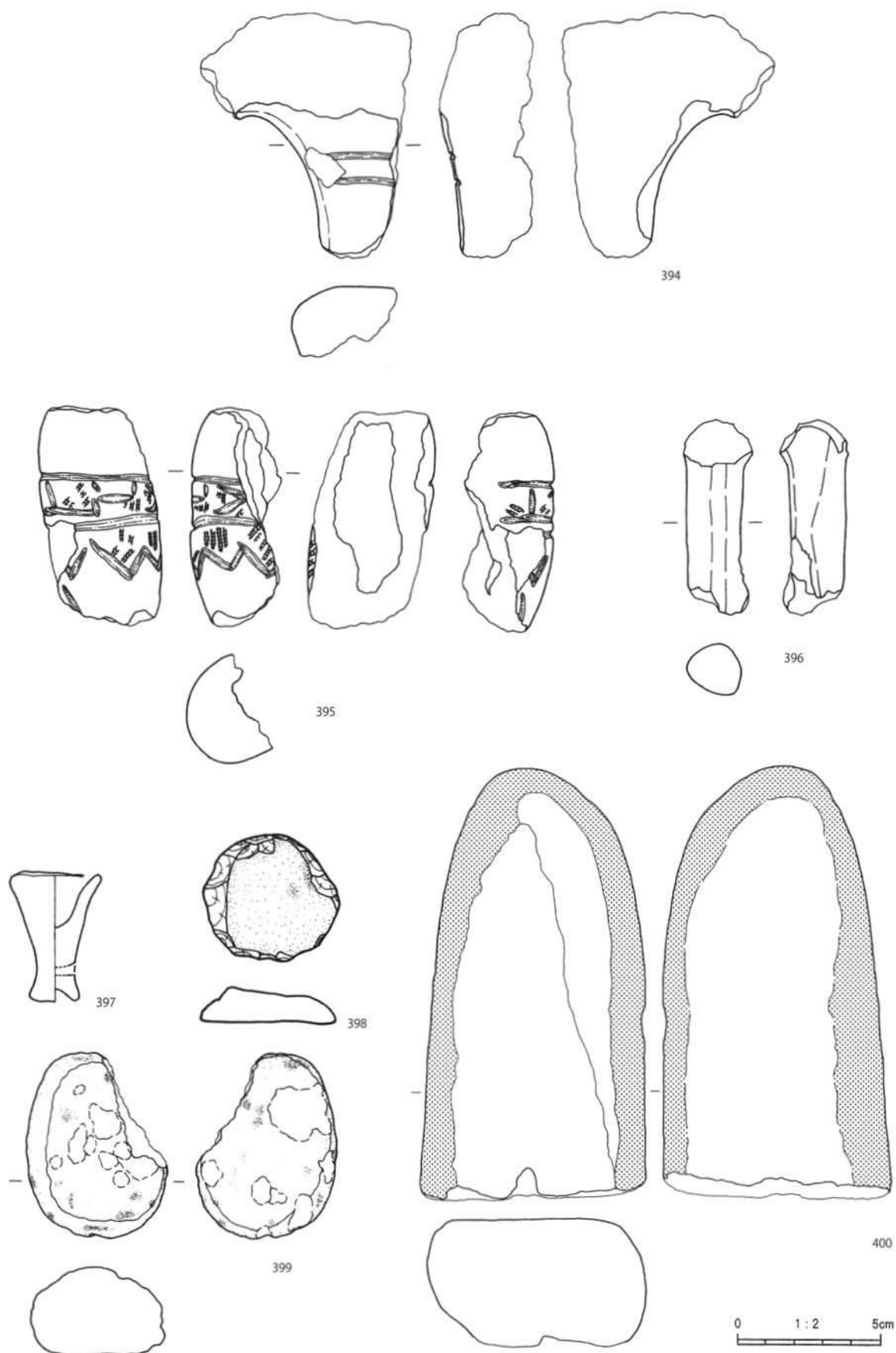
第 27 図 A 地点出土遺物 19



第 28 图 A 地点出土遺物 20



第 29 图 A 地点出土遺物 21



第 30 图 A 地点出土遺物 22

縄文土器（第31図～第38図）

1～56は前期初頭に特徴的な胎土に繊維を含む一群で、前期初頭の大木1式～2b式土器である。1、39は口縁部・胴部には原体圧痕文を施すものである。2～22は胴部に羽状縄文を施し、8は単節縄文とLR縄文とL縄文にr縄文を絡げた付加条縄文からなる羽状縄文を施している。23、24は口縁部破片で、不整撚糸文を施している。25～31、35は口縁部に不整撚糸文、胴部に羽状縄文を施している。32は胴部に不整撚糸文と羽状縄文を施している。33、34は底部破片で、底部端まで不整撚糸文を施している。36～38は口縁部に不整撚糸文を施し、胴部に縄文を施している。40、41は数条の押引文と縄文を施している。43は胴部破片で、0段多条の縄文を施している。44は凹凸の口唇部で、縄文を施している。45、46は口唇部上に円形の押圧を施し、46は組紐縄文を施している。47～53は撚糸文を施し、47、48は同一個体で横位に撚糸文を施し、49～51は木目状、52は網目状撚糸文を施している。53は2条の縄を用いて網目状撚糸文を施文している。54～56は底部で、53は底面に縄文が観察される。

57は胴部破片で円形竹管文を施している。大木2b式土器あるいは大木3式土器と考えられる。

58～60、63は地文を縄文とし口唇部及び胴部上半に粘土紐を貼り付ける一群で、前期中葉～後葉の大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。58、59は口唇部上に鋸歯状の粘土紐を貼り付け、58の粘土紐には円形の刺突を施している。63はA地点の16～18と同様の文様である。

61、62は同一個体で波状口縁の波頂部に突起を有する土器である。器面には羽状縄文を斜位に施している。大木5式土器と考えられる。

64、65は同一個体で、口唇部上に円形の刺突を施し、縄文を地文とし縦位の鋸歯状沈線を口縁部から底部まで横位に展開している。大木5式土器と考えられる。

66は口縁部破片で、突起を有し、突起上には連続の押圧を施している。大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。

67は口縁部破片で網目状撚糸文を施し、連続に押圧した粘土紐を帯状に貼り付けている。大木4式土器あるいは大木5式土器と考えられる。

68、69はキャリパー形の口縁部で、縄文を地文とし口縁部の区画内に隆帯を貼り付けている。中期中葉の大木8a式土器と考えられる。

70は胴部破片で、縄文を地文とし横位の平行沈線と波状沈線を施している。大木8a式土器あるいは大木8b式土器と考えられる。

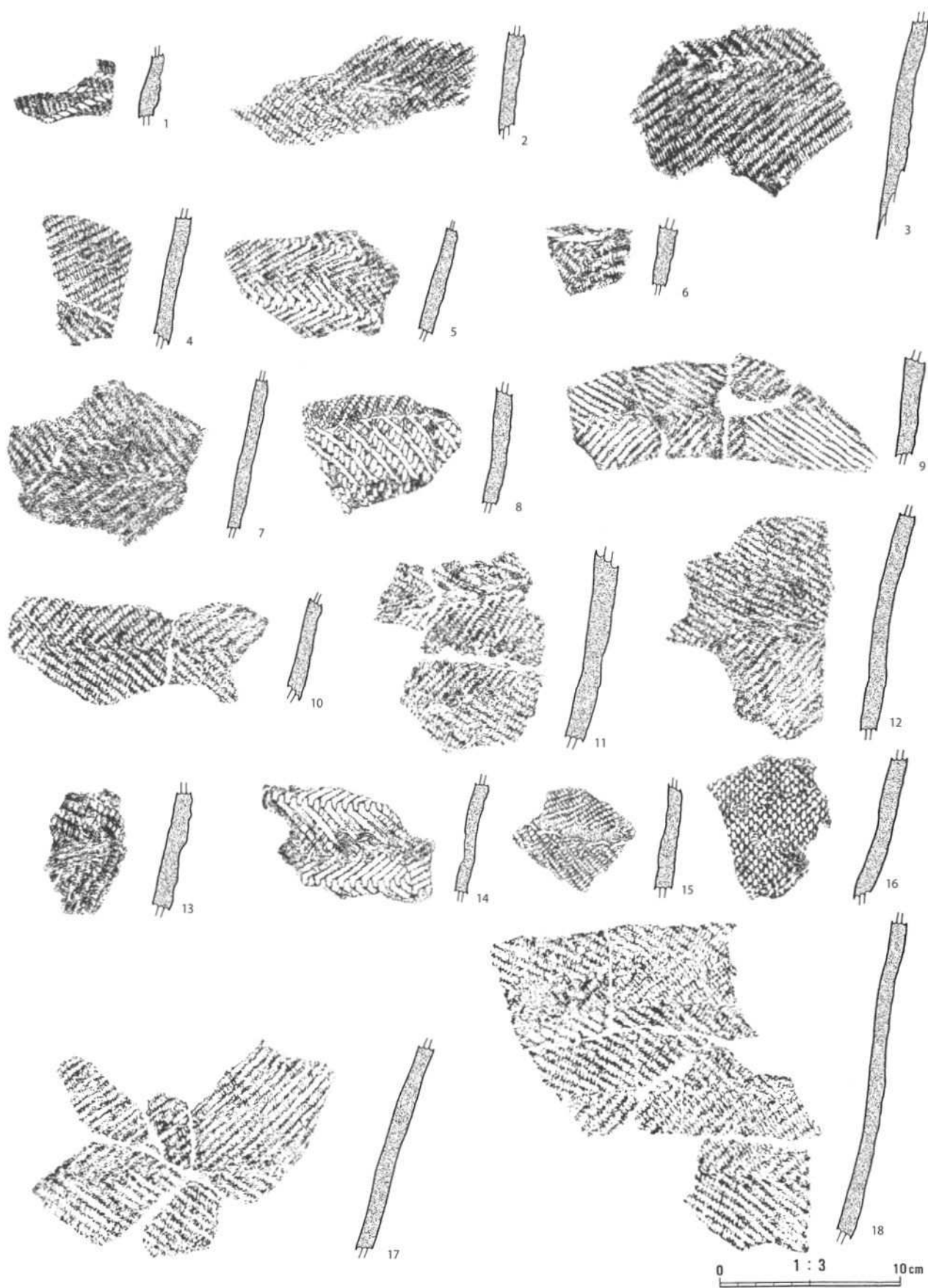
71は胴部に丸みをもつ復元可能な鉢形の土器で、口縁部には橋状の把手を4単位有し、胴部に剣先状・渦巻状の隆帯を交互に展開している。大木8a式土器と考えられる。

72～80は縄文を地文とし、口縁部が渦巻状の隆沈線を横位に展開し、曲線状・渦巻状の隆帯・沈線を施す一群で、中期中葉の大木8b式土器である。72、73は口縁部から底部までの復元可能な波状口縁深鉢形土器で、口縁部に沈線を口唇部に沿って展開し、胴部中位には渦巻状の隆帯を施し、胴部下半は渦巻状の隆帯から底部端まで隆帯を垂下している。74は口縁部破片で、縄文を斜位に施文し口縁部に列点文を施している。76～79は72、73と同じ文様要素で、78は72と同一個体と考えられる。80は隆帯ではなく沈線により渦巻文を施している。

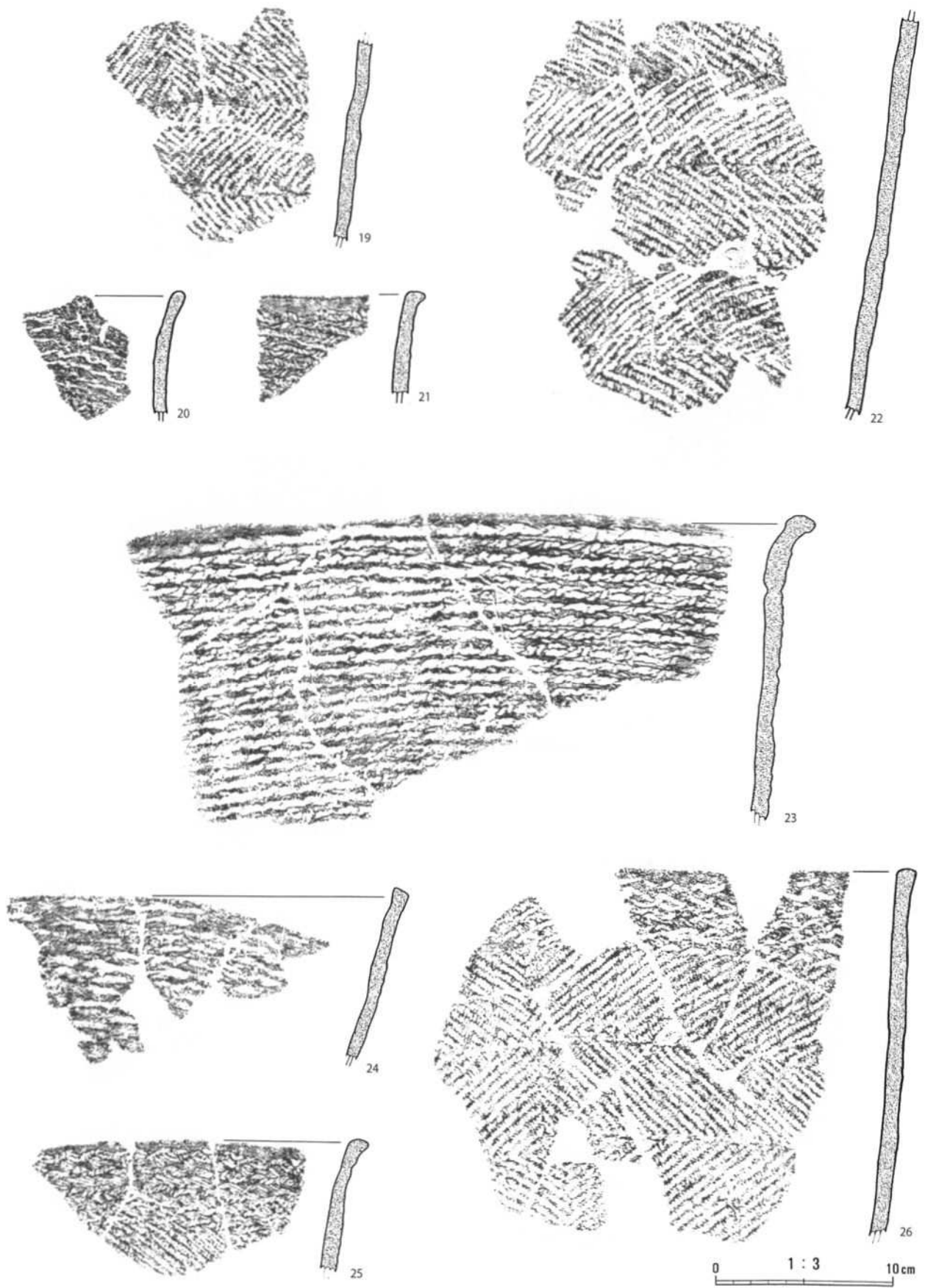
81は縦位の曲線状の区画文内に縄文を充填する中期中葉の大木9式土器と考えられる。

82は縄文を地文とし3条の沈線を施すもので、後期初頭から前葉のものと考えられる。

83は波状口縁の口縁部破片で、縄文を地文とし沈線を長楕円状に施している。後期中葉の十腰内Ⅱ群土器と考えられる。



第 31 图 B 地点出土遺物 1



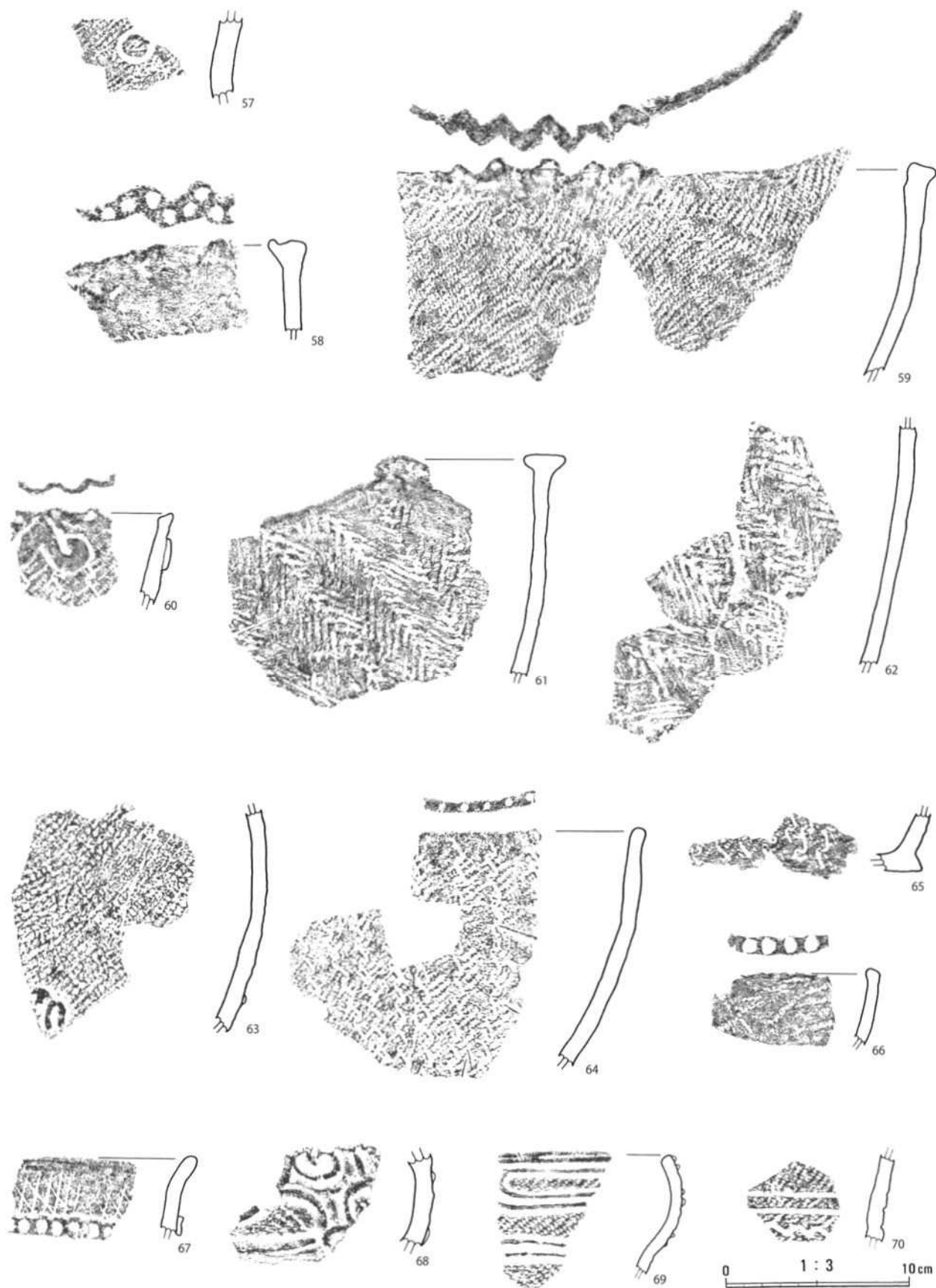
第 32 图 B 地点出土遺物 2



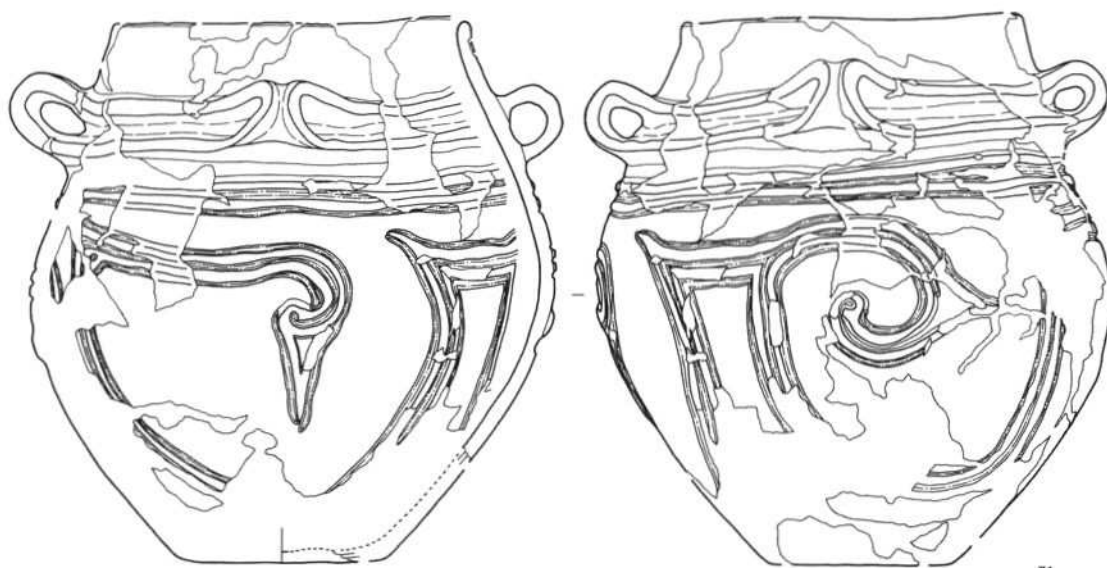
第 33 图 B 地点出土遺物 3



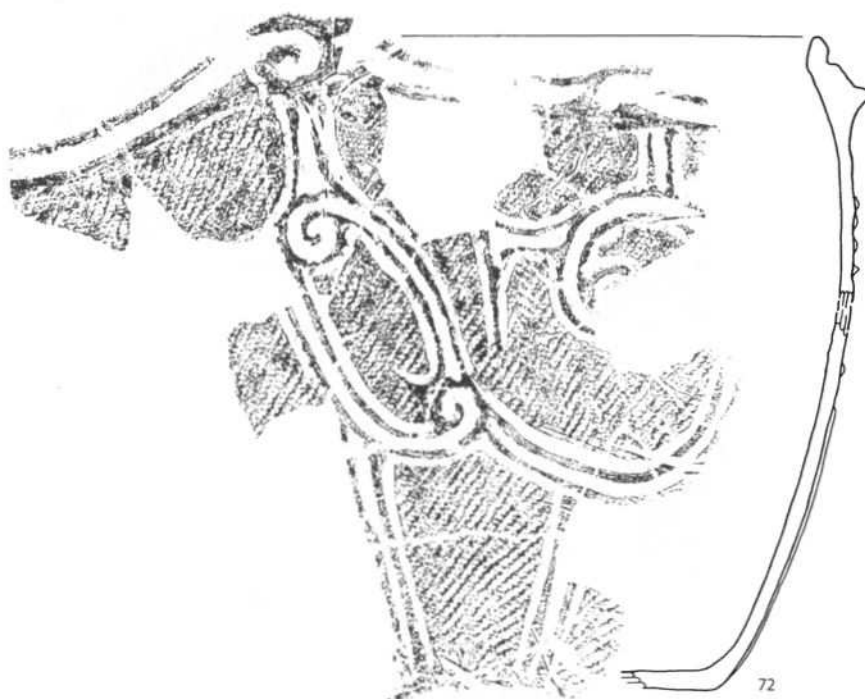
第 34 图 B 地点出土遺物 4



第 35 图 B 地点出土遗物 5



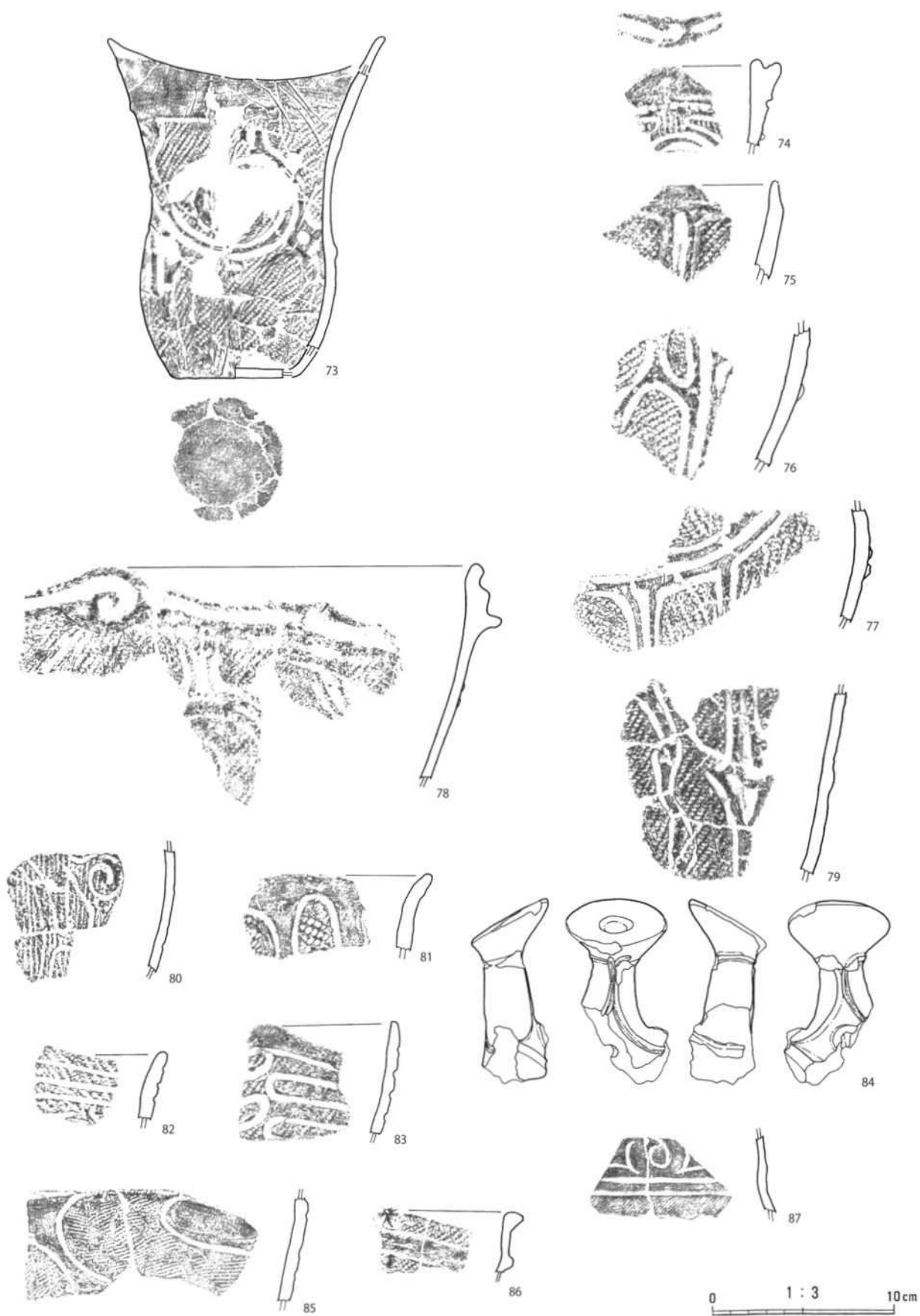
71



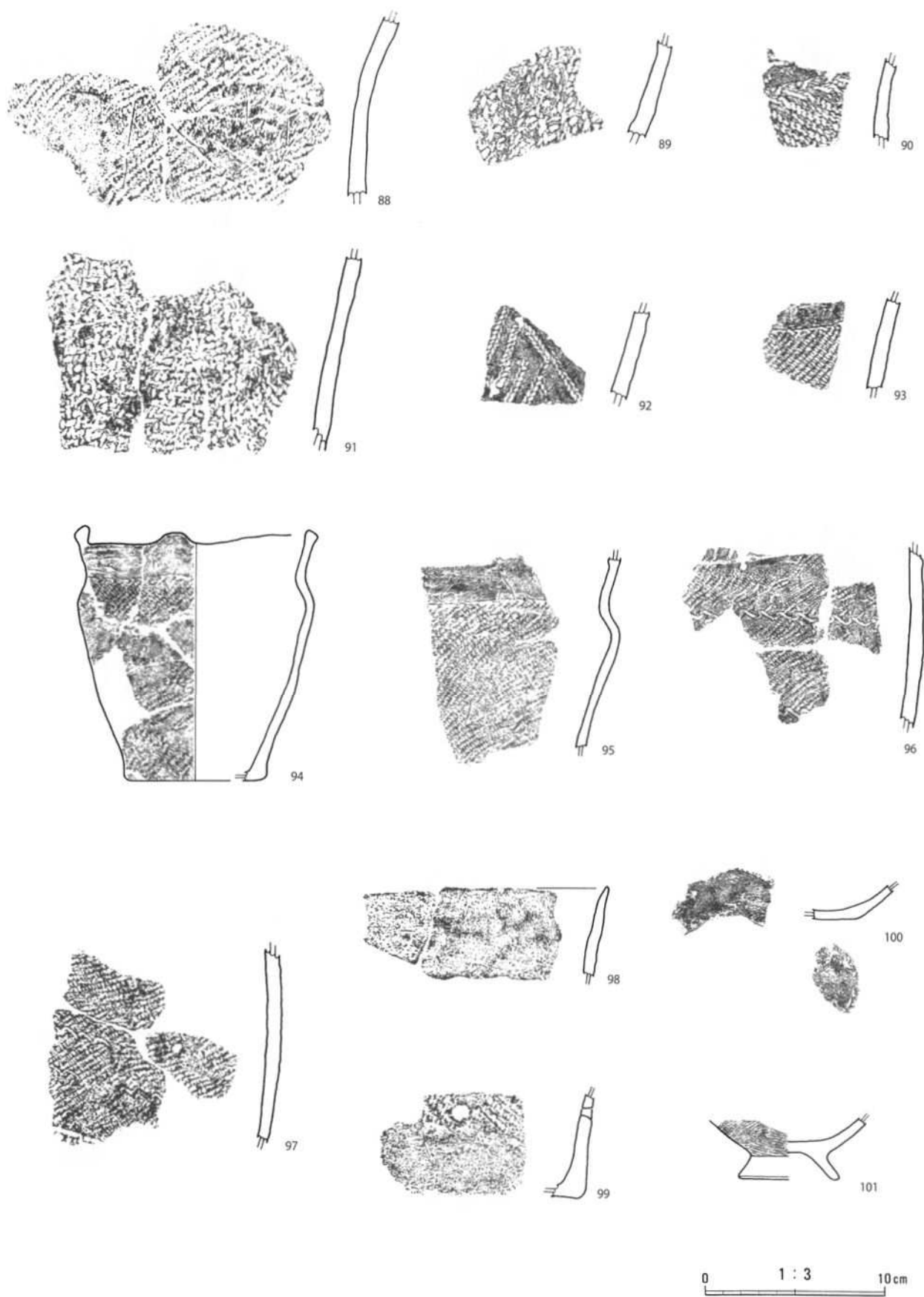
72

0 1 : 3 10 cm

第 36 图 B 地点出土遺物 6



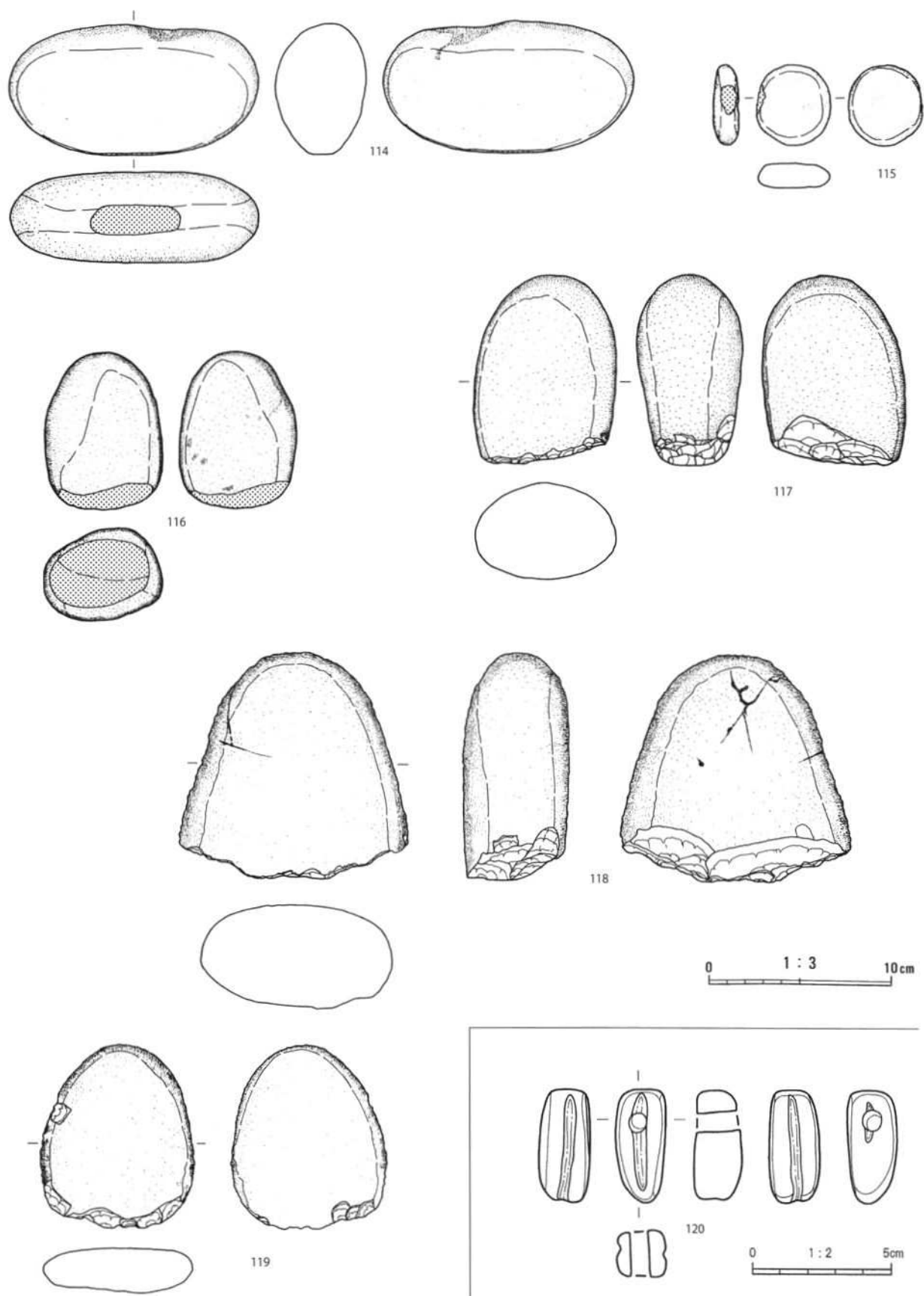
第 37 图 B 地点出土遺物 7



第 38 图 B 地点出土遺物 8



第 39 图 B 地点出土遗物 9



第 40 図 B 地点出土遺物 10

第1表 A地点出土遺物観察表

掲載 No.	種別	器種名	出土地区・遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存部位	調整・文様 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
1	縄文土器	深鉢形	A地点	クリーニンダ	—	—	—	胴部	羽状縄文	縄文前期 胎土に織物混入	9	13
2	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	羽状縄文・原体圧痕文	縄文前期 胎土に織物混入	9	13
3	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	縄文・不整縹糸文	縄文前期 胎土に織物混入	9	13
4	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	縄文	縄文前期 胎土に織物混入	9	—
5	縄文土器	深鉢形	A地点東部	N層	—	—	—	口縁部	縄文・縹帯・枕線・円形竹管文	縄文前期	9	13
6	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
7	縄文土器	深鉢形	A地点	N～V層	—	—	—	口縁部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
8	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	口縁部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
9	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
10	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
11	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	胴部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
12	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
13	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
14	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
15	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・波状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
16	縄文土器	深鉢形	A地点倒木痕	II層	—	—	—	胴部	無文・梯子状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
17	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・梯子状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	—
18	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	無文・梯子状粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
19	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・円形粘土組の貼り付け	縄文前期	9	13
20	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・円形刺突	縄文前期	9	14
21	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・円形刺突	縄文前期	9	—
22	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・刺突	縄文前期	9	14
23	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	竹管文	縄文前期	9	14
24	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・原体圧痕文	縄文前期	10	14
25	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・枕線・突起	縄文中期	10	—
26	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯	縄文中期	10	14
27	縄文土器	深鉢形	A地点	I層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・枕線	縄文中期	10	—
28	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	無文・縹帯	縄文中期	10	—
29	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	無文・縹帯・枕線	縄文中期	10	14
30	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	胴部	無文・縹帯	縄文中期	10	—
31	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・枕線	縄文中期	10	—
32	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	無文・枕線・刺突	縄文中期	10	14
33	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・枕線・把手	縄文中期・34と同一個体	10	14
34	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	無文・枕線・把手	縄文中期・33と同一個体	10	14
35	縄文土器	深鉢形	A地点南部	II層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・縹帯	縄文中期	10	—
36	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	無文・縹帯	縄文中期	10	—
37	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	口縁部	縹糸文・枕線	縄文中期	10	14
38	縄文土器	深鉢形	A地点北東	N層	—	—	—	胴部	縹糸文・枕線	縄文中期	10	—
39	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	無文・縹帯・枕線	縄文中期	10	—
40	縄文土器	深鉢形	A地点北部	III層	—	—	—	胴部	枕線・突起・穿孔	縄文中期・後期	10	14
41	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・環状突起	縄文中期・後期	10	14
42	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・刺突	縄文中期	10	14
43	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯	縄文後期	10	—
44	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	胴部	無文・縹帯	縄文後期	10	—
45	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯	縄文後期	10	14
46	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	縹帯・刺突	縄文後期	10	—
47	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	胴部	縹帯・刺突	縄文後期	10	—
48	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	縹帯・刺突・環状突起	縄文後期	10	14
49	縄文土器	深鉢形	A地点北部	III層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・枕線・突起	縄文後期・50～52と同一個体	10	14
50	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・枕線	縄文後期・49・51・52と同一個体	10	14
51	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	胴部	無文・縹帯・刺突	縄文後期・49・50・52と同一個体	10	—
52	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯・枕線・刺突	縄文後期・49～51と同一個体	10	—
53	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	胴部	縹帯・突起	縄文後期	10	15
54	縄文土器	深鉢形	A地点	N層	—	—	—	口縁部	無文・縹帯	縄文後期	10	15
55	縄文土器	深鉢形	A地点北部	III層	—	—	—	胴部	無文・縹帯	縄文後期	10	—

56	縄文土器	壺形	A地点北部	Ⅲ層	4.9	—	—	—	口縁部～胴部	沈線	縄文後期	11	15
57	縄文土器	壺形	A地点	Ⅳ層	5.2	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
58	縄文土器	壺形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	11	—
59	縄文土器	壺形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	胴部	隆帯・沈線	縄文後期	11	15
60	縄文土器	壺形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	11	15
61	縄文土器	壺形	A地点南部	カクラン	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	11	—
62	縄文土器	壺形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期・赤色顔料塗彩	11	15
63	縄文土器	壺形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	11	—
64	縄文土器	壺形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	隆帯・沈線	縄文後期	11	15
65	縄文土器	壺形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	11	15
66	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
67	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
68	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
69	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
70	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	頸部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
71	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
72	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅳ層	9.5	5.1	6.0	口縁部～底部	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
73	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
74	縄文土器	壺形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	頸部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
75	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
76	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	6.0	胴部～底部	胴部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
77	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・原体正直文	縄文後期	11	—
78	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・原体正直文	縄文後期	11	15
79	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅰ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
80	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
81	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
82	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	15
83	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	16
84	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	12.6	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	11	—
85	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・補修孔	86と同一個体	11	16
86	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	無文	85と同一個体	11	16
87	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
88	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	無文	縄文後期	12	—
89	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	12	—
90	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	無文	縄文後期	12	—
91	縄文土器	深鉢形	A地点	クリーニング	—	—	—	—	口縁部	無文・補修孔	縄文後期	12	—
92	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅴ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
93	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
94	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅰ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
95	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
96	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
97	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
98	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
99	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
100	縄文土器	深鉢形	A地点北東	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
101	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
102	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
103	縄文土器	深鉢形	A地点東部	Ⅰ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
104	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
105	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
106	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
107	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
108	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	16
109	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	17
110	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
111	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	12	17
112	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	12	—
113	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・刺突	縄文後期	12	17

114	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・刺突	縄文後期	12	—
115	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅳ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・刺突	縄文後期	12	17
116	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・刺突	縄文後期	12	17
117	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	12	17
118	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	12	17
119	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿	縄文後期	12	—
120	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿	縄文後期	12	17
121	縄文土器	深鉢形	A地点北部	I層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	12	17
122	縄文土器	深鉢形	A地点北部	I層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	13	17
123	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	13	17
124	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅳ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	17
125	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	13	17
126	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	13	17
127	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅳ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	—
128	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	17
129	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	17
130	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	—
131	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	13	17
132	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿	縄文後期	13	17
133	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	13	17
134	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅱ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	13	18
135	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	18
136	縄文土器	鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
137	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	18
138	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿・刻目	縄文後期	13	18
139	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
140	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
141	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	—
142	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
143	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
144	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
145	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	18
146	縄文土器	深鉢形	A地点北部	I層	—	—	胴部	羽状縄文・沈殿	縄文後期	13	—
147	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
148	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
149	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
150	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
151	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
152	縄文土器	深鉢形	A地点北部	I層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
153	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	羽状縄文・沈殿・突起	縄文後期	13	18
154	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・突起	縄文後期	13	18
155	縄文土器	深鉢形	A地点北部	I層	—	—	口縁部	沈殿・刻目・突起	縄文後期	14	19
156	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	胴部	沈殿・補修孔	縄文後期	14	19
157	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	口縁部	沈殿・突起	縄文後期	14	—
158	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・突起	縄文後期	14	—
159	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目・突起	縄文後期	14	19
160	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅳ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・刻目	縄文後期	14	19
161	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・突起	縄文後期	14	19
162	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	縄文・沈殿・突起	縄文後期	14	19
163	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅳ層	—	—	胴部	沈殿・突起	縄文後期	14	19
164	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	胴部	隆帯・突起	縄文後期	14	19
165	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅱ層	—	5.6	底部	沈殿・突起	縄文後期	14	—
166	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅱ層	—	6.3	底部	沈殿・突起	縄文後期	14	30
167	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	14	—
168	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	14	19
169	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	口縁部	沈殿・刻目	縄文後期	14	19
170	縄文土器	—	A地点北部	Ⅲ層	—	—	突起	縄文・貫通孔	縄文後期	14	19
171	縄文土器	—	A地点	Ⅲ層	—	—	口縁部	縄文・沈殿	縄文後期	14	19

172	縄文土器	—	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	—
173	縄文土器	—	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文後期	14	—
174	縄文土器	鉢形	A地点南部	V層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	19
175	縄文土器	鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	19
176	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	19
177	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	19
178	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	—
179	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	19
180	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	—
181	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	19
182	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	14	—
183	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	19
184	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	19
185	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線・補修孔	縄文後期	14	—
186	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	刺突・沈線	縄文後期	14	—
187	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・刺突・突起	縄文後期	14	19
188	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	14	19
189	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期・スス付着	14	19
190	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	14	20
191	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	15	19
192	縄文土器	皿形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	15	20
193	縄文土器	皿形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期・194・195と同一個体	15	20
194	縄文土器	皿形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期・193・195と同一個体	15	—
195	縄文土器	皿形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期・193・194と同一個体	15	20
196	縄文土器	鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	沈線	縄文後期	15	20
197	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	8.6	底部	沈線	縄文後期	15	30
198	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	底部	沈線	縄文後期	15	—
199	縄文土器	浅鉢形	A地点	I層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・突起	縄文後期	15	20
200	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文後期	15	20
201	縄文土器	鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	15	20
202	縄文土器	鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・刺突	縄文後期	15	20
203	縄文土器	鉢形	A地点南部	V層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文後期	15	20
204	縄文土器	鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	15	20
205	縄文土器	注口土器	A地点南部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文後期	15	20
206	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線・突起	縄文後期	15	20
207	縄文土器	注口土器	A地点南部	V層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期	15	20
208	縄文土器	注口土器	A地点北部	I層	—	—	—	—	胴部	縄文・隆帯・沈線	縄文後期	15	20
209	縄文土器	注口土器	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文後期・210と同一個体	15	20
210	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	沈線	縄文後期・209と同一個体	15	—
211	不明	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	弥生か	15	20
212	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	15	20
213	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	15	—
214	縄文土器	深鉢形	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部～胴部	縄文	縄文	15	—
215	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	15	—
216	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	15	—
217	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	口縁部～胴部	縄文	縄文	16	—
218	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	口縁部～胴部	縄文	縄文	16	21
219	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	22
220	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	—
221	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅲ層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	—
222	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅳ層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	22
223	縄文土器	深鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部～胴部	縄文	縄文後期～晩期	17	22
224	縄文土器	深鉢形	A地点南部	Ⅲ層	—	—	—	—	口縁部	縄文・結節縄文	縄文	17	22
225	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文	17	22
226	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	口縁部	結節縄文	縄文	17	22
227	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	23
228	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	17	—

229	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	17	—
230	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	—
231	縄文土器	深鉢形	A地点	IV~V層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	23
232	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文	17	23
233	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	—
234	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	17	—
235	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文	17	—
236	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	縄文・結節縄文・刺突	縄文	17	23
237	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文	17	—
238	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	口縁部	縄文・結節縄文	縄文	17	23
239	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	17	—
240	縄文土器	深鉢形	A地点北部	—	—	—	—	口縁部	付加条縄文	縄文	18	23
241	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	口縁部	縄文・結節縄文	縄文	18	23
242	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	18	—
243	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	口縁部	縄文・結節縄文	縄文	18	23
244	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文	18	23
245	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	18	—
246	縄文土器	深鉢形	A地点北部	V層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	18	—
247	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文	18	—
248	縄文土器	深鉢形	A地点	III層	—	—	—	口縁部	縄文・枕線	縄文	18	23
249	縄文土器	深鉢形	A地点北部	III層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	18	23
250	縄文土器	深鉢形	A地点北部	III層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	18	23
251	縄文土器	深鉢形	A地点	V層	—	—	—	胴部	網目状縄文	縄文後期	18	23
252	縄文土器	深鉢形	A地点北部	II層	—	—	—	胴部	木目状縄文	縄文前期	18	23
253	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	胴部	縄文	縄文	18	23
254	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	口縁部	条縄文	縄文	18	—
255	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	口縁部	条縄文	縄文後期-晩期	18	24
256	縄文土器	鉢形	A地点	III層	—	—	—	口縁部	枕線	縄文後期-晩期	18	24
257	縄文土器	壺形	A地点	III層	—	—	—	胴部	枕線	縄文後期	18	—
258	縄文土器	鉢形	A地点	II層	—	—	—	胴部	枕線	縄文後期	18	24
259	縄文土器	不明	A地点	クリーニング	—	—	—	胴部	枕線	縄文後期	18	24
260	縄文土器	鉢形	A地点	III層	—	—	—	胴部	縄文・枕線	縄文後期-晩期	18	—
261	縄文土器	深鉢形	A地点	II層	—	—	—	口縁部	枕線・刺突	不明	18	24
262	縄文土器	深鉢形	A地点	IV層	—	—	—	口縁部	無文	—	18	—
263	縄文土器	—	A地点	IV層	—	—	—	底面	網代痕	—	18	24
264	縄文土器	—	A地点	IV層	—	—	—	底面	網代痕	—	18	24
265	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	10.4	底面	網代痕	—	18	24
266	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	網代痕	—	18	24
267	縄文土器	—	A地点北部	III層	—	—	8.4	底面	網代痕	—	19	—
268	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	網代痕	—	19	24
269	縄文土器	—	A地点北部	III層	—	—	7.8	底面	網代痕	—	19	24
270	縄文土器	—	A地点	IV層	—	—	12.4	底面	網代痕	—	19	—
271	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	網代痕	—	19	—
272	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	網代痕	—	19	—
273	縄文土器	—	A地点	IV層	—	—	12.1	底面	木葉痕・網代痕	—	19	25
274	縄文土器	—	A地点	IV層	—	—	9.6	底面	木葉痕	—	19	—
275	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	木葉痕	—	19	—
276	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	—	底面	木葉痕	—	19	25
277	縄文土器	—	A地点北部	III層	—	—	9.2	底面	—	—	19	—
278	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	6.8	底面	—	—	19	—
279	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	9.0	底面	無文	—	19	—
280	縄文土器	—	A地点	V層	—	—	9.8	底面	無文	—	19	—
281	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	12.2	底面	無文	—	19	25
282	縄文土器	—	A地点南部	II層	—	—	8.4	底面	縄文	—	19	—
283	縄文土器	—	A地点南部	II層	—	—	4.6	底面	無文	—	19	—
284	縄文土器	—	A地点南部	II層	—	—	5.2	底面	無文	—	19	—
285	縄文土器	—	A地点	III層	—	—	10.8	底面	—	—	19	—

286	縄文土器	—	A地点	Ⅱ層	—	—	—	底部	無文	—	19	—
287	縄文土器	—	A地点北部	V層	—	—	11.8	底部	無文	—	20	—
288	縄文土器	—	A地点	Ⅱ層	—	—	5.2	底部	無文	—	20	—
289	縄文土器	—	A地点	Ⅱ層	—	—	—	底部	無文	—	20	25
290	縄文土器	—	A地点	Ⅱ層	—	—	5.8	底部	無文	—	20	—
291	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	3.8	底部	無文	—	20	—
292	縄文土器	台付鉢形	A地点北部	Ⅱ層	—	—	6.8	底部	無文	—	20	—
293	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅱ層	—	—	—	底部	無文	—	20	—
294	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	8.4	底部	無文	—	20	30
295	縄文土器	台付鉢形	A地点	Ⅲ層	—	—	—	底部	無文	—	20	—
296	縄文土器	注口土器	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	注口部	無文	注口部	20	25
297	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅱ層	—	—	—	注口部	無文	注口部	20	25
298	縄文土器	注口土器	A地点東部	I層	—	—	—	注口部	無文	注口部	20	—
299	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅱ層	—	—	—	注口部	無文	注口部	20	—
300	縄文土器	注口土器	A地点東部	Ⅱ層	—	—	—	注口部	無文	注口部	20	—
301	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅱ層	—	—	—	注口部	無文	注口部・縄文後期・コブ付き土器	20	25
302	縄文土器	注口土器	A地点	クリーニング	—	—	—	注口部	無文	注口部・縄文後期・コブ付き土器	20	—
303	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅲ層	—	—	—	注口部	無文	注口部・縄文後期・コブ付き土器	20	25
304	縄文土器	注口土器	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	胴部	無文	注口部・縄文後期・コブ付き土器	20	25
305	縄文土器	注口土器	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	注口部	注線	注口部・縄文後期	20	—
306	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅱ層	—	—	—	注口部	注線	注口部・縄文後期	20	25
307	縄文土器	注口土器	A地点	Ⅱ層	—	—	—	胴部	注線・突起	—	20	—
308	縄文土器	—	A地点	クリーニング	—	—	—	突起	注線	—	20	—
309	縄文土器	—	A地点北部	Ⅲ層	—	—	—	突起	注線	—	20	—
310	縄文土器	—	A地点北部	Ⅱ層	—	—	—	突起	注線	—	20	25

掲載 No.	種別	器種名	出土遺構	層位	計測値 (cm)		重量 (g)	調整	備考	図版 No.	写真 No.	
					全長	幅						厚さ
311	石器	石鏃	A地点	Ⅲ層	1.7	1.2	0.3	0.5	細部調整	黒曜石製 北上折居産	21	26
312	石器	石鏃	A地点	クリーニング	1.6	1.4	0.5	0.9	細部調整		—	21
313	石器	石鏃	A地点	南Ⅱ層	2.0	1.2	0.3	0.4	細部調整	—	21	26
314	石器	石鏃	A地点	Ⅲ層	2.4	1.2	0.7	2.0	細部調整	—	21	26
315	石器	石鏃	A地点		細部調整	2.6	1.3	0.4	1.2	細部調整	—	21
316	石器	石鏃	A地点	Ⅲ層	3.2	1.7	0.6	2.5	細部調整	—	21	26
317	石器	石鏃	A地点	北Ⅴ層	3.1	1.8	0.4	1.1	細部調整	—	21	26
318	石器	石鏃	A地点	Ⅳ層	3.4	1.9	0.6	2.1	細部調整	—	21	26
319	石器	石鏃	A地点	Ⅳ層	3.2	2.0	0.6	2.3	細部調整	—	21	26
320	石器	石鏃	A地点	Ⅱ層	1.4	1.3	0.3	0.3	細部調整	—	21	26
321	石器	石鏃	A地点	Ⅳ層	2.7	1.9	0.5	1.4	細部調整	—	21	26
322	石器	石鏃	A地点	北西Ⅴ層	2.5	1.5	0.3	1.1	細部調整	—	21	26
323	石器	石鏃	A地点	I層	2.3	1.7	0.5	1.0	細部調整	—	21	26
324	石器	石鏃	A地点	クリーニング	3.0	1.0	0.8	1.8	細部調整	—	21	26
325	石器	石鏃	A地点	クリーニング	3.0	1.1	0.4	0.9	細部調整	—	21	26
326	石器	石鏃	A地点	Ⅳ層	3.1	2.3	0.8	4.4	細部調整	—	21	26
327	石器	石匙	A地点北部	Ⅲ層	3.1	6.2	8.0	9.3	細部調整	—	21	26
328	石器	石匙	A地点南	Ⅱ層	4.9	1.8	0.6	5.1	細部調整	—	21	26
329	石器	ヘラ状石器	A地点北西	Ⅴ層	6.7	3.1	1.4	31.9	細部調整	—	22	26
330	石器	埴器	A地点	Ⅲ層	3.6	4.9	1.3	2.3	細部調整	—	22	26
331	石器	異形石器	A地点	Ⅳ層	5.1	3.0	1.1	19.7	細部調整	一部欠損	22	26
332	石器	異形石器	A地点	Ⅲ層	1.9	1.0	0.3	0.4	細部調整	黒曜石製 北海道赤井川産 一部欠損	22	26
333	石器	異形石器	A地点	Ⅲ層	2.0	0.9	0.3	—	細部調整	黒曜石製 欠損	22	26
334	石器	剥片	A地点	Ⅲ層	2.0	2.4	0.4	—	—	黒曜石製	22	26
335	石器	打製石斧	A地点	Ⅴ層	11.9	8.6	3.5	470	背面自然面	—	23	27
336	石器	打製石斧	A地点北部	Ⅱ層	11.0	6.3	3.1	290	背面自然面	—	23	27
337	石器	打製石斧	A地点	Ⅱ層	7.3	4.3	1.4	80	背面自然面	—	23	27
338	石器	打製石斧	A地点	Ⅱ層	3.7	2.8	0.9	20	背面自然面	—	23	27
339	石器	磨製石斧	A地点北部	Ⅱ層	10.8	4.3	3.8	290	—	—	23	27
340	石器	磨製石斧	A地点南部	Ⅲ層	8.3	6.0	2.8	210	—	—	23	—
341	石器	磨石	A地点	Ⅳ層	11.2	7.1	5.5	580	—	—	23	—

342	石器	磨石	A地点	II層	15.1	7.5	5.0	850	—	—	23
343	石器	磨石	A地点東部	IV層	14.4	7.6	8.7	1130	—	—	24
344	石器	磨石	A地点	III層	11.7	6.5	6.1	800	—	—	24
345	石器	磨石	A地点	II層	16.5	8.6	6.1	1320	—	—	24
346	石器	磨石	A地点北部	III層	8.5	8.7	4.8	610	—	—	25
347	石器	磨石	A地点	II層	10.3	6.2	3.6	370	—	—	25
348	石器	磨石	A地点北部	II層	15.6	8.4	6.6	1160	—	—	25
349	石器	磨石	A地点	IV層	13.4	8.0	5.2	1040	—	—	25
350	石器	磨石	A地点	IV層	9.4	6.2	3.4	400	—	—	25
351	石器	磨石	A地点北部	II層	13.5	7.7	5.0	790	—	—	25
352	石器	磨石	A地点	III層	7.3	3.5	3.1	130	—	—	25
353	石器	磨石	A地点	II層	14.1	7.1	6.2	960	—	—	26
354	石器	磨石	A地点	III層	11.3	7.0	5.7	640	—	—	26
355	石器	磨石	A地点北部	III層	14.6	7.8	5.3	960	—	—	26
356	石器	磨石	A地点	III層	11.0	5.7	5.2	460	—	—	26
357	石器	磨石	A地点	IV層	8.4	7.4	4.0	160	—	—	26
358	石器	磨石	A地点	II層	7.4	8.4	5.2	510	—	—	26
359	石器	磨石	A地点	III層	12.2	8.8	7.4	1210	—	—	27
360	石器	磨石	A地点	IV層	16.0	5.7	5.6	890	—	—	27
361	石器	磨石	A地点北部	II層	12.7	4.8	3.2	350	—	—	27
362	石器	磨石	A地点 南	II層	8.3	8.5	5.7	630	—	—	27
363	石器	磨石	A地点北部	II層	9.5	9.1	4.6	650	—	—	27
364	石器	叩き石	A地点	III層	7.1	6.5	2.7	210	—	—	27
365	石器	叩き石	A地点	III～IV層	10.4	8.7	4.2	560	—	—	28
366	石器	磨石	A地点	IV層	8.0	6.5	2.4	230	—	—	28
367	石器	不明	A地点北部	II層	6.1	3.8	1.0	50	—	—	28
368	石器	石皿	A地点	III層	5.9	7.4	2.1	170	—	—	28
369	石器	石皿	A地点北部	II層	14.5	8.8	5.6	840	—	—	28
370	石器	石皿	A地点北部	II層	8.7	9.6	2.9	270	—	—	28
371	石器	石皿	A地点	III層	11.6	12.5	4.7	850	—	—	28
372	石器	砥石	A地点	排土一括	11.5	9.3	6.5	840	—	—	28

掲載 No.	種別	器種名	出土地区・遺構	層位	最大長 (cm)	最大厚 (cm)	底径 (cm)	残存部位	調整・文様 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
373	土製品	ミニチュア土器	A地点北部	II層	—	—	3.8	底部	無文	—	29	—
374	土製品	ミニチュア土器	A地点	II層	—	—	3.7	底部	無文	—	29	25
375	土製品	ミニチュア土器	A地点北部	III層	—	—	3.4	底部	無文	—	29	25
376	土製品	ミニチュア土器	A地点	II層	—	—	4.6	底部	無文	網代痕	29	—
377	土製品	ミニチュア土器	A地点東部	I層	—	—	4.9	底部	無文	網代痕	29	—
378	土製品	ミニチュア土器	A地点	III層	—	—	4.4	底部	無文	—	29	25
379	土製品	ミニチュア土器	A地点	III層	—	—	3.9	底部	無文	—	29	—
380	土製品	土製円盤	A地点	III層	4.3	0.7	—	完形	沈線	—	29	25
381	土製品	土製円盤	A地点東部	I層	6.3	1.1	—	完形	網代痕	—	29	25
382	土製品	土製円盤	A地点	III層	5.0	1.0	—	完形	無文	—	29	29
383	土製品	土製円盤	A地点南部	II層	4.3	0.8	—	完形	無文	—	29	29
384	土製品	土製円盤	A地点	III層	5.2	0.7	—	完形	無文	—	29	29
385	土製品	土製円盤	A地点北部	I層	5.0	0.7	—	完形	無文・隆帯	—	29	29
386	土製品	土製円盤	A地点北部	III層	4.8	0.6	—	完形	沈線	—	29	29
387	土製品	土製円盤	A地点	III層	4.7	1.2	—	完形	沈線	—	29	29
388	土製品	土製円盤	A地点北部	III層	3.9	1.0	—	完形	無文	—	29	29
389	土製品	土製円盤	A地点	III層	3.7	1.2	—	完形	隆帯	—	29	29
390	土製品	土偶	A地点	—	4.2	2.3	—	胴体	刺突	—	29	29
391	土製品	土偶	A地点北部	III層	5.0	1.7	—	胴体	沈線	—	29	29
392	土製品	土偶	A地点	III層	5.3	1.2	—	胴体	刺突	—	29	29
393	土製品	土偶	A地点	—	3.6	2.5	—	右足	沈線	—	29	29
394	土製品	土偶	A地点	クリーニンダ	8.1	2.8	—	胴体	沈線	395と同一個体	30	29
395	土製品	土偶	A地点	II層	7.6	1.9	—	足	無文・沈線	394と同一個体	30	29
396	土製品	土偶	A地点	IV層	6.4	1.8	—	足	—	—	30	29
397	土製品	不明	A地点	IV層	4.5	3.4	—	ほぼ完形	無文・貫通孔	—	30	29
398	石製品	石製円盤	A地点	III層～IV層	4.8	1.2	—	完形	—	—	30	29
399	石製品	磨石	A地点	II層	6.6	3.2	—	—	一部欠損・重量23.2g	—	30	—
400	石製品	石棒	A地点	III層	23.8	7.0	—	端部	側面調整痕	一部欠損	30	—

第2表 B地点出土遺物観察表

掲載 No.	種別	器種名	出土地区・遺構	層位	最大長 (cm)	最大厚 (cm)	底径 (cm)	残存部位	調整・文様 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
1	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	胸部	縄文・原体主痕文	縄文前期・織物混入	31	—
2	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
3	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ7~8	I~Ⅱ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
4	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
5	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
6	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
7	縄文土器	深鉢形	B地点	—	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
8	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
9	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	I~Ⅱ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
10	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
11	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ5	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
12	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
13	縄文土器	深鉢形	B地点	—	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
14	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
15	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
16	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
17	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	—
18	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	31	38
19	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	32	39
20	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	胸部	不整態系文	縄文前期・織物混入	32	—
21	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	Ⅲ層	—	—	—	胸部	不整態系文	縄文前期・織物混入	32	—
22	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文	縄文前期・織物混入	32	38
23	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2・16	I~Ⅱ層	—	—	—	口縁部~胸部	不整態系文	縄文前期・織物混入	32	39
24	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	I~Ⅲ層	—	—	—	口縁部	不整態系文	縄文前期・織物混入	32	—
25	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	32	40
26	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部~胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	32	40
27	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	I~Ⅱ層	—	—	—	口縁部~胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	40
28	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	口縁部~胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	41
29	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	Ⅲ層~Ⅲ層	—	—	—	口縁部~胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	41
30	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	—
31	縄文土器	深鉢形	B地点	—	—	—	—	口縁部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	—
32	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	—
33	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ7	I~Ⅱ層	—	—	—	胸部	不整態系文	縄文前期・織物混入	33	41
34	縄文土器	深鉢形	B地点	—	—	—	—	底部	不整態系文	縄文前期・織物混入	33	—
35	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	羽状縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	33	—
36	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ7~8	I~Ⅱ層	—	—	—	口縁部~胸部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	34	—
37	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ7	I~Ⅱ層	—	—	—	口縁部~胸部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	34	—
38	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	Ⅲ層	—	—	—	口縁部~胸部	縄文・不整態系文	縄文前期・織物混入	34	—
39	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ6	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文・不整態系文・原体主痕文	縄文前期・織物混入	34	—
40	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	縄文・押引文	縄文前期・織物混入	34	—
41	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ2	Ⅲ層南	—	—	—	胸部	縄文・押引文	縄文前期・織物混入	34	—
42	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ2	Ⅲ層南	—	—	—	胸部	縄文	縄文前期・織物混入	34	—
43	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ7~8	I~Ⅱ層	—	—	—	胸部	縄文	縄文前期・織物混入	34	—
44	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文前期・織物混入	34	—
45	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文前期・織物混入	34	—
46	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文前期・織物混入	34	—
47	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ17	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文前期・織物混入・48と同一個体	34	—
48	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ17	Ⅲ層	—	—	—	口縁部	縄文	縄文前期・織物混入・47と同一個体	34	—
49	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	Ⅲ層	—	—	—	胸部	木目状縹系文	縄文前期・織物混入	34	—
50	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	—	—	—	胸部	木目状縹系文	縄文前期・織物混入	34	—

51	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	I層	—	—	—	—	胴部	木目状隠糸文	縄文前明・縄直混入	34	—
52	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	III層	—	—	—	—	胴部	網目状隠糸文	縄文前明・縄直混入	34	—
53	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	胴部	網目状隠糸文	縄文前明・縄直混入	34	—
54	縄文土器	—	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	5.9	底部	無文	縄文前明・縄直混入	34	—
55	縄文土器	—	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	9.3	底部	原体圧痕文	縄文前明・縄直混入	34	42
56	縄文土器	—	B地点トレンチ16	II層	—	—	—	7.5	底部	無文	縄文前明・縄直混入	34	—
57	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	胴部	縄文・竹筭文	縄文前明	35	—
58	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	口縁部	波状粘土紐の貼り付け・刺突	縄文前明	35	—
59	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ12	III層	26.0	—	—	—	口縁部	縄文・波状粘土紐の貼り付け	縄文前明	35	42
60	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	35	—
61	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・3	II層	—	—	—	—	胴部	羽状隠文・突起	縄文前明	35	43
62	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・3	II層	—	—	—	—	胴部	羽状隠文	縄文前明	35	43
63	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・粘土紐の貼り付け	縄文前明	35	43
64	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	口縁部	縄文・波状沈線・刺突	縄文前明	35	43
65	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	底部	縄文・波状沈線	縄文前明	35	—
66	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	口縁部	縄文・刺突	縄文前明	35	43
67	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	口縁部	網目状隠糸文・陰帯・圧痕	縄文前明	35	43
68	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	口縁部	縄文・陰帯	縄文前明	35	43
69	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	口縁部	縄文・陰帯	縄文前明	35	43
70	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文前明	35	43
71	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ15	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文前明	35	43
72	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	14.4	22.5	6.2	口縁部	口縁部	陰帯・沈線・橋状把手	縄文前明	36	44
73	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	II層	18.9	26.9	8.2	口縁部	口縁部	陰帯・沈線	縄文前明	36	44
74	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	15.6	18.8	7.2	口縁部	口縁部	陰帯・沈線	縄文前明	37	44
75	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	45
76	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	—
77	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	—
78	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	III層	—	—	—	—	胴部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	45
79	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	III層	—	—	—	—	胴部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	—
80	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・陰帯・沈線	縄文前明	37	—
81	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ16	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文前明	37	—
82	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文前明	37	45
83	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文前明	37	45
84	縄文土器	—	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	突起	沈線・貫通孔	縄文前明	37	45
85	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ14	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・沈線	縄文前明	37	45
86	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線・突起	縄文前明・コブ付土器	37	45
87	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	口縁部	縄文・沈線	縄文前明	37	45
88	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	—
89	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	—
90	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ2	III層南	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	—
91	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	—
92	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	原体圧痕文	縄文前明	38	45
93	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	III層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	45
94	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	14.0	14.4	—	口縁部	口縁部	縄文	縄文前明	38	45
95	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ3	II層	—	—	—	—	胴部	縄文	縄文前明	38	—
96	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文・97と同一個体	38	45
97	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	胴部	縄文・結節縄文	縄文・96と同一個体	38	—
98	縄文土器	深鉢形	B地点トレンチ9	II層b層	—	—	—	—	口縁部	無文	縄文前明	38	—
99	縄文土器	—	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	—	—	底部	無文・補修孔	縄文前明	38	—
100	縄文土器	—	B地点	—	—	—	—	—	底部	縄文	縄文前明	38	—
101	縄文土器	台付鉢形	B地点トレンチ1・2	II層	—	—	5.7	—	底部	縄文	縄文前明	38	—

掲載 No.	細別	器種名	出土遺構	層位	計測値 (cm)			重量 (g)	調整・文様 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					全長	幅	厚さ					
102	石器	石鏃	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	3.9	2.0	0.6	2.1	細部調整	—	39	46
103	石器	石鏃	B地点トレンチ16	I～Ⅱ層	3.0	1.4	0.5	1.5	細部調整	—	39	46
104	石器	石鏃	B地点トレンチ16	Ⅱ層 上～中	2.6	1.6	0.3	0.8	細部調整	—	39	46
105	石器	石匙	B地点トレンチ16	I～Ⅱ層	7.1	2.5	0.7	14.7	細部調整	—	39	46
106	石器	石匙	B地点トレンチ7	I～Ⅱ層	5.9	2.1	0.5	8.1	細部調整	—	39	46
107	石器	石匙	B地点トレンチ3	Ⅱ層	5.8	2.3	1.1	11	細部調整	—	39	46
108	石器	石匙	B地点トレンチ13	排土	5.0	1.3	0.4	3.9	細部調整	—	39	46
109	石器	磨製石斧	B地点トレンチ1	Ⅱ層	9.0	3.9	2.1	140	—	—	39	46
110	石器	打製石斧	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	6.1	6.0	2.5	150	背面自然面	—	39	46
111	石器	磨製石斧	B地点トレンチ14	Ⅱ層	6.2	4.7	2.3	120	—	—	39	46
112	石器	磨製石斧	B地点トレンチ16	I～Ⅱ層	7.9	4.3	2.0	150	—	—	39	46
113	石器	磨石	B地点	I～Ⅱ層	13.3	8.1	4.4	660	—	—	39	46
114	石器	磨石	B地点トレンチ1・2	Ⅱ層	13.9	7.3	5.0	800	—	—	40	47
115	石器	磨石	B地点トレンチ2	Ⅱ層	4.5	4.0	1.3	50	—	—	40	47
116	石器	磨石	B地点トレンチ1・2	Ⅲ層	8.8	6.6	5.0	490	—	—	40	47
117	石器	磨器	B地点トレンチ	Ⅲ層	10.3	7.8	5.4	790	—	—	40	47
118	石器	磨器	B地点トレンチ1	I～Ⅱ層	12.5	12.7	5.6	1360	—	—	40	47
119	石器	磨器	B地点1トレンチ	Ⅱ層	10.2	8.6	2.4	350	—	—	40	47
120	石製品	翡翠小珠	B地点トレンチ14	Ⅱ層	4.5	1.8	1.7	28.8	貫通孔・溝	縄文後期 新潟県糸魚川・青海産	40	47

84は後期中葉の口縁部突起で、頂部は円形を呈し中央に窪みを有し、内外面に沈線を菱状に施し中央に貫通孔を有する。

85は胴部破片で磨消縄文を施している。十腰内Ⅱ群土器あるいは十腰内Ⅲ群土器と考えられる。

86は口縁部破片で、瘤を貼付した後期後葉の十腰内Ⅱ群土器である。

87は口縁部破片で、口縁部に玉抱き三叉文を施している。晩期浦初頭の大洞B式土器と考えられる。

88～97は縄文を施した土器である。92はR縄文とL縄文の縄の束による原体圧痕文を施している。94、95は器形から縄文晩期と考えられる。96、97は結節した縄文を施し、わずかに横位の刻目が確認される。時期は不明である。

98は無文の口縁部破片である。時期不明である。

99、100は底部である。99は補修孔が確認される。100は薄手で時期は後晩期と考えられる。

101は台付鉢形土器あるいは台付浅鉢形土器である。時期は後晩期と考えられる。

石器（第39図、第40図）

剥片石器が石鏃、石匙、スクレーパーで、礫石器が磨製石斧、打製石斧、磨石、礫器である。

102～104は石鏃である。すべて基部が凹基のものである。

105～108は石匙である。すべて縦形で、かつ腹面側にのみ細部調整を施している。

109、111、112は磨製石斧である。109は研磨が丁寧に施されている。

110は刃部のみ残存している、片面に自然面を残す石斧である。

113～116は磨石である。平面形が横長のもの（113、114）、円形のもの（115）、楕円形のもの（116）がある。116は使用面に稜線が観察され、少なくとも2方向からの使用が考えられる。

117～119は礫器で、先端部を打ち欠いて使用面を形成している。

石製品（第40図）

120は翡翠製品で、形状は先端が尖る5面体である。面積の広い面には穿孔を空け、4つの面には溝を有する。分析鑑定により新潟県糸魚川・青海産の翡翠であることが特定された。

（3）調査のまとめ

第6次調査区のA地点では縄文土器、石器、土製品、石製品が出土する遺物包含層が確認された。また、試掘調査を行ったB地点においても縄文土器、石器、石製品が出土した。時期は縄文時代前期・中期・後期・晩期である。以下、各遺物について検討しまとめとしたい。

・縄文土器（前期・中期・後期）

縄文前期では前期前葉の土器がB地点で多く出土している。文様の特徴は口縁部に不整撚糸文、胴部に羽状縄文を施すもの、口縁部・胴部・底部にS字状連鎖沈文を施すもの、胴部に羽状縄文を施すものが多く、その他器面に原体圧痕文・斜縄文・撚糸文・押引文を施すものがある。前期中葉の土器はA地点・B地点で地文を縄文とし口唇部及び胴部上半に粘土紐を波状、梯子状等に貼り付けるもの、波状口縁の波頂部に突起を有し、器面には羽状縄文を斜位に施したものや鋸歯状の沈線を施したものが出土している。なお今回の調査が当遺跡において前期前葉・中葉の土器がまとまって出土した初例となる。

縄文中期ではB地点で全容の分かる中葉の土器が出土している。該当するものは第36図71（大木8a式）、72、第37図73（大木8b式）である。71の土器は四単位の橋状突起を有し、胴部は丸く膨らみ、胴部に隆帯による剣先状・渦巻文を施している。市内では類例は見られないが、盛岡市大館遺跡（註1）

で器形の類似したものが出土している。72、73の土器は波状口縁の深鉢形土器で、口縁部が横位の渦巻文を施し、胴部は隆帯による大小の渦巻文と垂下する隆帯を施している。当遺跡では第5次調査で類似した土器が出土しており、市内では他に牛沢遺跡・高浜V下地神遺跡などで出土している。型式学的特徴から時期は大木8b式の中でも新しい段階と考えられる。

縄文後期はA地点で断片的な資料ではあるが中葉・後葉の土器が比較的多く出土している。文様の特徴は口縁部が文様帯を持たないものや幅の狭い縄文帯・刻目帯・無文帯からなり、頸部・胴部が沈線や磨消縄文によるモチーフを描出したものが多い。また、頸部・胴部文様帯の磨消縄文内が羽状縄文からなるものや、「瘤付土器」と呼ばれる土器が出土している。当遺跡では第1次調査で少量出土している。市内での出土例は稀で、近内中村遺跡出土の巻貝形土器や墓坑一括の土器と同時期の所産である。

・石器

A地点・B地点で剥片石器が石鏃・石匙・スクレーパー・器種不明のものが出土し、礫石器では磨製石斧・打製石斧・磨石・叩き石・凹石・礫器・石皿が出土した。石鏃は凹基、凸基、尖基のものが出土し、凸基では黒曜石製のものが1点出土した(第21図311)。この黒曜石製の石鏃については産地同定の結果、南西約100km離れた北上折居産と同定された。石匙では摘み部にアスファルトと思われる黒色の有機質が付着したものが出土している(第21図327)。器種不明のものは第22図331と黒曜石製の第22図332が該当する。前者はスクレーパーとしての用途が考えられるが、形状の類似例を見つけることができず、他の用途を検討する余地を残すため器種不明として分類した。後者はいわゆる異形石器として分類されるものと考えられる。この黒曜石製異形石器については産地同定の結果、北海道南西部余市郡赤井川産と同定された。同種の異形石器は三日月形・蝶々形と呼ばれ、平泉町新山権現社遺跡など県内でも出土しているが、北海道千歳市キウス4遺跡(註2)などにも類例があることから、出土した異形石器は津軽海峡を渡った北方系文物と考えられる。磨製石斧・打製石斧では腹面全面に打撃による調整を施し、背面は自然面を残す打製石斧が出土している。市内の千鷲遺跡で出土しているものと類似するもので、前期の所産と考えられる。磨石は石器の中で最も多く、横形・楕円形・縦形・円形のものが多い。

・土製品・石製品

土製品はA地点でミニチュア土器・土製円盤・土偶・器種不明のものが出土した。土偶は第5次調査に続いて7点出土した(第29図390～第30図396)。時期はすべて後期と考えられる。第30図394、395は同一個体の胴と足と考えられ、全て残存していれば器高が20cmを越える大型の土偶であったと考えられる。所産時期は足に鋸歯状の沈線を施していることから、後期中葉～後葉と考えられる。器種不明の第30図397は市内では初出であるが、県内では軽米町長倉I遺跡などで類似したものが出土している。石製品はA地点で石製円盤・石棒が、B地点では翡翠製品(第40図120)が出土した。翡翠製品については次章の鑑定結果の後に検討を加えた。

・総括

今回の発掘調査では遺構は検出されなかったが、出土遺物から周辺には第4次、第5次調査で確認された縄文時代中期の遺構以外のものが存在する可能性が強いことが分かった。特に縄文時代前期・後期・晩期の集落の存在を遺物から検討できるようになったことは大きな成果と考えられる。

(註1) 岩手県立博物館 1982 『岩手の土器』(75ページ4)

(註2) 北海道埋蔵文化財センター 2000 『キウス4遺跡(8)』F・G地点(222ページ図172)など

(4) 自然科学分析

重茂館遺跡群出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

宮古市重茂に所在する重茂館遺跡群から出土した縄文時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器 2 点である (表 1)。時期は、2 点とも縄文時代の中期か後期、または晩期とみられている。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

表1 分析対象

No.	器種
1	石鏃
2	器種不明石器

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管ターゲットはロジウム (Rh)、X 線検出器は SDD 検出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径 8 mm、電圧 50kV、電流 1000 μ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光 X 線分析による X 線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた (望月, 1999 など)。本方法では、まず各試料を蛍光 X 線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps ; count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

そして、これらの指標値を用いた 2 つの判別図 (横軸 Rb 分率—縦軸 Mn 強度 $\times$ 100 / Fe 強度の判別図と横軸 Sr 分率—縦軸 $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$ の判別図) を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせる指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対

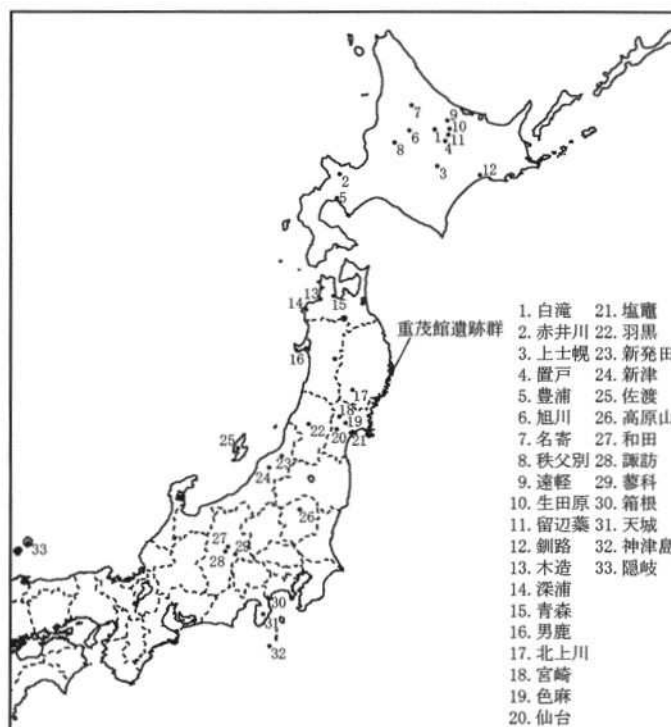


図1 黒曜石産地分布図 (東日本)

して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、 $\log(\text{Fe 強度}/\text{K 強度})$ の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、No.1が北上折居1群(岩手県、北上川エリア)、No.2が赤井川群(北海道、赤井川エリア)の範囲にプロットされた。

表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

4. おわりに

重茂館遺跡群より出土した縄文時代の黒曜石製石器2点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、それぞれ赤井川エリアと北上川エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石

産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書 2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179, 大和市教育委員会.

表3 測定値および産地推定結果

No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	$\log \frac{\text{Fe}}{\text{K}}$	判別群	エリア	No.
1	158.6	91.1	2185.4	339.0	445.0	300.3	918.0	16.93	4.17	22.22	1.14	北上折居1	北上川	1
2	279.0	99.7	1821.4	690.2	320.6	336.1	699.0	33.74	5.47	15.67	0.81	赤井川	赤井川	2

表2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15)
		白滝2	7の沢川支流(2), IK露頭(10), 十勝石沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)
	釧路	釧路山	釧路山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊浦(10)
	旭川	旭川	近文台(8), 雨粉台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別1	
		秩父別2	中山(65)
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名瀬川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
青森	留辺蘂	留辺蘂1	ケシヨマップ川河床(9)
		留辺蘂2	
	釧路	釧路	釧路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)
	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9), 真城(33)
		北上折居2	
		北上折居3	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 大越沢(10)
		櫛引	たらのき代(19)
	新発田	板山	板山牧場(10)
新潟	新津	金津	金津(7)
	佐渡	真光寺	追分(4)
		甘湯沢	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七尋沢	七尋沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)
	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋1	土屋橋西(10)
		土屋橋2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(11)
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
	諏訪	高松沢	高松沢(19)
		星ヶ台	星ヶ台(35), 星ヶ塔(20)
	蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)
		芦ノ湯	芦ノ湯(20)
神奈川	箱根	煙宿	煙宿(51)
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)
		上多賀	上多賀(20)
静岡	天城	柏峠	柏峠(20)
	恩馳島	恩馳島	恩馳島(27)
東京	神津島	砂糠崎	砂糠崎(20)
		久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)
島根	隠岐	箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)

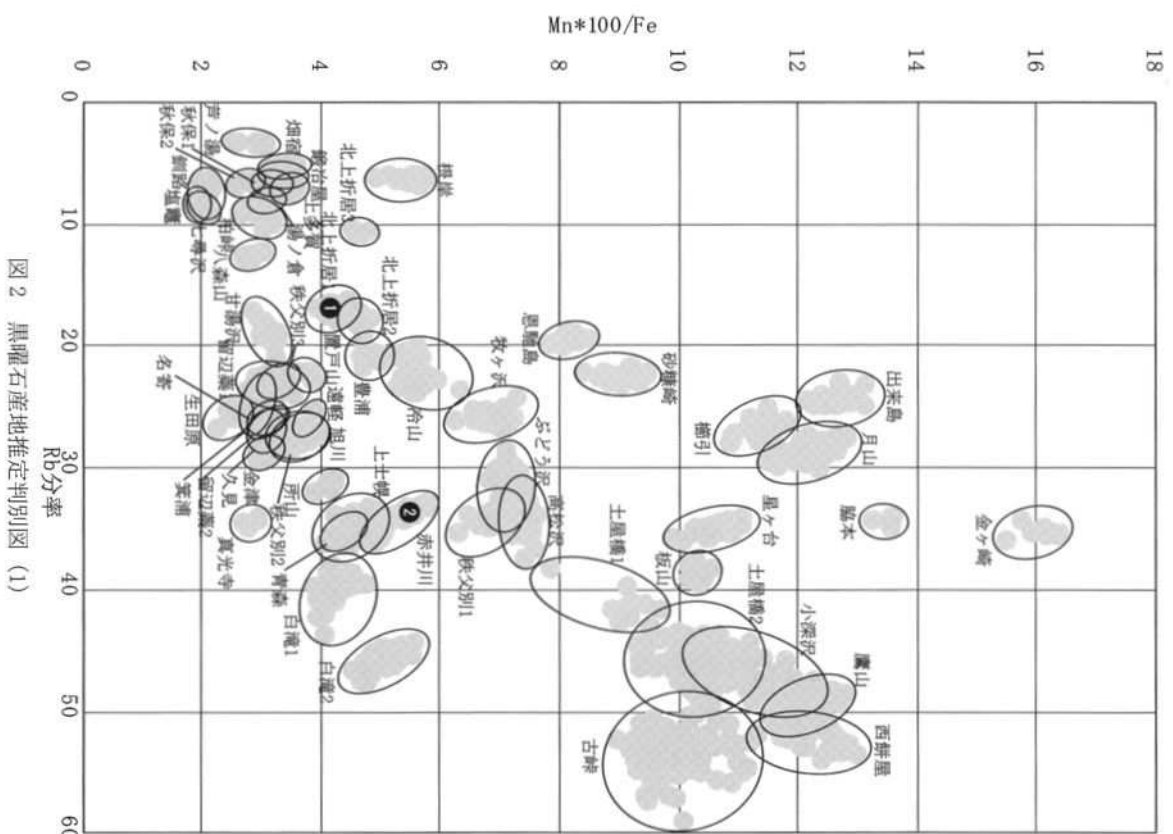


図 2 黒曜石産地推定判別図 (1)

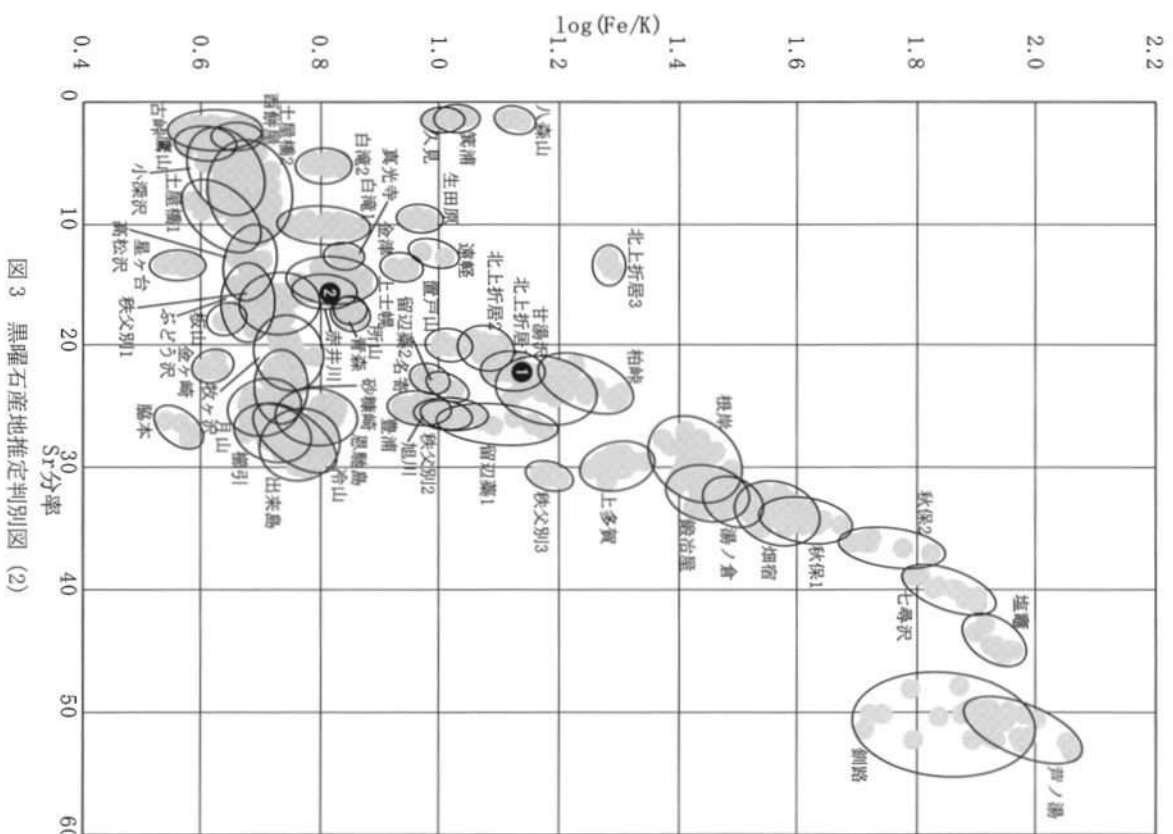
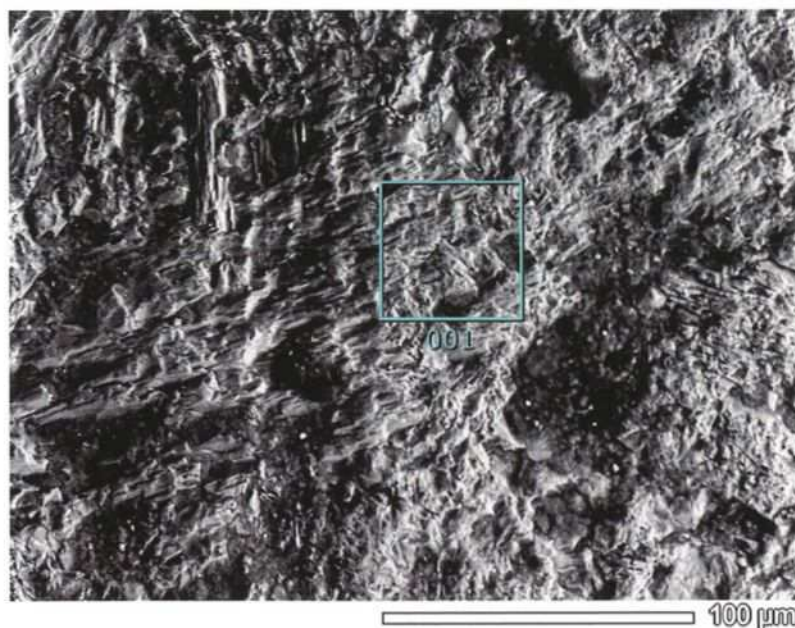
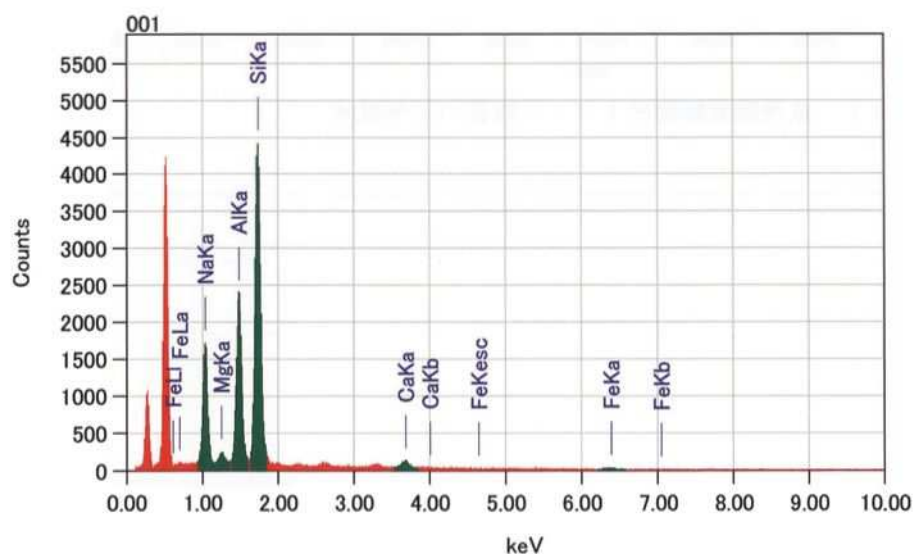


図 3 黒曜石産地推定判別図 (2)



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: x 500
測定日時	: 2019/10/17
画素数	: 1024 x 768



測定条件	: 6510 (LA)
装置名	: 15.0 kV
加速電圧	: 0.45402 nA
照射電流	: T3
PHAモード	: 33.01 sec
経過時間	: 15.00 sec
有効時間	: 54 %
デッドタイム	: 15479 cps
計数率	: 0 - 20 keV
エネルギー範囲	

ZAF法 簡易定量分析 (酸化物)
 フィッティング係数 : 0.5447
 全酸素数 : 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		46.81						
Na K	1.041	10.99	0.81	15.94	Na2O	14.82	0.98	21.2195
Mg K*	1.253	0.72	0.96	1.97	MgO	1.19	0.06	1.1436
Al K	1.486	12.80	1.10	15.81	Al2O3	24.18	0.97	23.2824
Si K*	1.739	26.72	1.46	63.42	SiO2	57.16	1.95	49.9042
Ca K*	3.690	1.13	1.86	1.89	CaO	1.59	0.06	2.7589
Fe K*	6.398	0.82	4.89	0.98	FeO	1.06	0.03	1.6916
合計		100.00		100.00		100.00	4.05	

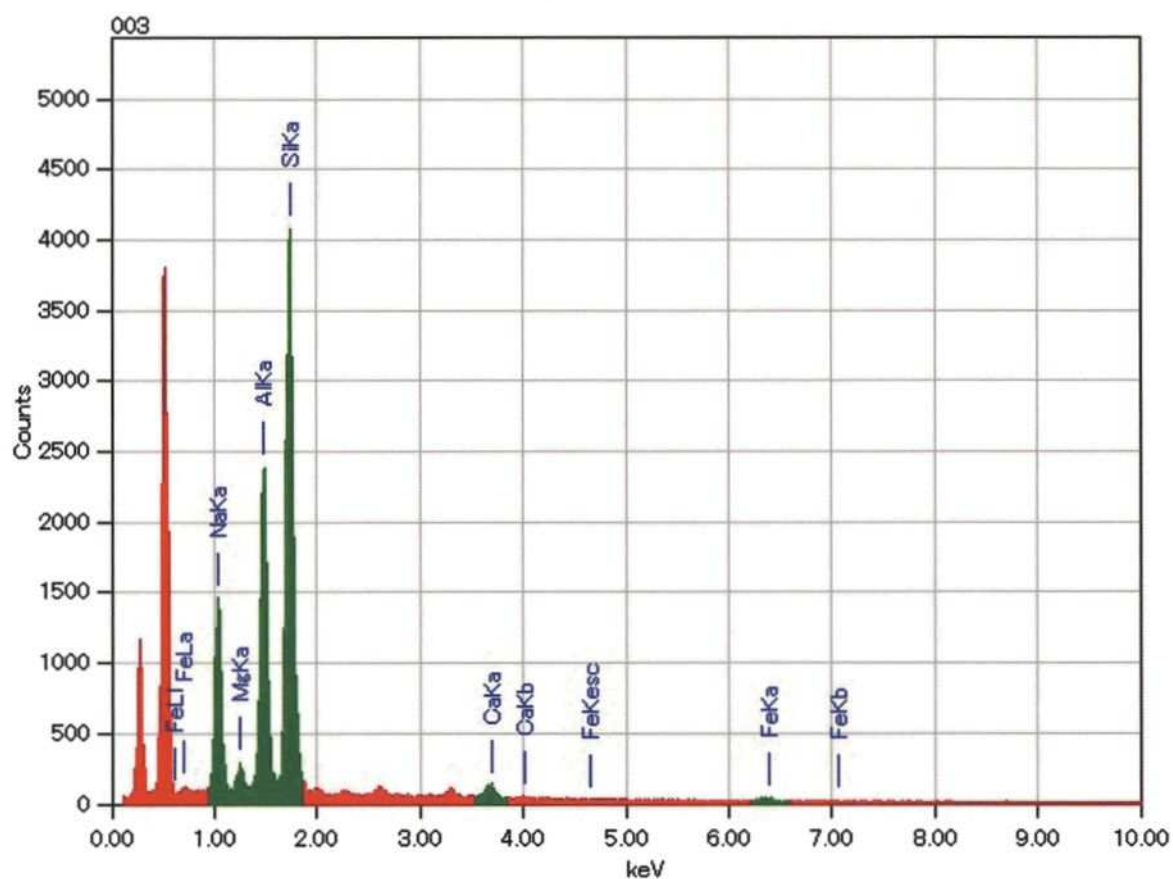


表1 重茂館遺跡群出土ヒスイ製品の化学組成

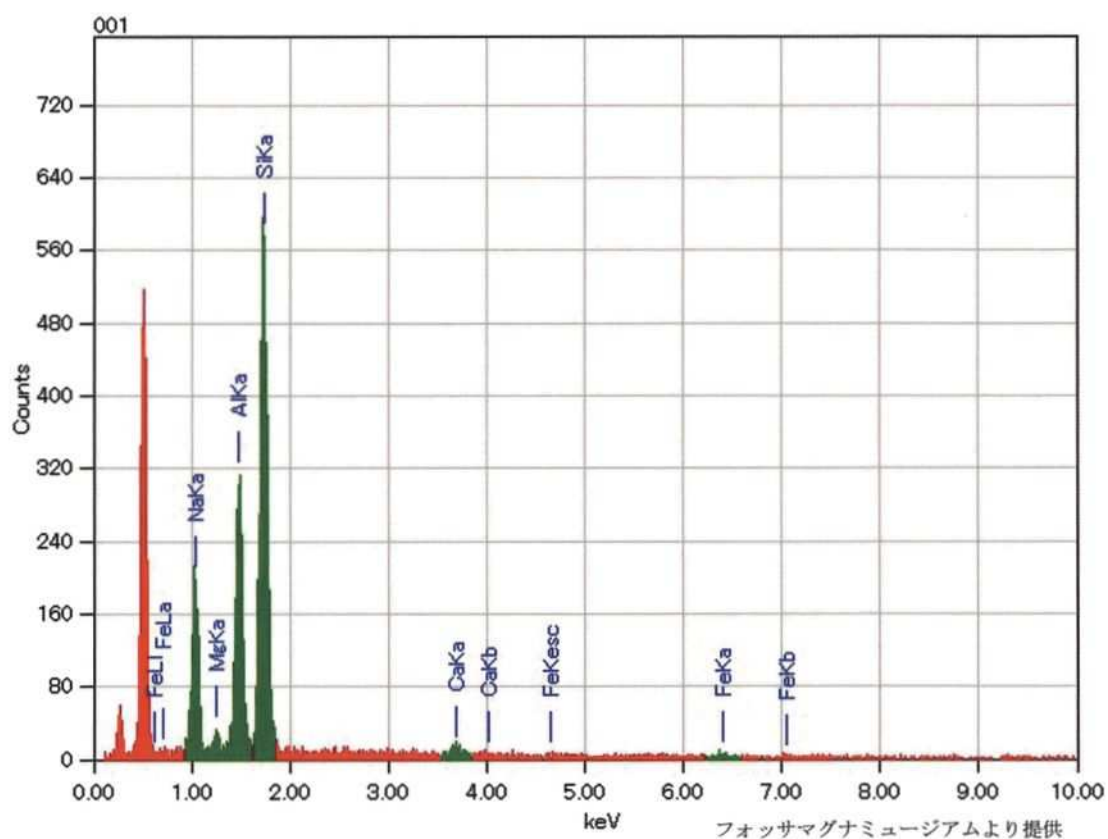


表2 糸魚川産ヒスイの化学組成

B 地点試掘調査で出土した翡翠製品について

試掘調査担当者 宮古市教育委員会 江口 邦泰

1 はじめに

本発掘調査報告書に掲載した巻頭カラー図版2、第40図120の翡翠製品1点について、肉眼的所見、鑑定結果、出土状況、出土事例の点から検討を加えていきたい。

2 肉眼的所見

規模は最大長4.5cm、最大幅1.87cm、最大厚1.77cm、重量28.8gを測る。形状は先端部を有する五面体である。外面的特徴として側面の中央部に縦位の溝が彫られ、直径約7mmの貫通孔を有している。溝は貫通孔のない面では幅3～5mm、最大の深さ1mmを測り、両面には製品の先端部を通過して溝が彫られている。一方、貫通孔を有する面では溝は部分的で、溝の最大長は3.56cmと1.48cmを測る。貫通孔は片面から穿孔されている。溝と貫通孔の製作順序は溝が途切れていないことから、溝が彫られた後に穿孔していると考えられる。

色調は半透明の白色と薄緑色である。また、製品の中には細かな結晶が観察され、製品に光を直接当てると光の透過性が認められる。比重を測定することとし、常温の水道水で簡便な比重を5回測定した結果、数値は3.27、3.31、3.34のいずれかであった。これは翡翠、中でも硬玉（ヒスイ輝石）の比重3.25～3.35の範疇に収まる。

以上の所見や後述する出土状況等から当該製品を縄文時代の翡翠製品と考え、石材の産地を翡翠製品製作（攻玉）遺跡が周辺に分布する新潟県糸魚川・青海産、石材を翡翠の中でも硬玉（ヒスイ輝石）と推定して分析機関に鑑定調査を依頼することとした。なお、以下に記述する「翡翠」は硬玉を指す。

3 鑑定結果

鑑定は令和元年10月に新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムにて試料を直接持ち込み実施した。分析方法は試料の表面に蛍光X線を照射して化学組成比を調べる定量分析と呼ばれる非破壊分析である。分析は同館の小河原孝彦氏によって実施され、試料の2ヶ所に蛍光X線を照射した。そのうち1箇所の分析データが67ページである。別の箇所での化学組成比結果もほぼ同じであった。

当該試料の化学組成とフォッサマグナミュージアムから提供された糸魚川・青海産翡翠の化学組成とを比較したものが68ページである（上段が当該試料）。ヒスイ輝石の化学組成が $\text{NaAlSi}_2\text{O}_6$ で、当該試料の主な化学組成が Na, Al, Si, O であることから、化学組成上、当該試料がヒスイ輝石であることが鑑定された。産地については糸魚川・青海産翡翠の化学組成と近似していることや藁科哲男氏、宮島宏氏の報告から糸魚川・青海産であることが特定された。これは、他の産地が糸魚川・青海産翡翠の化学組成と一致しないことが前提条件になる。

4 出土状況

出土位置・層位は試掘調査区南部、2m四方を調査したトレンチ14のⅡ層である。Ⅱ層は遺物包含層で、混在する遺物は縄文中期土器（第37図74～76・80）、縄文後期土器（第37図82～85）、磨製石斧（第37図583）他、約100点の破片である。Ⅱ層の下は大きな礫が露出し、遺構は検出されなかった。

5 出土事例

青森県・岩手県・秋田県の北東北においては、青森県で鈴木克彦氏、岩手県で当市教委、秋田県で栗澤光男氏、北日本で野村崇氏により縄文時代の翡翠製品が集成・概観されている。集成では、縄文時代の翡翠製品は中期で大型化し「大珠」と呼ばれ、形状が当市上村貝塚出土の三角形や伝市内和井

内出土の鯉節形等多様化するが、後期前葉になると最大長5cm以下に小型化し「小珠」と呼ばれ、後晩期では市内の近内中村遺跡で出土している勾玉形や小玉が多くなる傾向が指摘されている。当該製品と同様の特徴をもつ製品は稀で、岩手県内では当該製品が初出と考えられるが、秋田県大館市荻ノ台Ⅱ遺跡の捨て場から出土した製品2点と酷似する。荻ノ台Ⅱ遺跡から出土した翡翠製品は後期に比定され、当該製品と同様に溝と貫通孔を有する。栗澤氏によれば同種のものは秋田県内では荻ノ台Ⅱ遺跡のみで、他県の類例として青森県黒石市牡丹平遺跡をあげている。後期における県内の出土例は本例以外で溝を有さず貫通孔を空けた小型のものが二戸市大向上平遺跡1号埋設土器、洋野町西平内Ⅰ遺跡7号集石付近などの遺跡で出土している。なお、下記文献を見る限り東北地方南部・関東地方に本例と類似するものは確認されなかった。

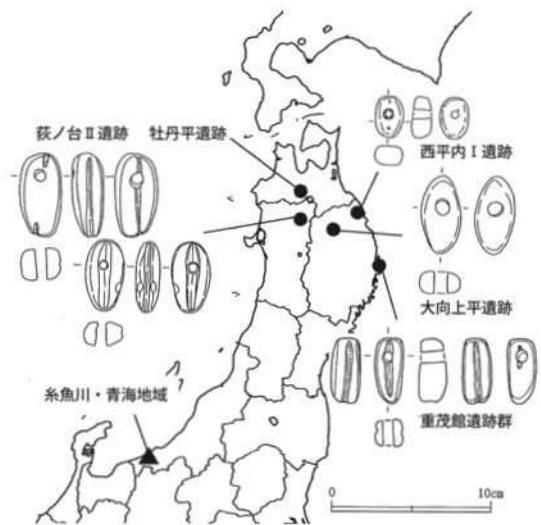
6 まとめ

以上から当該製品は糸魚川・青海産の翡翠で、類例から時代は縄文時代後期と特定した。縄文時代の翡翠製品については糸魚川・青海産に絞られることから広域的流通が課題となる。翡翠製玉類の製作について分析された木島勉氏によれば、製作（攻玉）遺跡は後期後葉になると翡翠原産地以外に出現することが指摘されている。そのことを踏まえると、素材が日本海側の製作遺跡により持ち込まれ、製作後に幾つかの集落を介して荻ノ台Ⅱ遺跡や牡丹平遺跡などの内陸に所在する集落に入り、さらに太平洋側の当遺跡にまで移動したことが想定される。この「糸魚川・青海地域→日本海側（現秋田・青森県沿岸）→北東北の内陸→太平洋側」が定型的な流通ルートであったと仮定すれば、秋田県沿岸を原産とする天然アスファルトの横断^(註1)や、北海道赤井川産と同定されたA地点出土の黒曜石製品が翡翠と同様の流通ルートにのって太平洋側へ持ち運ばれた可能性を指摘することができる。B地点で出土した翡翠製品が宮古地方における陸上流通の解明に寄与する事例となることを期待したい。

参考文献・注釈

- 宮古市教育委員会 2000 『ヒスイに魅せられた人々』第11回ふるさとの歴史展図録
 青森県立郷土館 2001 『火炎土器と翡翠の大珠—土の芸術、石の美、そして広域交流—』
 鈴木克彦 2004 「硬玉製大珠（ヒスイ大珠）」『季刊考古学』第89号
 木島 勉 2004 「北陸地方の玉文化—ヒスイ製玉類の攻玉—」『季刊考古学』第89号
 野村 崇 2004 「北日本（北海道・北東北）の玉文化」『季刊考古学』第89号
 宮島 宏 2004 「日本各地の硬玉・軟玉の産地」『季刊考古学』第89号
 藁科哲男 2004 「縄文時代出土玉類産地科学分析成果」『季刊考古学』第89号
 栗澤光男 2015 「秋田県出土のヒスイ製品集成」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第29号
 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017 『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』

(註1) 市内では蜂ヶ沢Ⅰ遺跡、越田松長根Ⅰ遺跡などで天然アスファルト塊が出土している。



縄文後期の翡翠製品（本文掲載分）分布図

写真図版

A 地点発掘調査



写真1 A地点近景1（東から）



写真2 A地点近景2（南東から）



写真3 A地点土層断面1（東から）



写真4 A地点土層断面2（南から）



写真5 A地点遺物出土状況1（北から）



写真6 A地点遺物出土状況2（東から）

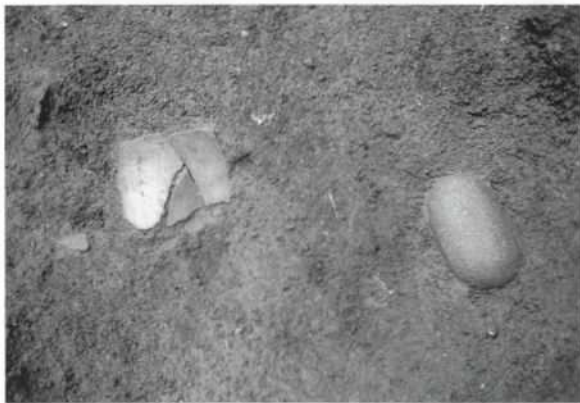


写真7 A地点遺物出土状況3（東から）



写真8 A地点遺物出土状況4（東から）

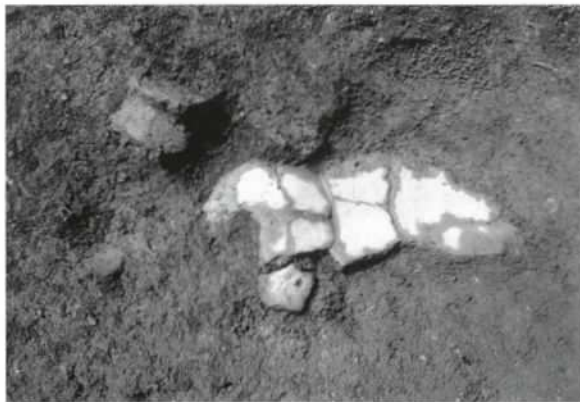


写真9 A地点遺物出土状況5（東から）



写真10 A地点土層断面3（南東から）



写真11 A地点土層断面4（東から）



写真12 A地点作業風景（南から）

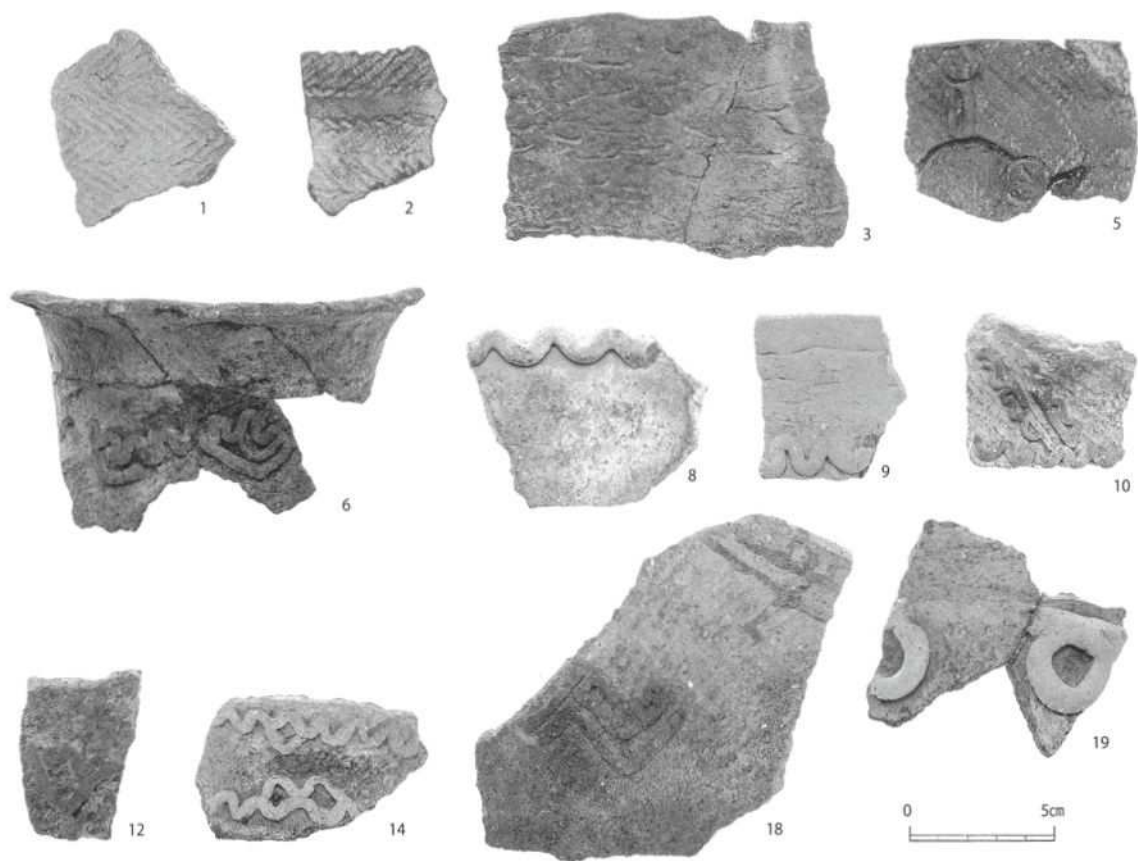


写真 13 A地点出土遺物 1

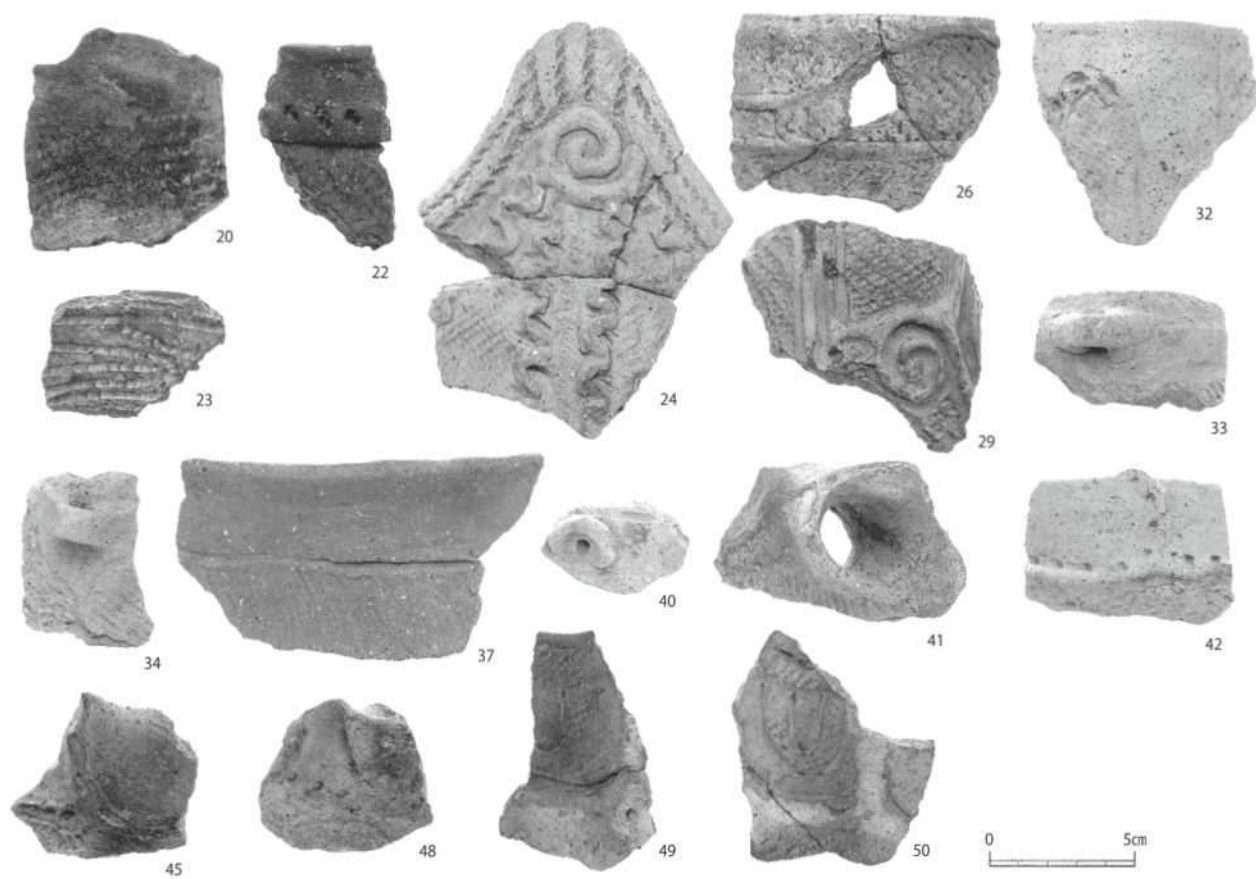


写真 14 A地点出土遺物 2

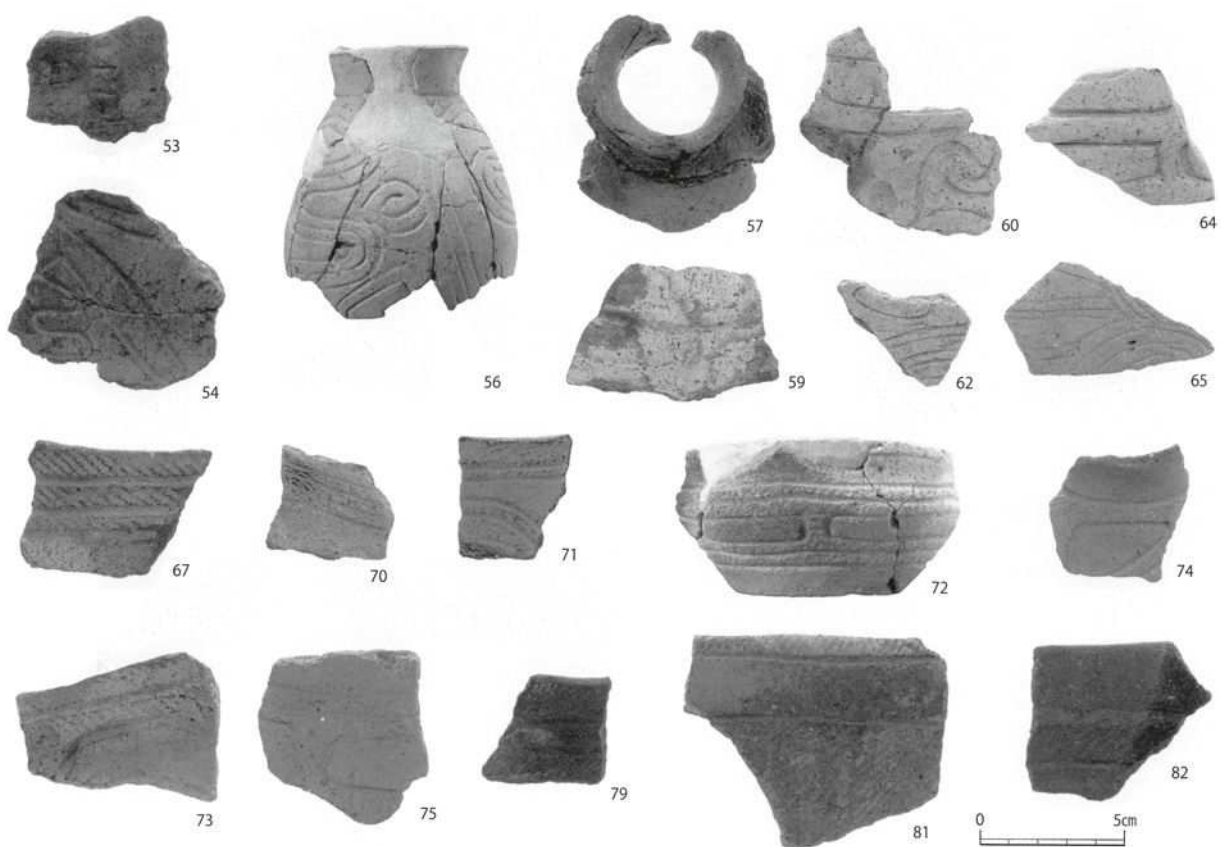


写真 15 A地点出土遺物 3

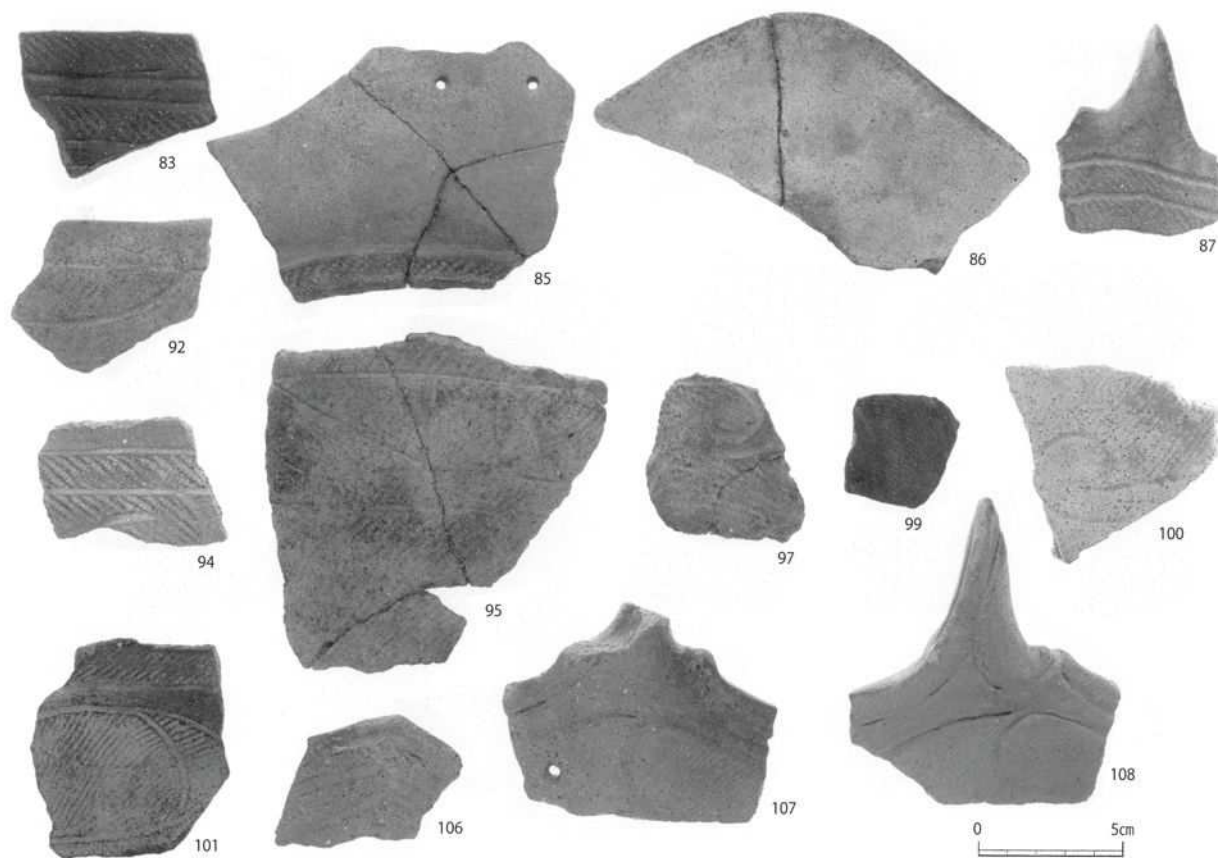


写真 16 A地点出土遺物 4

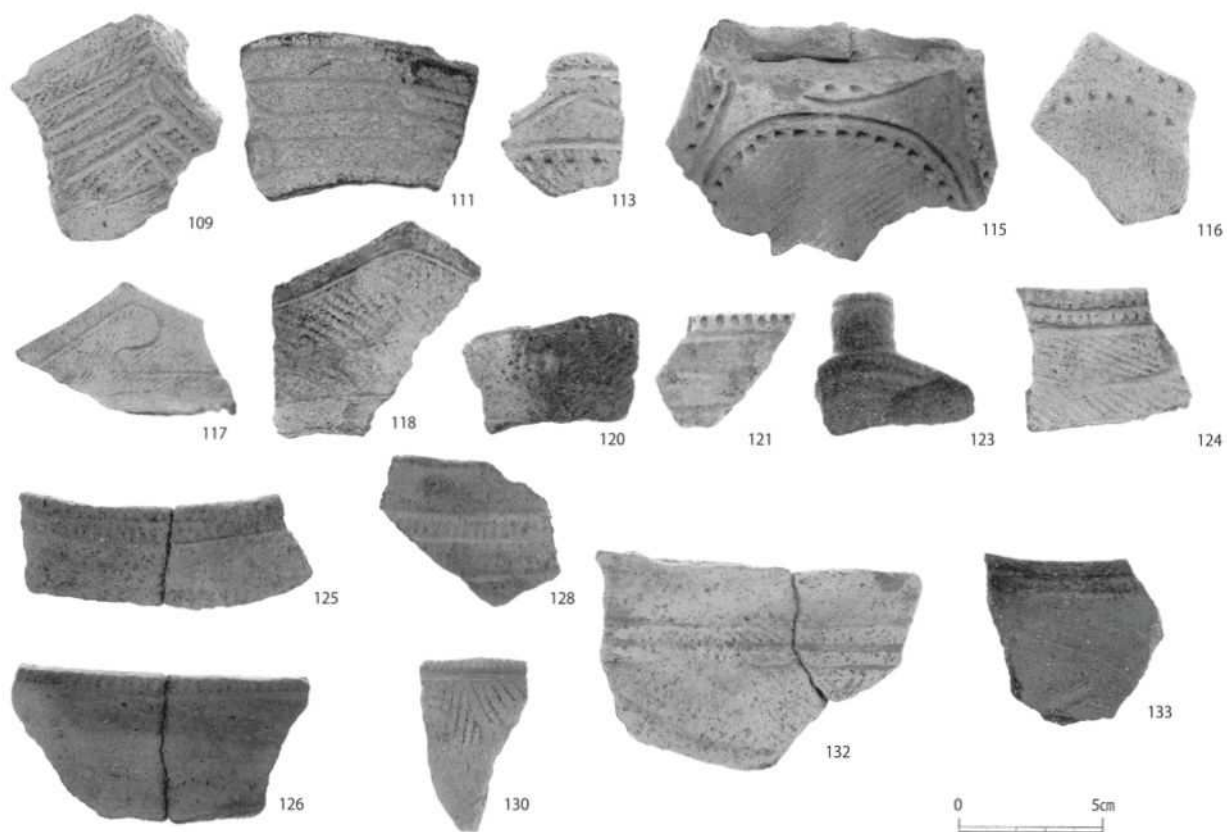


写真 17 A地点出土遺物 5

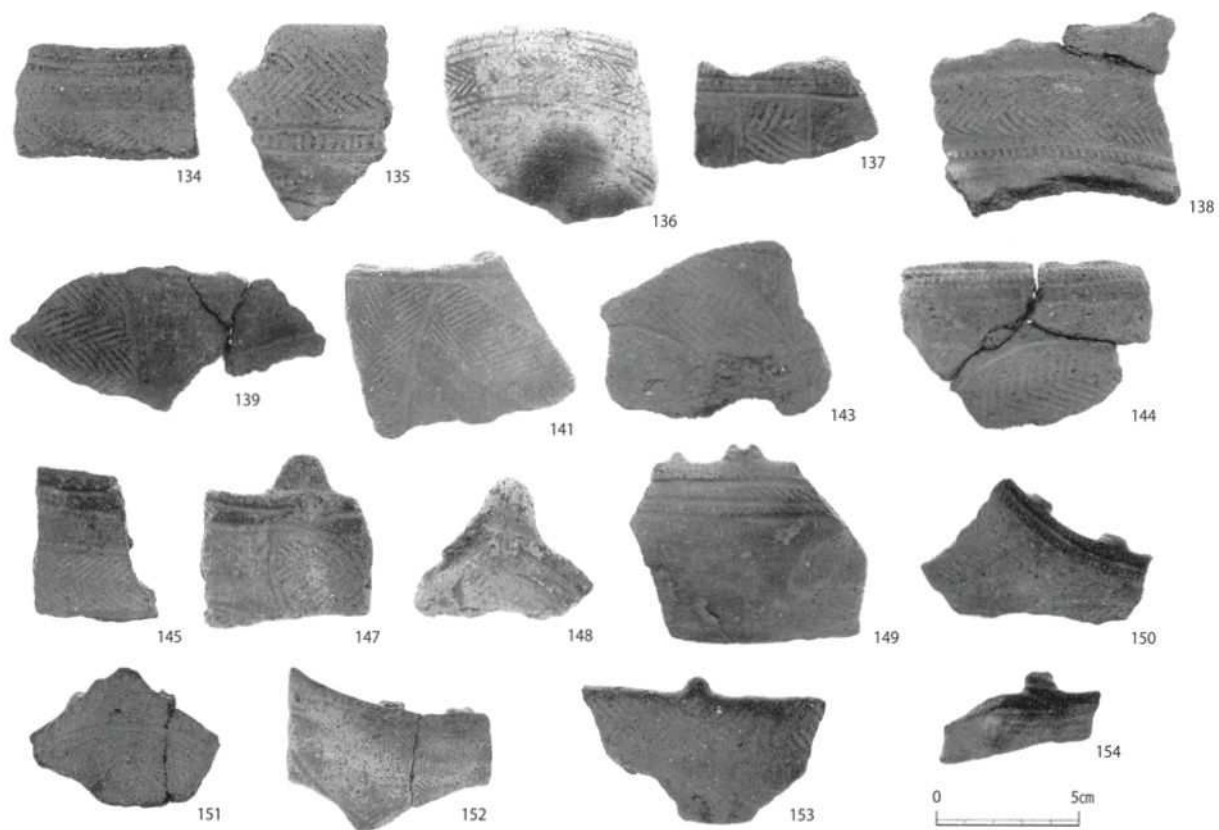


写真 18 A地点出土遺物 6

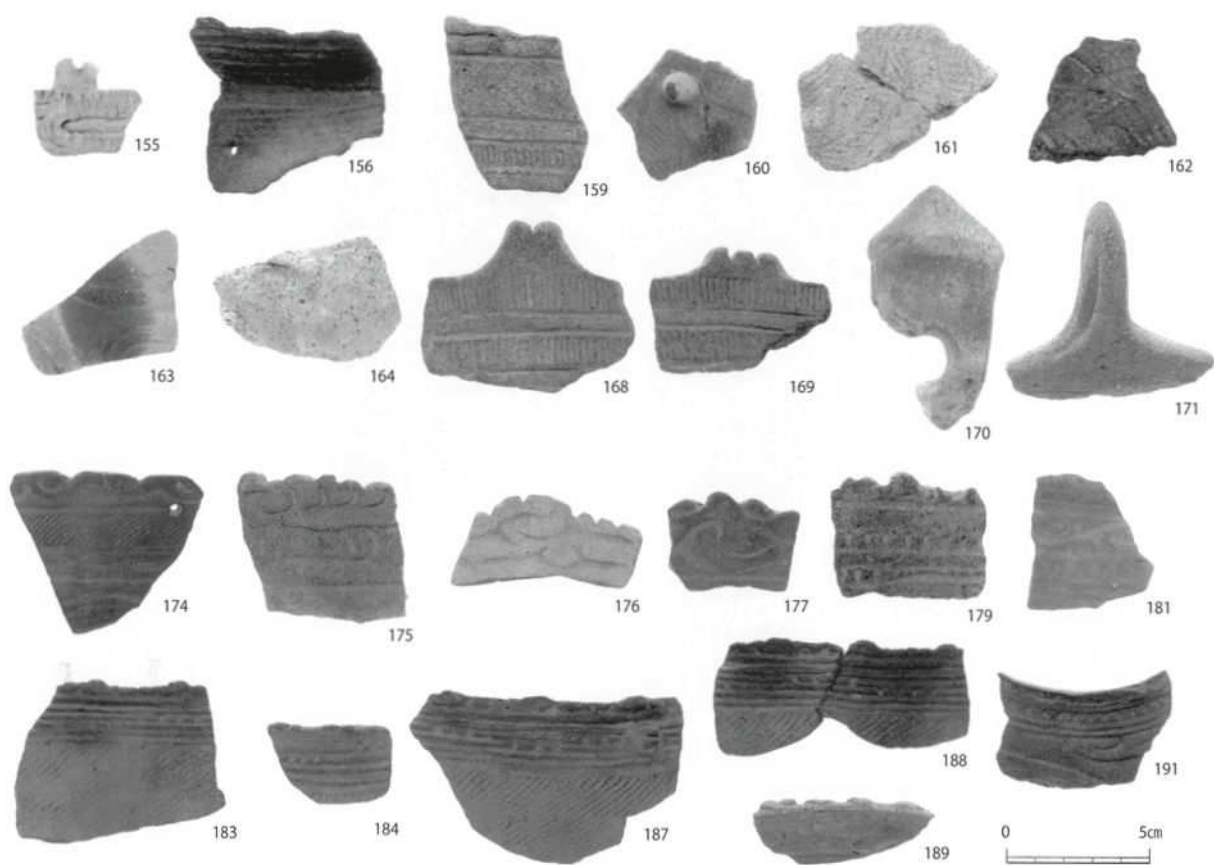


写真 19 A地点出土遺物 7

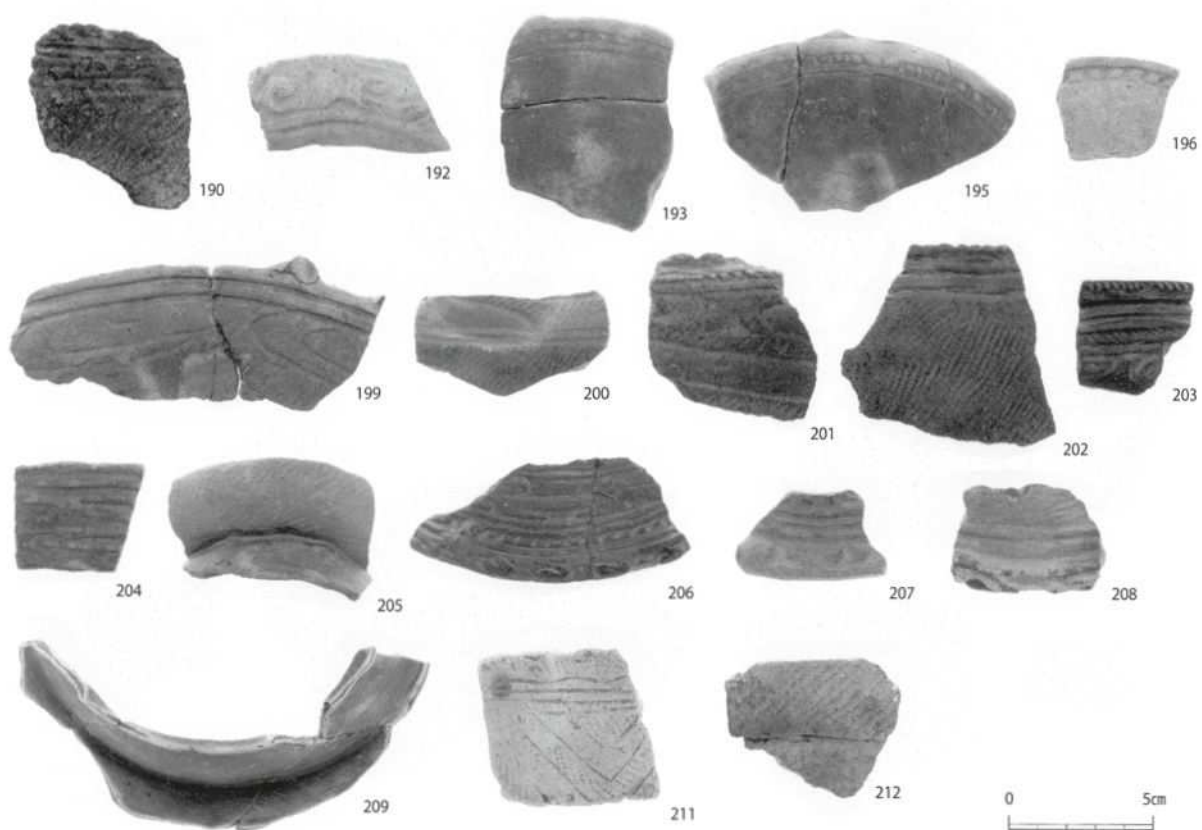


写真 20 A地点出土遺物 8



218

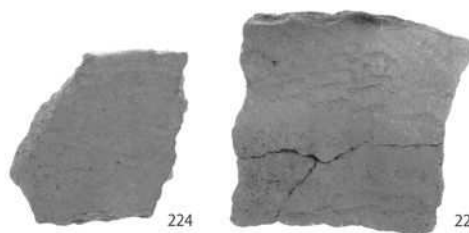
写真 21 A地点出土遺物 9



219

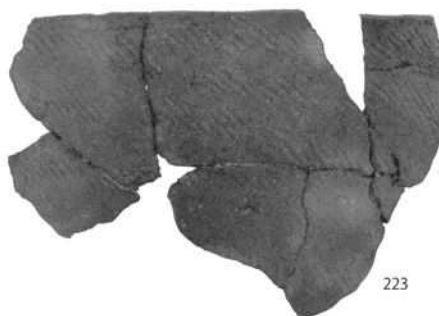


222



224

225



223



226



写真 22 A地点出土遺物 10

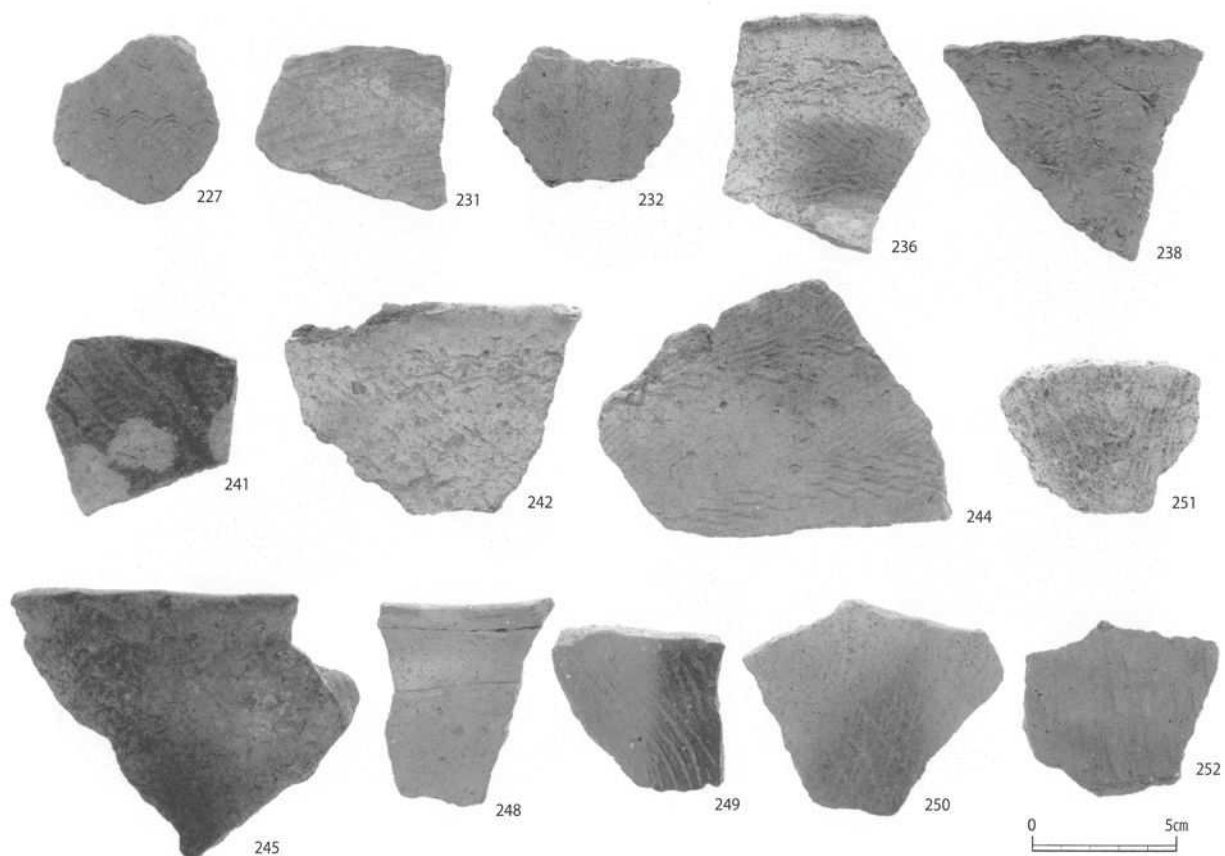


写真 23 A地点出土遺物 11

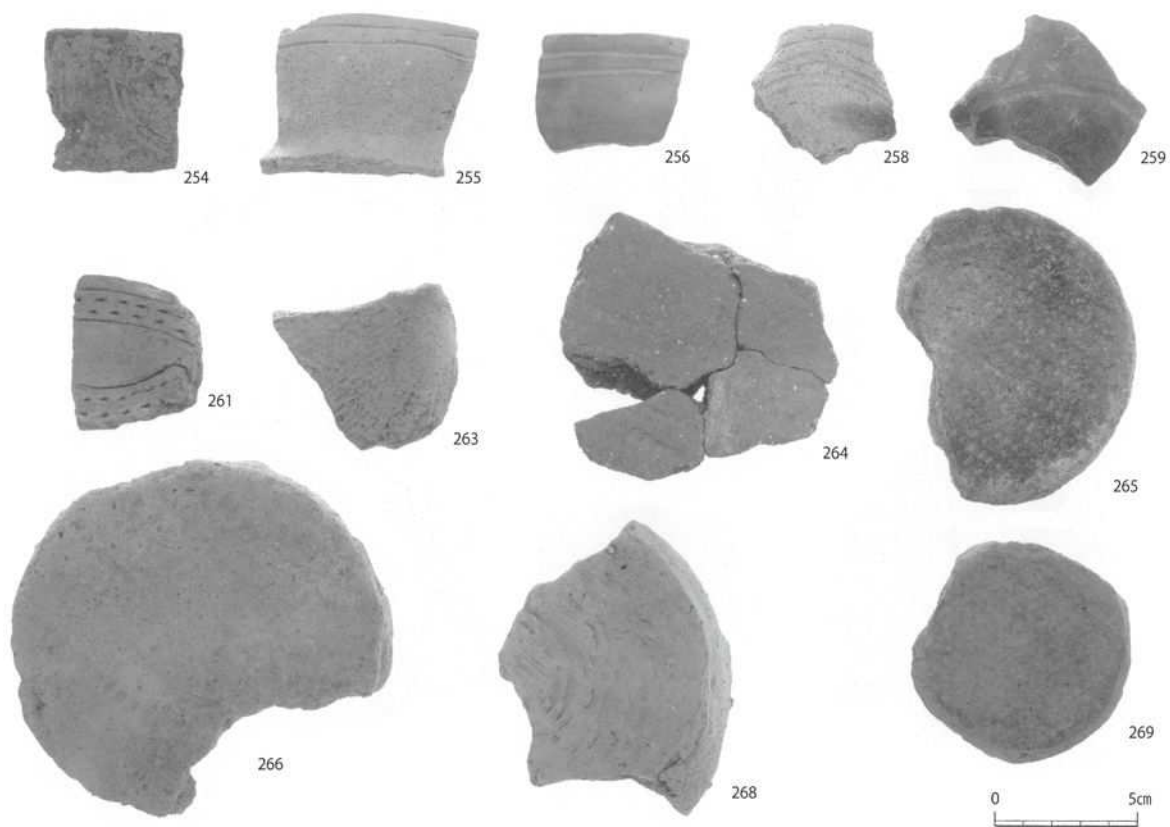


写真 24 A地点出土遺物 12

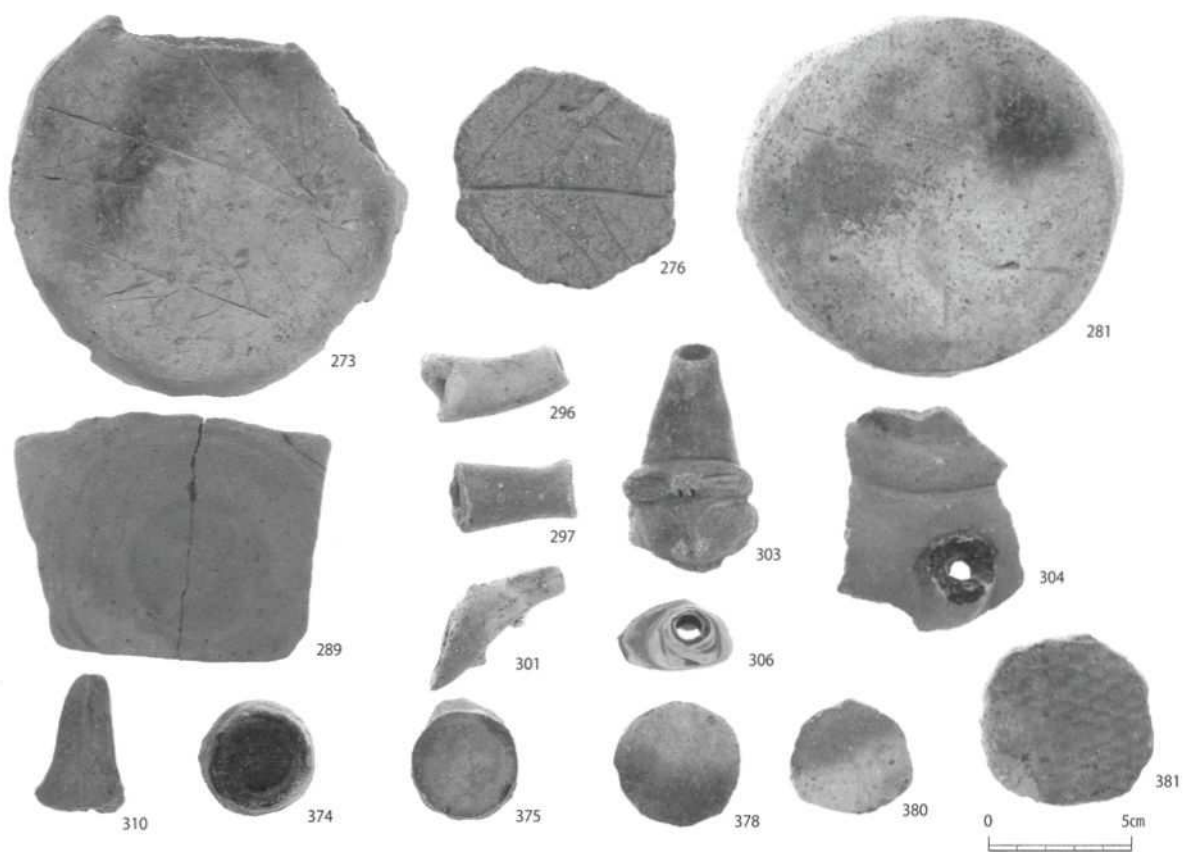


写真 25 A地点出土遺物 13

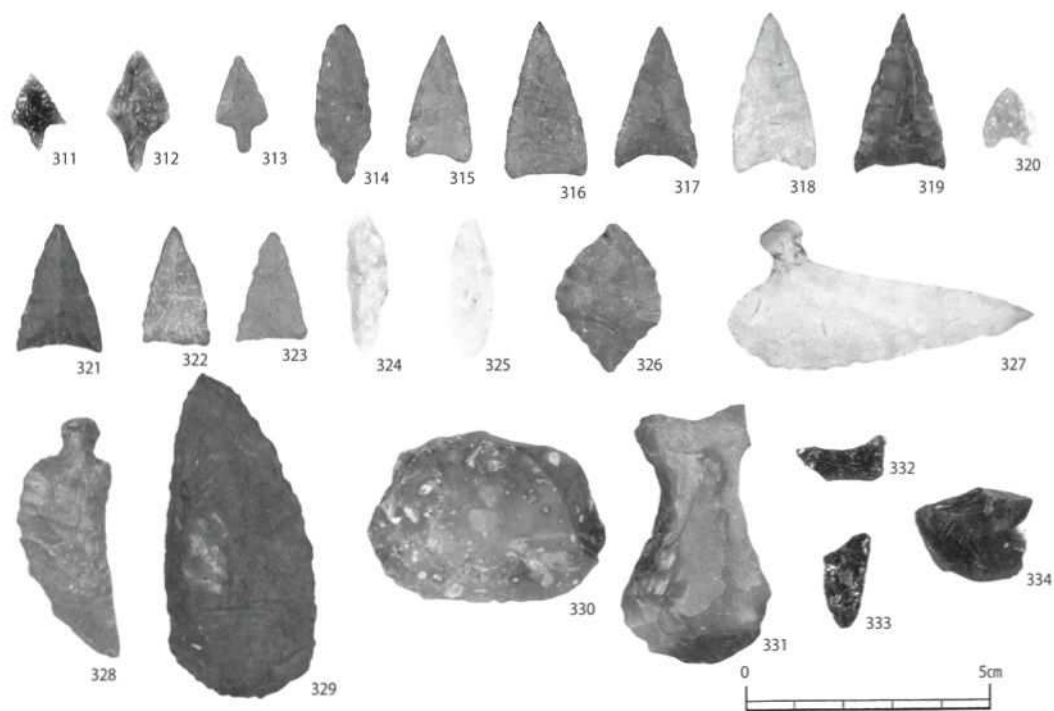


写真 26 A地点出土遺物 14

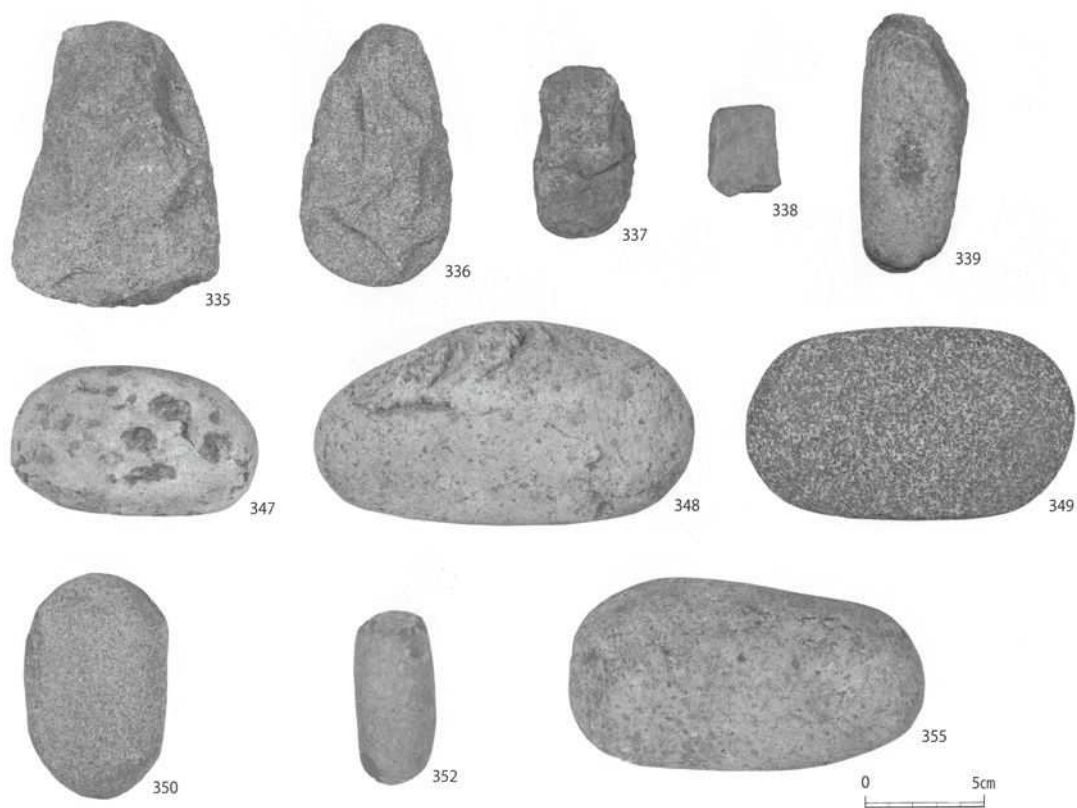


写真 27 A地点出土遺物 15

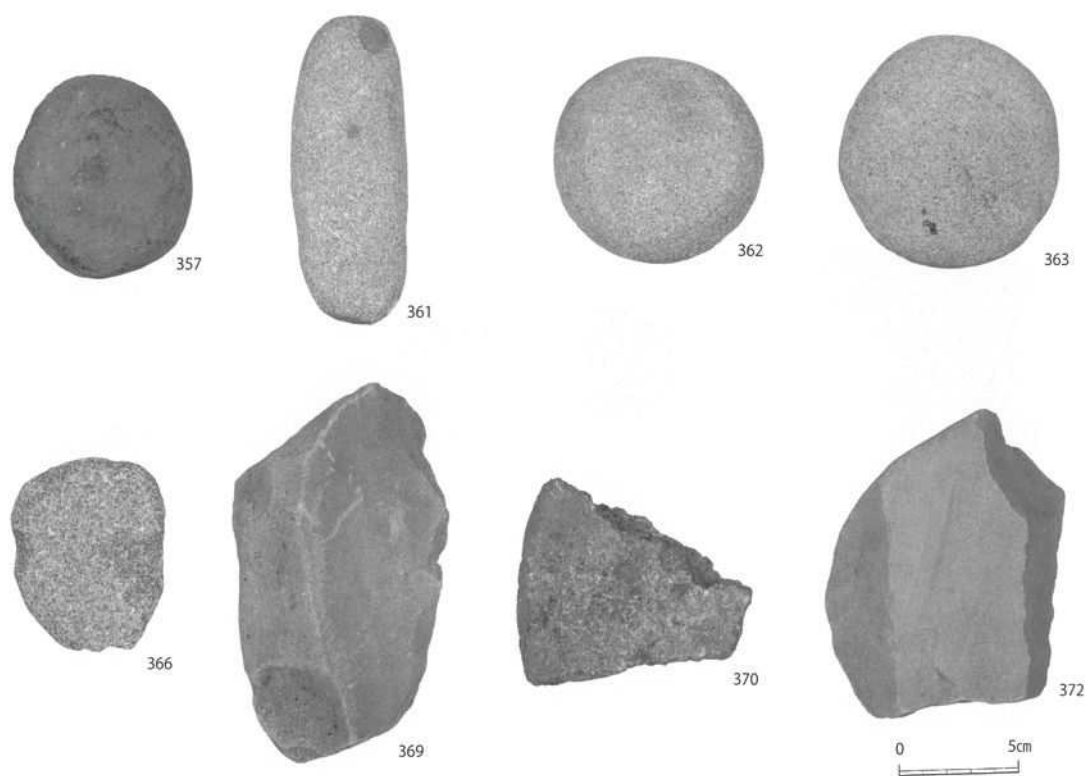


写真 28 A地点出土遺物 16

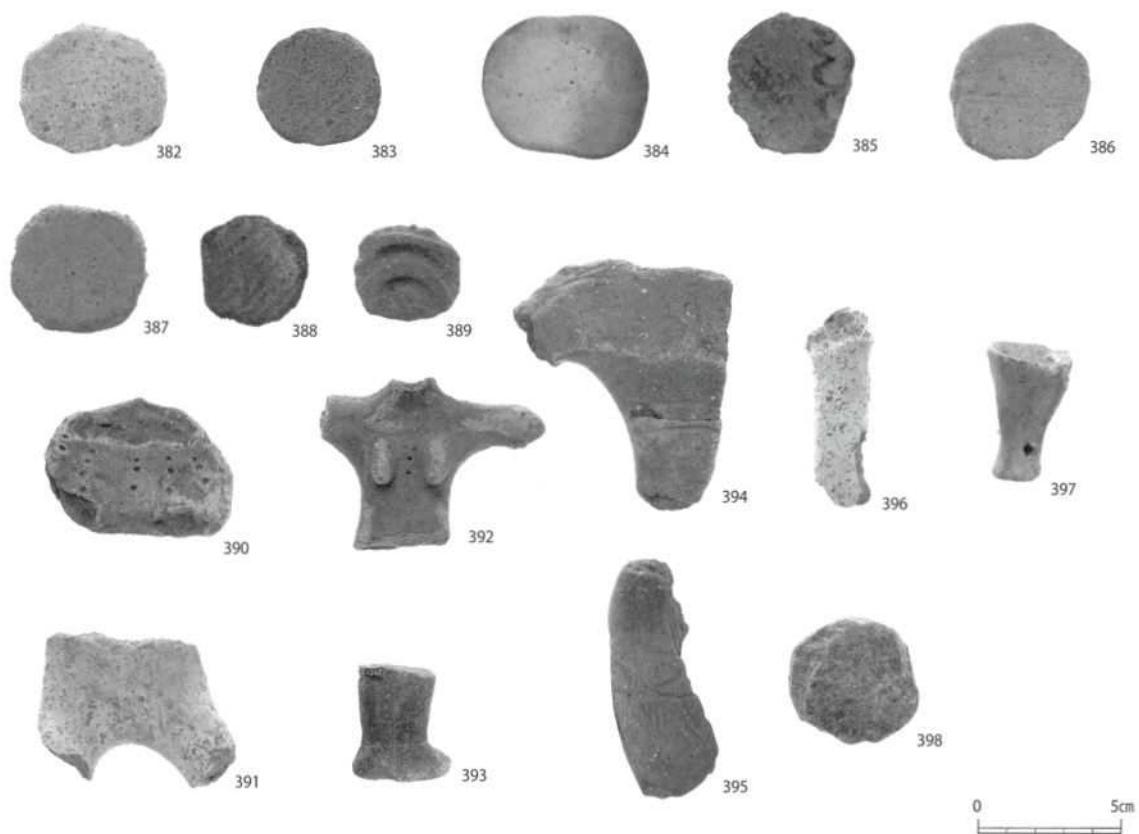


写真 29 A地点出土遺物 17

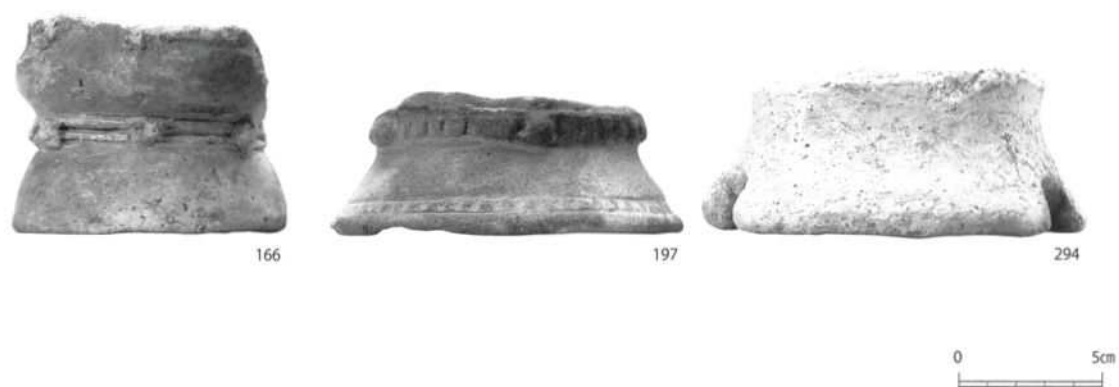


写真 30 A地点出土遺物 18

B 地点試掘調査



写真 31 B 地点 T 1・2 完掘状況（南東から）



写真 32 T 16 完掘状況（南から）



写真 33 B地点T 8・16 完掘状況（南東から）



写真 34 B地点T 1・2 遺物出土状況 1（西から）



写真 35 B地点T 1・2 遺物出土状況 2（東から）



写真 36 B地点T 1・2 遺物出土状況 3（東から）



写真 37 B地点T 16 遺物出土状況（南西から）

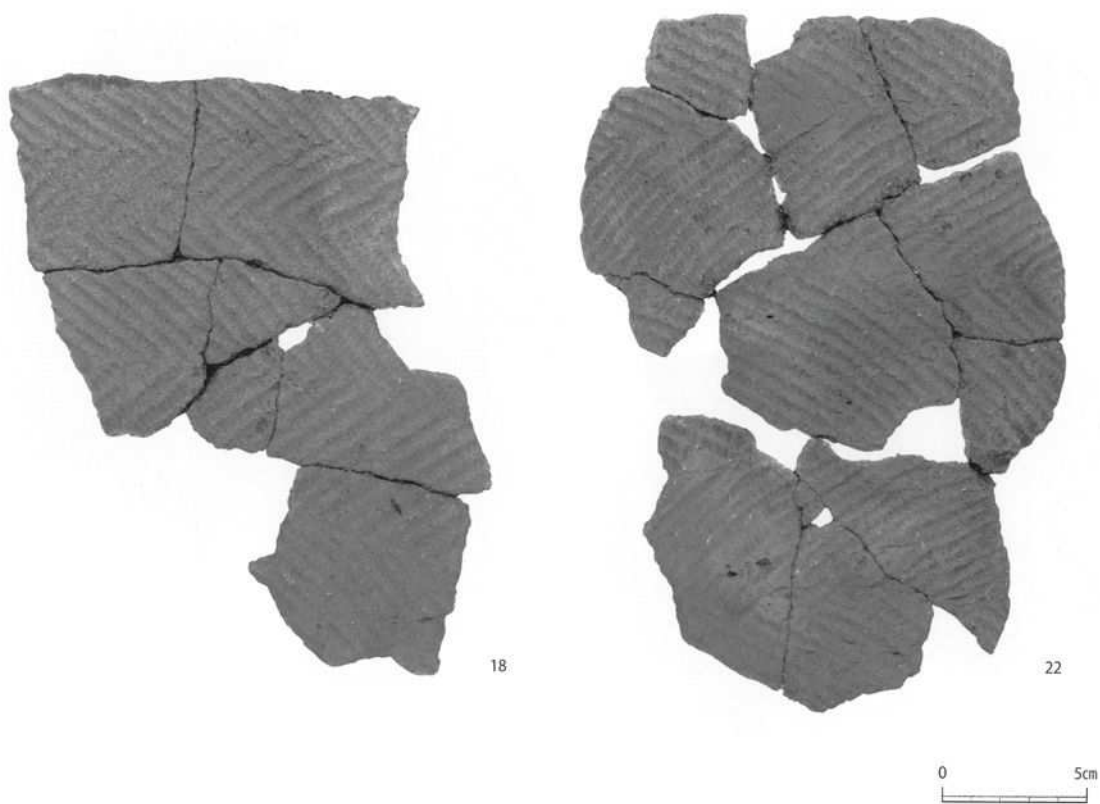


写真 38 B地点出土遺物 1

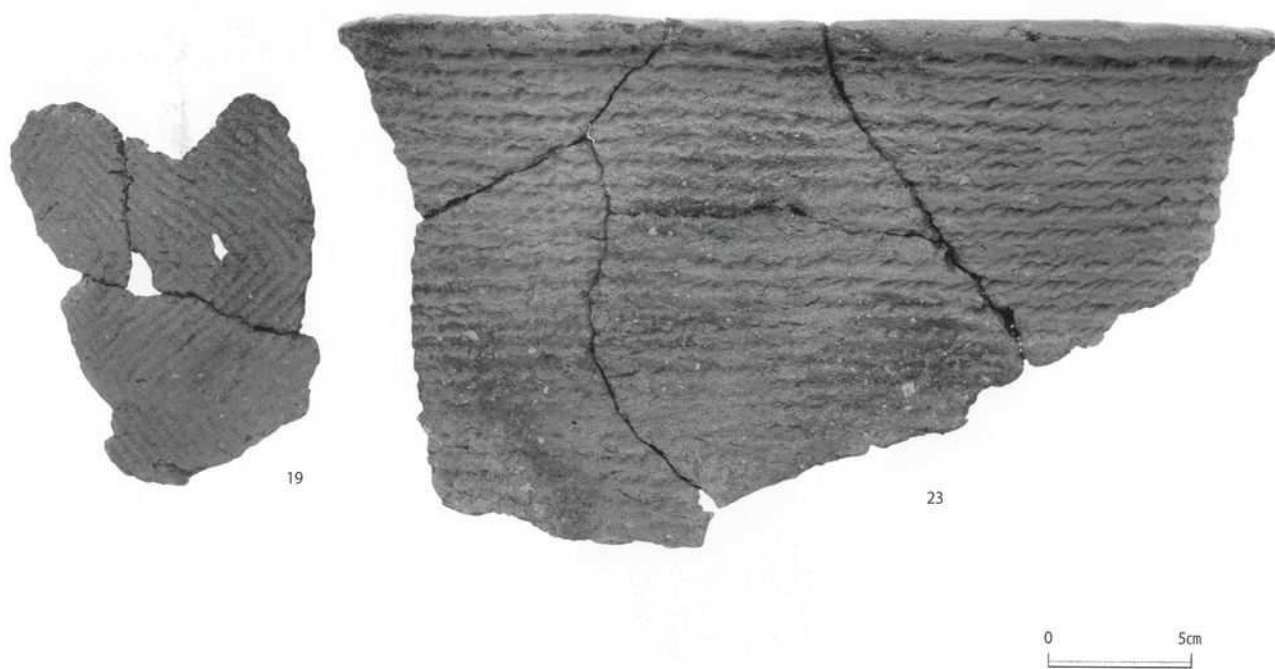


写真 39 B地点出土遺物 2

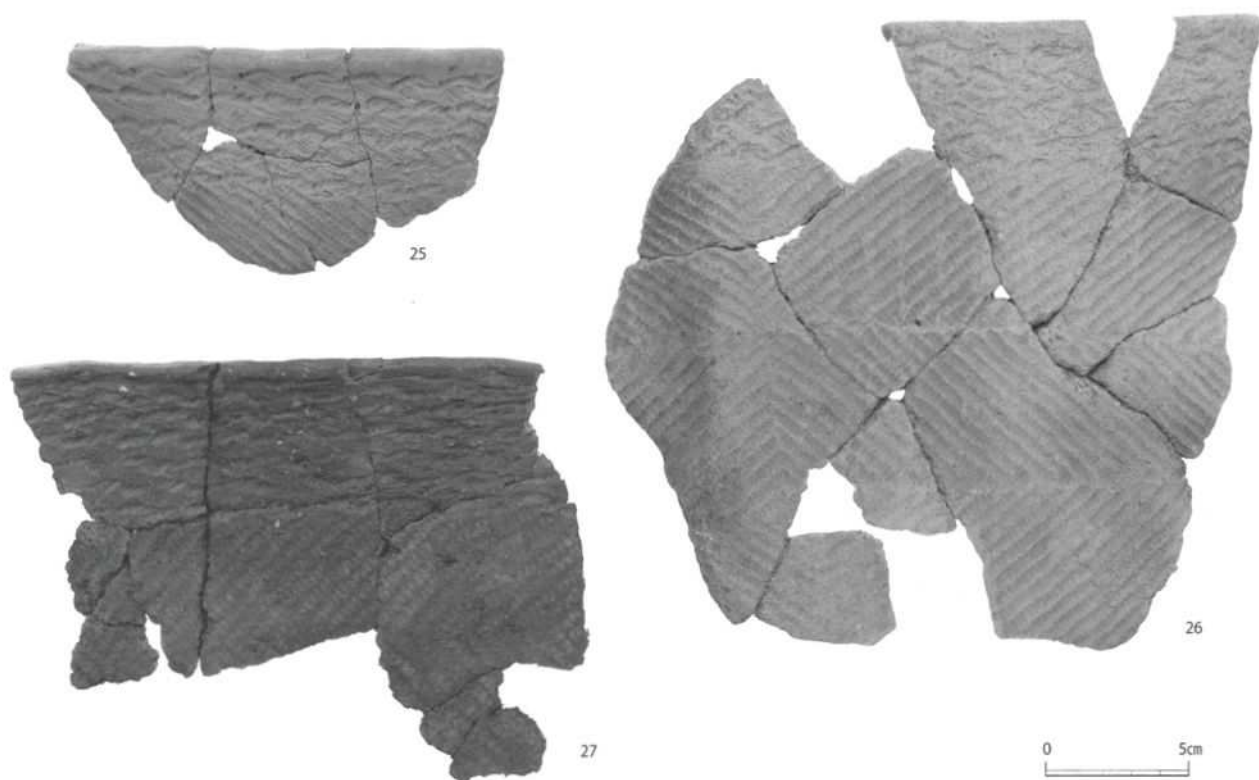


写真 40 B地点出土遺物 3

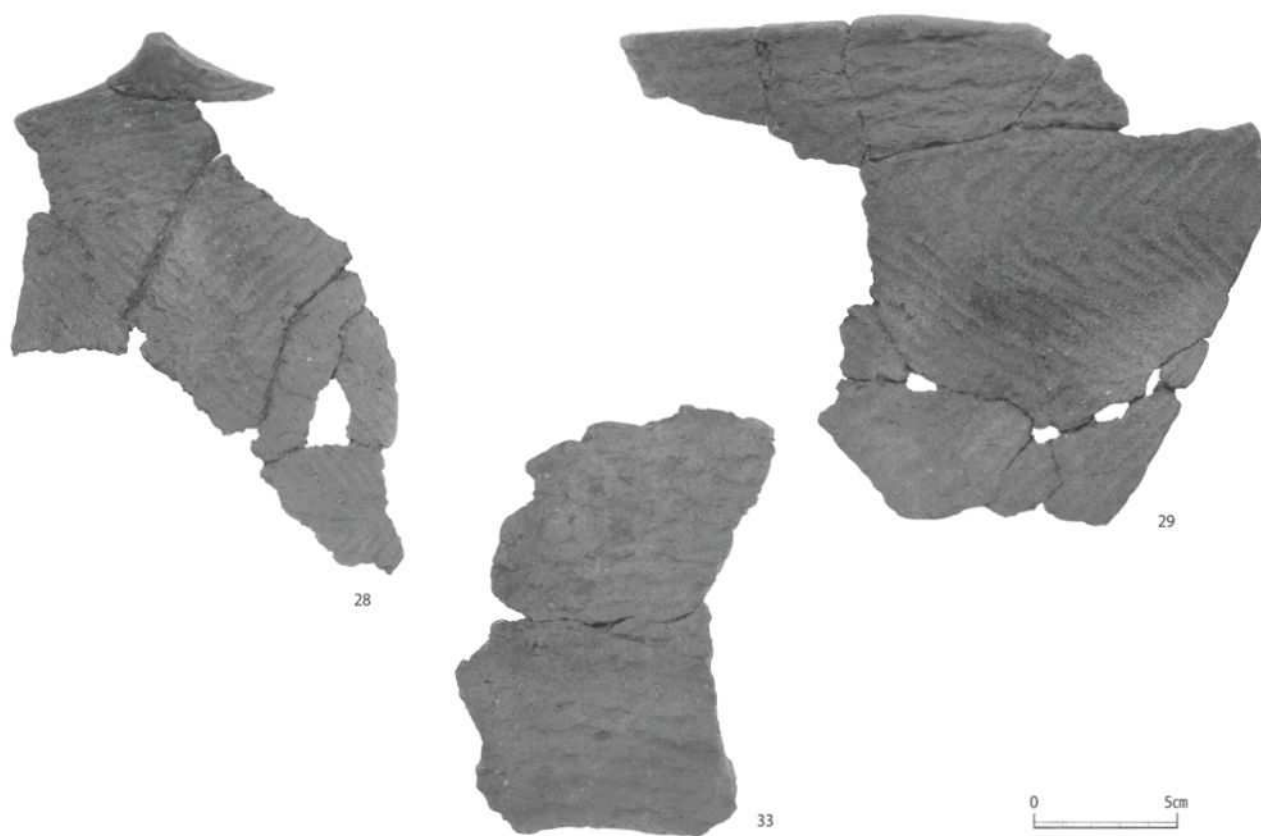


写真 41 B地点出土遺物 4

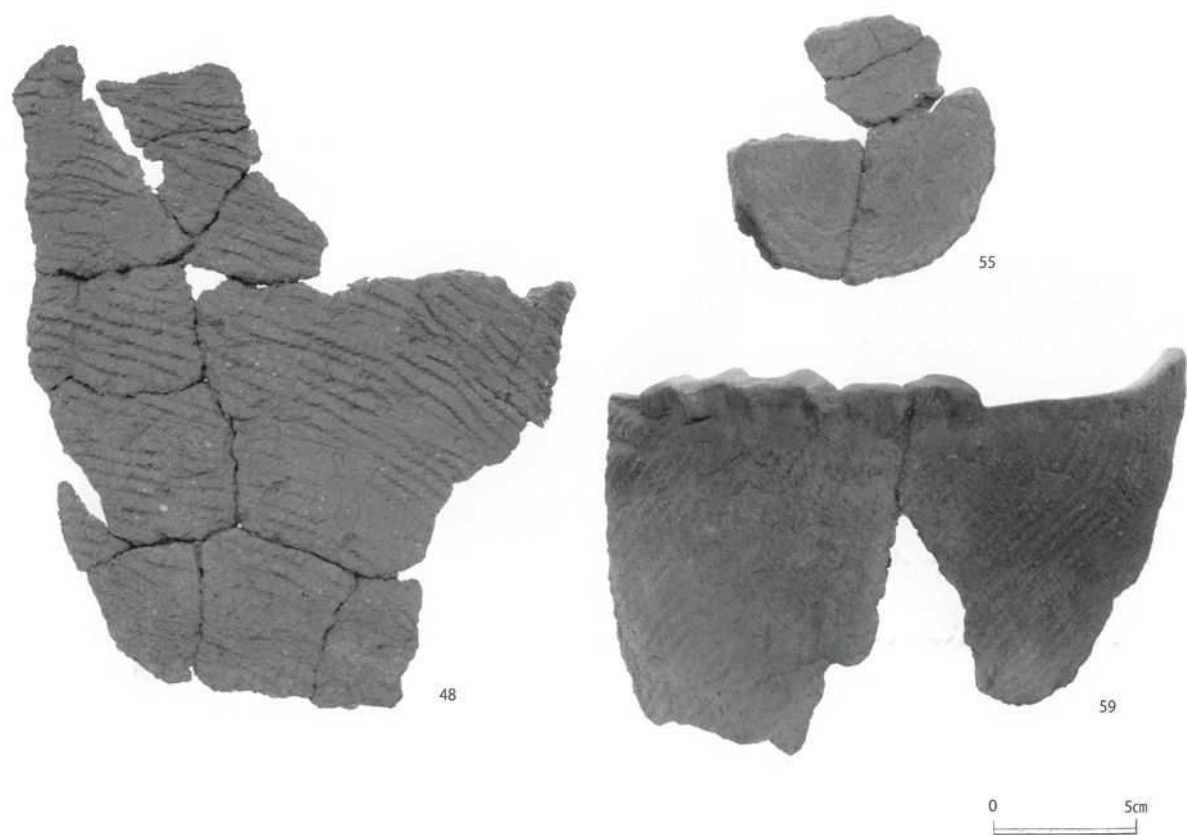


写真 42 B地点出土遺物 5

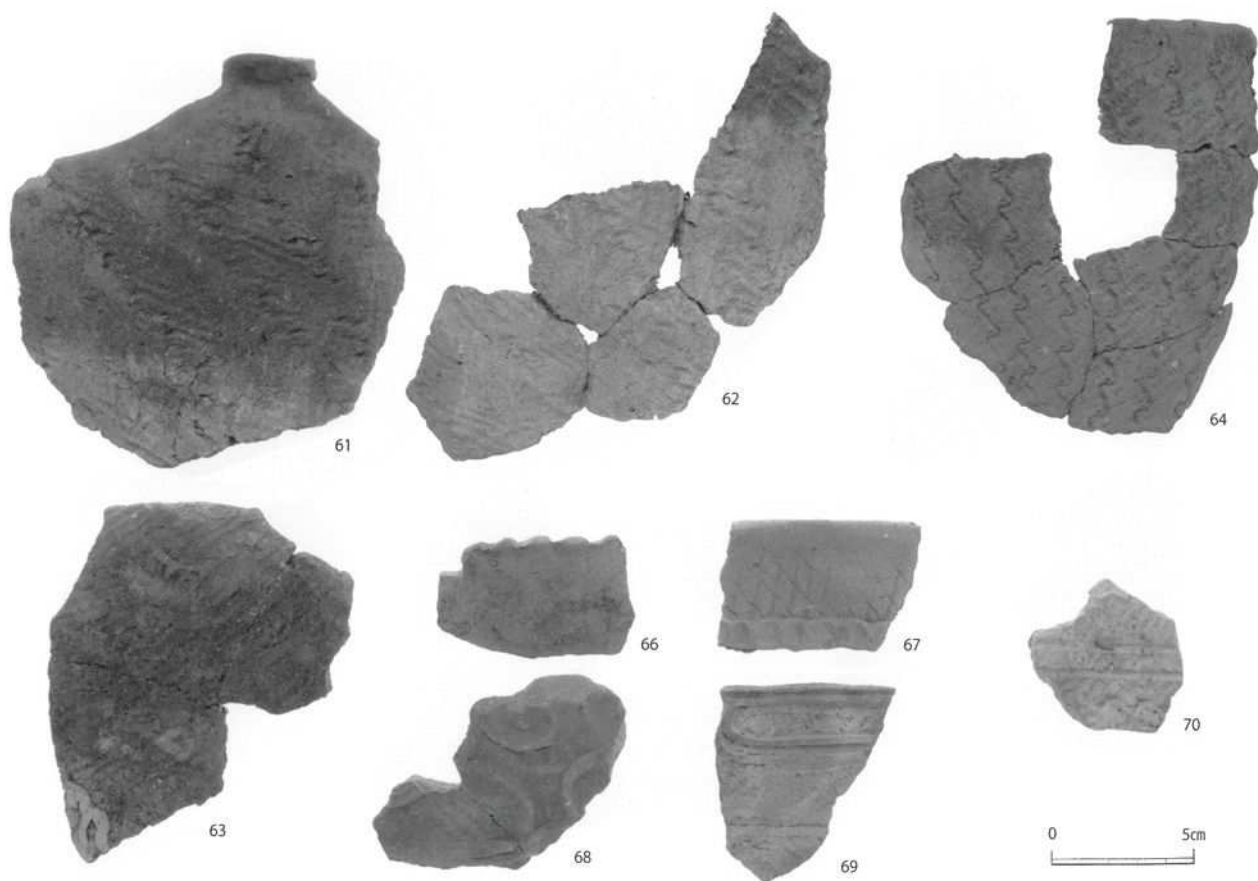


写真 43 B地点出土遺物 6

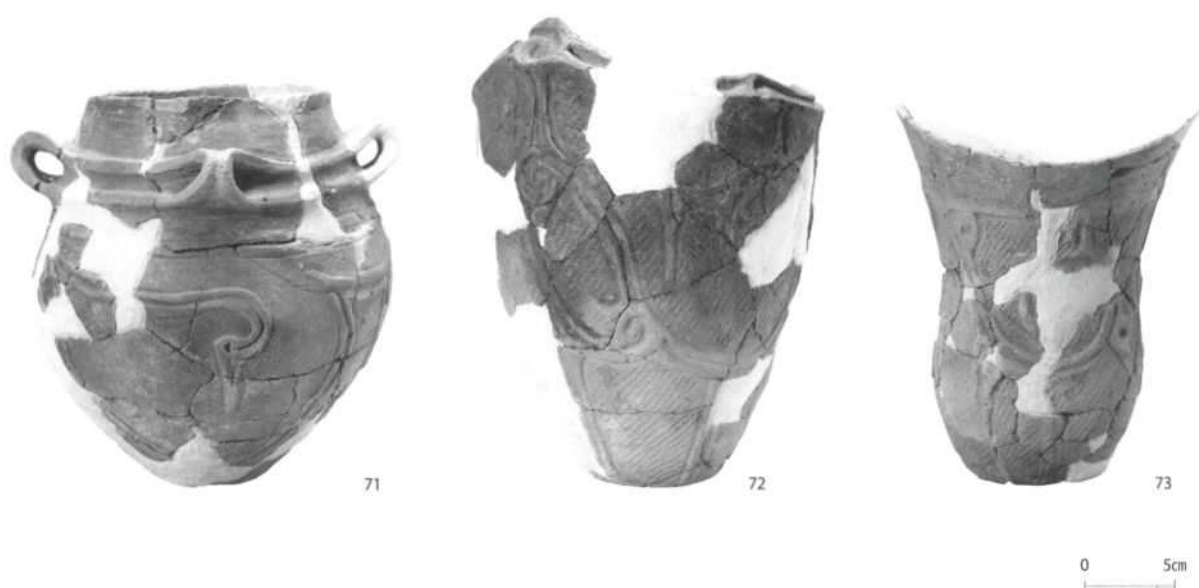


写真 44 B地点出土遺物 7

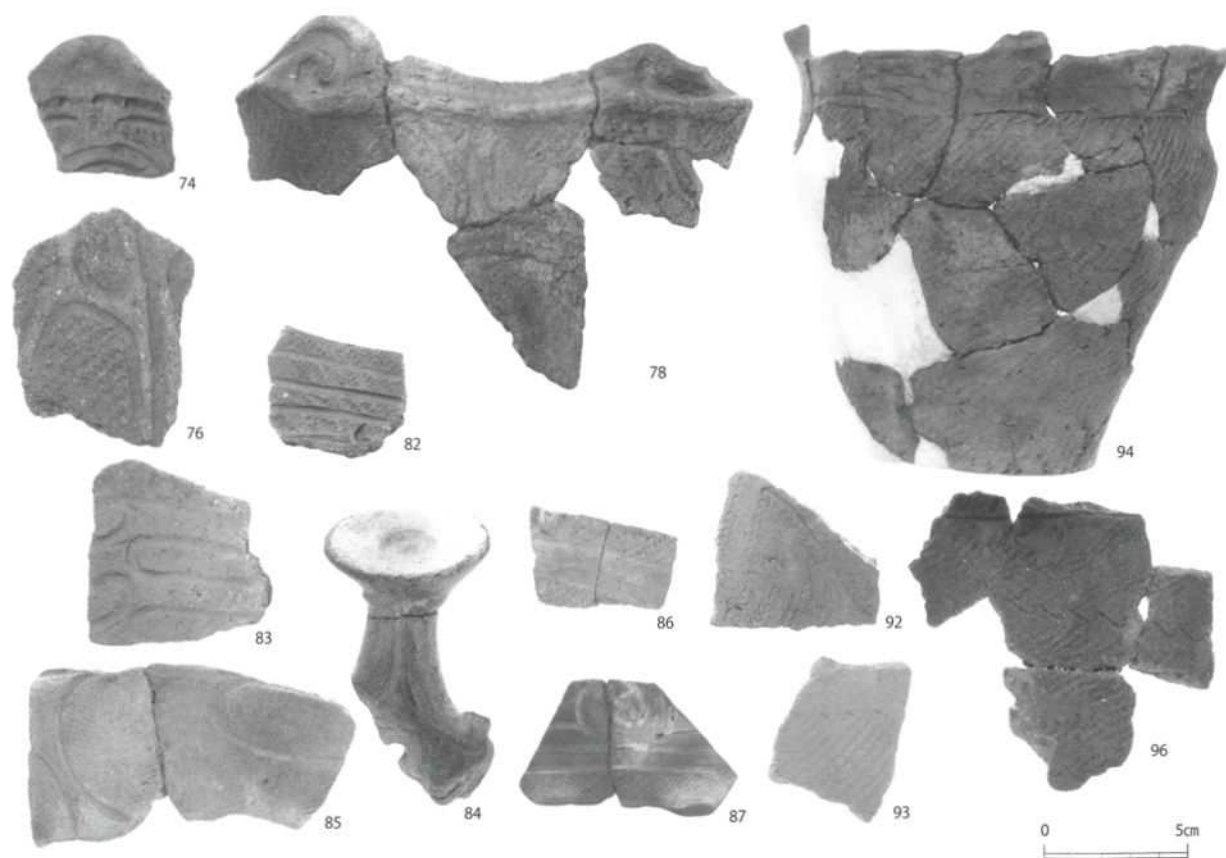


写真 45 B地点出土遺物 8

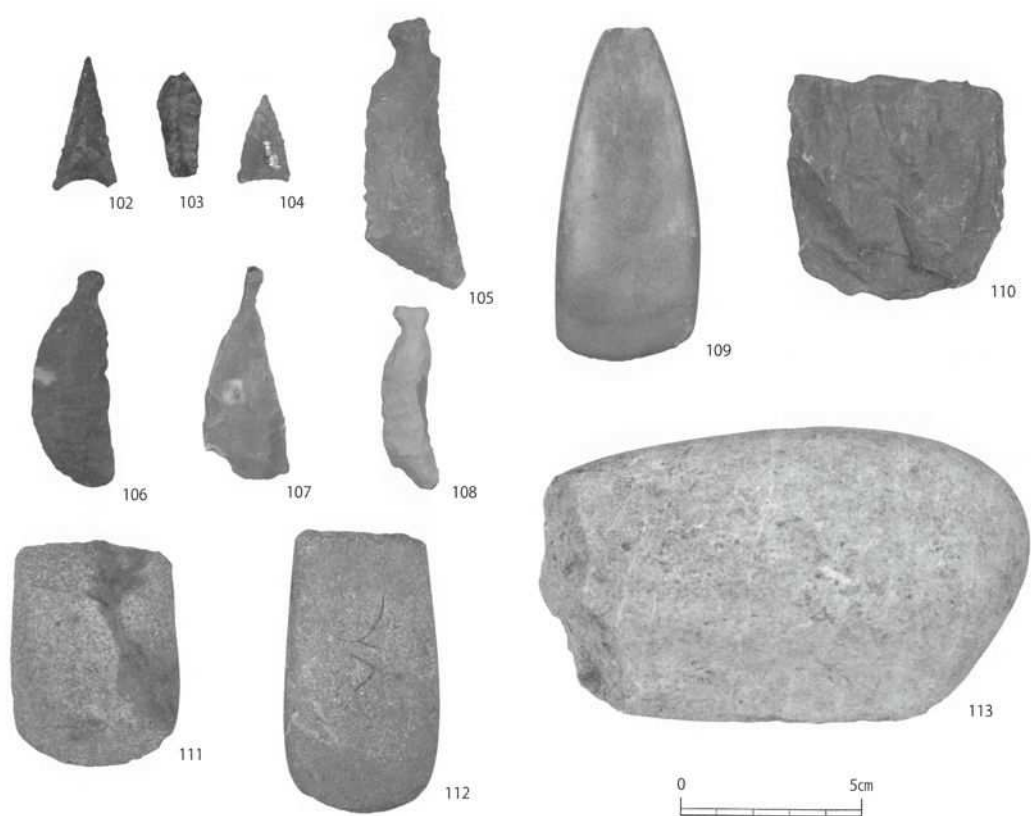


写真 46 B地点出土遺物 9

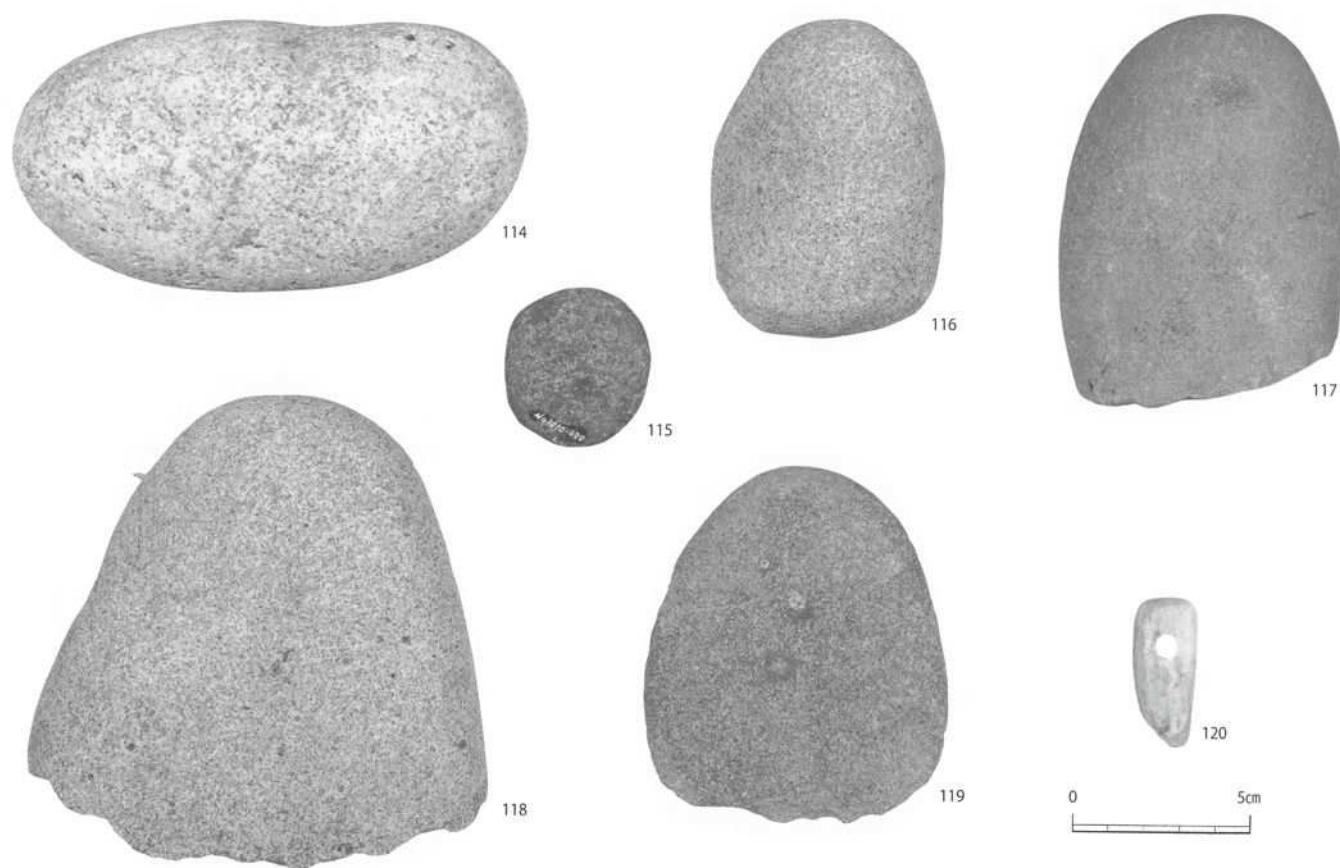


写真 47 B地点出土遺物 10

報告書抄録

ふりがな	おもえたていせきぐん（だい6じちょうさ）
書名	重茂館遺跡群（第6次調査）
副書名	東日本大震災復興関連発掘調査事業個人住宅関係発掘調査報告書 5
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	112
編著者名	江口 邦泰
編集機関	岩手県宮古市教育委員会文化課
所在地	〒027-0097 岩手県宮古市崎山第1地割16番地1
発行年月日	令和2年8月11日（2020年）

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群 (A地点)	いわてけん 岩手県 みやこし 宮古市 おもえ 重茂	3202	LG55-0284	39° 34' 54"	142° 1' 23"	230711 ~ 230831	89㎡	東日本大震災復興関連発掘調査事業個人住宅関係
おもえたていせきぐん 重茂館遺跡群 (B地点)	いわてけん 岩手県 みやこし 宮古市 おもえ 重茂	3202	LG55-0284	39° 34' 54"	142° 1' 28"	230803 ~ 230922	243㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
重茂館遺跡群 (A地点)	集落跡、城館跡	縄文		縄文土器 石器 土製品 石製品	黒曜石製石器が出土した。 縄文前期・中期・後期・晩期の土器が出土した。 北海道赤井川産と特定された黒曜石製の異形石器が出土した。 土偶が出土した。
重茂館遺跡群 (B地点)	集落跡、城館跡	縄文		縄文土器 石器 土製品 石製品	翡翠製品が出土した。 縄文時代前期・中期・後期・晩期の土器が出土した。

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	65	2006	『高浜VI地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査－市内遺跡発掘調査報告書5－』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	67	2006	『八木沢古館・八木沢中田遺跡・八木沢駒込1遺跡－市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書－』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	68	2006	『木戸井内IV遺跡－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	69	2006	『管ノ沢遺跡発掘調査－市内遺跡発掘調査報告書6－』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	70	2007	『山口館跡－市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	71	2007	『近内館跡－宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書－』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	72	2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査－市内遺跡発掘調査報告書7－』
9	1986	『宮古市遺跡分布図－昭和60年度版－』	73	2007	『弘川館跡第2次調査－宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書－』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	74	2008	『荷竹日向IV遺跡－市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
12	1987	『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報（骨角器篇）』
13	1987	『崎山遺跡群I－昭和60年度発掘調査概報－』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
14	1988	『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群（組合館）－昭和62年度発掘調査報告書－』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
15	1988	『崎山遺跡群II－昭和62年度発掘調査概報－』	79	2012	『重茂館遺跡群－第2次発掘調査報告書－』
16	1989	『千鶴遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』	80	2014	『八木沢駒込1遺跡・八木沢駒込2遺跡・市道磯鷲金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
17	1989	『トロノ木I遺跡－第1～7次発掘調査報告書－』	81	2014	『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込1遺跡・山口駒込2遺跡・市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
18	1989	『崎山遺跡群III－昭和63年度発掘調査概報－』	82	2014	『赤畑東遺跡－山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書－』
19	1989	『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	83	2015	『千徳城遺跡群－一条工務店建設工事関係発掘調査報告書－』
20	1989	『狐崎II遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	84	2015	『黒森町I遺跡－宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書－』
21	1989	『崎山トロノ木IV遺跡－昭和63年度調査報告書－』	85	2015	『管ノ沢遺跡・榎館I遺跡－市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書－』
22	1990	『狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』	86	2016	『千徳城遺跡群－アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
23	1990	『崎山遺跡群IV－平成元年度発掘調査概報－』	87	2016	『重茂館遺跡群－重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－（第3次調査）』
24	1990	『磯館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	88	2016	『重茂館遺跡群－重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－（第4次調査）』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』	89	2016	『重茂館遺跡群－重茂漁業協同組合重茂給油所建設関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－（第5次調査）』
26	1991	『崎山遺跡群V－平成2年度発掘調査概報－』	90	2016	『下大谷地VI、大谷地I遺跡－市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
27	1991	『青猿I・千徳城遺跡群－平成元年・2年度発掘調査報告書－』	91	2016	『千鶴遺跡－千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書－』
28	1990	『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』	92	2016	『金浜館跡－市道磯鷲金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
29	1991	『弘川I遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』	93	2016	『乙部II遺跡－田老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
30	1992	『金浜I遺跡（昭和58年度）・大付遺跡（平成2年度） 発掘調査報告書』	94	2017	『高浜II今ヶ洞遺跡－災害公営住宅整備事業（高浜）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
31	1992	『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』	95	2017	『刈屋清水野、下刈屋I遺跡－市道線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
32	1992	『黒森町I遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』	96	2017	『沼里館跡－整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
33	1992	『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』	97	2017	『日の出町II遺跡－災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
34	1992	『豊沢遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』	98	2017	『拝殿峠遺跡－市道北部環状線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
35	1992	『大付遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』	99	2017	『赤前III遺跡・赤前IV八枚田遺跡－市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
36	1992	『細越I遺跡・芋野II遺跡－農林課園係田地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』	100	2019	『千鶴IV遺跡（第2次調査）－東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書1－』
37	1992	『崎山遺跡群VI－平成3年度発掘調査概報－』	101	2019	『折壁館・中里遺跡・弘川I遺跡・和井内清水遺跡・重茂館遺跡群－上下水道部生活排水課市設浄化槽整備事業に伴う発掘調査報告書－』
38	1993	『萩沢II遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』	102	2019	『赤前I牛子沢遺跡－東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書2－』
39	1993	『早稲橋II遺跡－第1次・第2次発掘調査報告書－』	103	2019	『白石遺跡（第8次・9次調査）－崎山地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
40	1993	『崎山遺跡群VII－平成4年度発掘調査概報－』	104	2019	『越田松長根I遺跡－東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書3－』
41	1994	『崎山遺跡群VIII－平成5年度発掘調査概報－』	105	2019	『高浜V下地神遺跡－東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う倉庫建築関係発掘調査報告書－』
42	1995	『赤前I牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』	106	2020	『越田松長根I遺跡－新田平乙部地区道路整備関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
43	1995	『磯館山遺跡発掘調査報告書』	107	2020	『神田沢遺跡－神田沢地区宅地造成関係埋蔵文化財調査報告書－』
44	1995	『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』	108	2020	『早稲橋II遺跡（第8次調査）－宮古市消防対策課防火水槽整備事業に伴う発掘調査報告書－』
45	1995	『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡－市道浦の沢線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』	109	2020	『島田III遺跡－市道河南高浜線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
46	1995	『花原市遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』	110	2020	『赤前V柳沢遺跡（第2次・第3次調査）－東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書4－』
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋II遺跡・崎山貝塚』	111	2020	『津軽石大森遺跡－津軽石地区津波復興拠点整備事業関係発掘調査報告書－』
48	1996	『大付遺跡－平成5年・6年度発掘調査報告書－』			
49	1997	『花原市遺跡－平成8年度発掘調査報告書－』			
50	1997	『白石遺跡－第6次発掘調査報告書－』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』			
52	1998	『藤畑遺跡－平成9年度発掘調査報告書－』			
53	1999	『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜屋ヶ沢・小堀内III遺跡－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
54	1999	『千鶴IV遺跡－水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
55	1999	『崎山貝塚－第12次・13次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内II・木戸井内III・上村III遺跡－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
57	2002	『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』			
58	2002	『小沢II大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書2－』			
59	2003	『大又沢VI遺跡－東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書－』			
60	2003	『上根井沢I遺跡・沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書3－』			
61	2003	『早稲橋II遺跡第6次調査－市内遺跡発掘調査報告書4－』			
62	2003	『下在家I遺跡－平成14年度発掘調査報告書－』			
63	2004	『大程II遺跡・平浜遺跡－市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書－』			
64	2005	『弘川館跡－瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書－』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 112

おもえ たて い せきぐん
重茂館遺跡群
(第6次調査)

－東日本大震災復興関連発掘調査事業個人住宅関係発掘調査報告書 5－

印刷・発行 令和2年8月11日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒027-8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号
TEL. 0193-72-2111

編集 宮古市教育委員会事務局 文化課
〒027-0097 宮古市崎山第1地割16番地1
TEL. 0193-65-7526

印刷 株式会社文化印刷
〒027-0037 岩手県宮古市松山5地割13番地6
TEL. 0193-62-4578
